



未知への挑戦・崗日嘎布山群および念青唐古拉西山群を探る

Peak quest of the Kangri Garpo Mountains and the Nyainqentanglha West Mountains

神戸大学山岳会

百周年記念

発行 2016年7月1日

編著 井上達男 Tim Inoue

著者 山田健 Takeru Yamada 山形裕士 Hiroshi Yamagata



***** 目 次 *****

はじめに -----井上達男-##

第一部 崗日嘎布山群 -----##

第一章 崗日嘎布山群概要 -----井上達男-##

1) 山群スケッチ -----##

2) カンリガルポ山群・幻の6000メートル峰47座-----##

3) 登山史 -----##

4) カンリガルポの特殊な地域性 -----山田健-##

第二章 崗日嘎布山群の山々 -----井上達男-##

1) 山群の最高峰とアタ氷河を取り巻く山々 -----##

2) 未知の東南部に迫る -----##

3) ラゲー氷河の山々 -----##

4) ミドイ氷河周辺の山々 -----##

5) 山群西部の山々 -----##

第三章 崗日嘎布山群主要ピークの同定方法について -----井上達男-##

第四章 参考資料 -----##

第五章 Hidden Six-thousanders in the Kangri Garpo Mountains -----Tim Inoue-##

第六章 Glacier receding in the Ata Glacier -----Tim Inoue-##

第七章 Peak List (Kangri Garpo Mountains) -----##

第二部 念青唐古拉西山群 Nyainqentanglha West -----##

第一章 北東部および中央部の山々 -----井上達男-##

(1) サムダイン・カンサン山塊 Samdain Kangsang Group -----##

(2) 念青唐古拉西山群中央部(主峰群およびその周辺) -----##

(3) ジャナリツ、ツンチ・チュプ山塊 -----##

第二章 バダリ峰周辺の山々(2015年バダリ峰登山隊による) -----井上達男-##

(1) バダリ山塊の山々 Bada Ri Group -----##

(2) チャグラ山塊(ギラ谷、グリーン谷分水嶺の山々) -----##

(3) キチ(キーツ)、ルチ(ルーツ)山塊 Kyizi- Luzi Group -----##

第三章 ショグラ峰周辺の山々(2015年調査隊による) Xoggu La -----山形裕士-##



はじめに

「あの峠に登ったらその先にはどんな景色があるのだろうか。」とだれもがそう思い、汗して峠に登る。眼前に展開する白銀に輝く山々に覚える感動は何物にも代えがたいと感じるだろう。そしてあの尖った山はなんだろう、となりの丸い頂上は、と興味が尽きずに時間を忘れる。日本の山なら抱いた疑問は少し努力すれば簡単にその答えが得られるだろう。では東チベットの崗日嘎布山群や念青唐古拉西山群ではどうか。

山座同定の動機は極めて単純で純粋な好奇心である。しかし、それが地図もなく資料や文献も乏しい山脈であればどうなるであろうか。崗日嘎布山群に興味を持っておよそ25年、ようやくその一部が明らかになろうとしている。

探検時代の19世紀に戻ると当時地図の空白部は広大であった。たとえばヒマラヤの北を東に流れるヤル・ツァンポー川はどこに流れているのかが論争されていた。数々の探検隊がその謎に挑んだ結果、大屈曲点を經由して南に方向を変え、ブラマブトラ河となりベンガル湾に注いでいることが分るのに夥しい年月を重ねている。

今日、衛星による地球観測が進むと同時にGPSによるきわめて正確な位置情報が得られるようになってヒマラヤの山々を同定することはさほど困難ではなくなっている。しかし、それは現在まで積み重ねられてきた多くの情報を礎にしてより正確な同定ができていたのであって、正確な地図もない、写真もない、探検した人の報告も乏しい地域ではそう簡単なことではない。

本研究は現代の奇跡ともいえる地球上に残された最後の山岳秘境である東チベットの崗日嘎布山群を対象に山座同定を試みた。おそらくは正確であろう中国解放軍が所有する地形図が国家機密として公開されていないことも研究動機の後押しとなっている。

幸い、神戸大学山岳会・山岳部は4度にわたって遠征隊を崗日嘎布山群最高峰のあるアタ氷河に送り込んでいる。その結果多くの情報を入手することができ、同定に大きな力となった。また、松本徃夫氏、中村保氏をはじめとする横断山脈研究会の方々には貴重な情報を惜しみなく提供いただきこの報告をまとめることができた。紙面をお借りして感謝したい。

また、昨今の強化されてきた中国未開放地域への外国人立ち入り禁止措置は、従来特別許可が得られたクーラカンリエリヤなど未踏峰の残されている地域にも拡大され、トレッキングや旅行などの名目で山岳地域に入ることも許されなくなっている。崗日嘎布山群に再び未踏峰を求めて遠征隊派遣計画を進めていた神戸大学山岳会も、従来の特別許可は得られず、代替地域の未踏峰の登山許可申請を繰り返したが、結果として未開放地域の登山は全て不許可となった。

その結果、開放地域となっている念青唐古拉西山群の未踏峰、バダリ(6516m)に2015年に遠征隊を派遣した。バダリ峰は断念したが、その南西稜にあるピーク、タリ 6330mの初登頂に成功した。念青唐古拉西山群には多数の登山隊が入山しているのでその未開性は崗日嘎布山群とは比較にならないほど劣るが、調べてみると6000m峰が崗日嘎布山群の4倍程度存在しており、今後多数の登山隊が入山すると思われる。

そのような背景から、本書に念青唐古拉西山群の山座同定の結果も掲載することにした。

本書が今後の登山隊の計画に微力ながら参考となれば幸いである。

本研究報告内容にはまだまだ検討不足や間違いもあろうかと思われるが、あえて発表することでご批評、ご批判を頂き、より精度の高い同定の一助となることを願っている。

編著者 井上達男 (2016年7月1日)

The east Tibet has 500 or more over six-thousand meter peaks. The Alpine Club of Kobe University (ACKU) has been studying unknown mountains in the east Tibet for 30 years after the first ascent of Kula Kangri 7554m in 1986. The Kangri Garpo Mountains was recognized by them during their return travel from Lhasa to Chendu through the National Road G318. The mountain range runs about 280km from Tong Mai to Zayul. The only peak, Lopchin was climbed in 2009 by ACKU and 46 six-thousanders are still remaining as un-explored peaks.

We have identified 47 un-known peaks over 6000 meters and some other close-to-6000 meter peaks.

In addition the study about the Kangri Garpo Mtns, We will disclose our works of peak identification of the Nyainqentanglha Mtns as well. ACKU made the first ascent of Ta Ri 6330m in the middle part of the mountains in 2015. The Nyainqentanglha Mtns is relatively well known because of its geographical situation. We can pick up many expedition records, but we found many un-identified six-thousanders in the mountains.

Since China Government has recently banned mountain expedition to the closed region for foreigners, this book may not be useful for years. We hope the readers of this book will discover the value of study when China will open the mountain range in the near future.

Author and editor: Tim (Tatsou) Inoue: July 1st, 2016

Visit our Web site: <http://acku.net>



第一章 崗日嘎布山群概要

1) 山群スケッチ

米国の山岳雑誌 *Appalachia* [Summer/Fall 2012] (注-1) に *Japanese Alpine News* 2011(JAC 発行)に掲載された「カンリガルボ山群研究」についての書評が掲載されている。

「Scholarly Mountaineering(学究的登山)」と言う表題で未知の山群の解明努力について高く評価した記事となっている。神戸大学山岳会の末踏峰登山の伝統的なスタイルが評価されたことであり誇らしくもあり、遠征の成果は広く世界的に発表していくべきだとの思いを強くした。参考までに日本語訳を以下に示す。

Scholarly Mountaineering (学究的登山)

東チベットの探検登山は現在ほぼ完全にストップされているが、そこにある何百ものほとんど知られていない山々の時として混乱した山脈地形の学究的な解明そのものを止めることはきませんでした。神戸大学アルパインクラブ(ACKU)の井上達男(ティム)は、インドアクライマー(armchair mountaineer)ではありません。彼は、2009年に広大なカンリガルボ山群の中で初登頂を成し遂げた遠征隊の隊長でした。今日、彼は何百もピークが存在する山群の、特に主な 6,000m 峰の山座同定を実施しました。

カンリガルボ山群は北西の通麦から南東四川省境界近くの際隅にかけて、およそ 280km の山脈です。既知の唯一の登山はロブチン峰(6,805m 山群の第2の高峰)で、2009年の登攀です。(Alpina, *Appalachia*, Summer/Fall 2011, LXII no.2, page 121 参照)。

今まで、ほとんどの山は登られていなかったと同時に無名でした、また位置と標高は不確かでした。井上は、このギャップを満たすのに大いに役立つドキュメントを提示しました。(Japanese Alpine News, Volume 12, pages 104-131 参照) 今時、グーグル・アースや衛星技術を使った彼の仕事は単純なことだと考えられるかもしれませんが。しかし、それは、事実ではないと分かりました。井上は古いソビエトの地図および中国の人民解放軍の地図に加えて、グーグル・マップ、グーグル・アース、および他の技術、ASTER, SRTM などあらゆるアルファベット略語のデータを使用しました。不運にも、彼は最新の中国版地図にアクセスしませんでした。

作業プロセスは、何百もの主に遠隔・未探検の山群の高さおよび位置を確立する骨の折れる努力でした。明確な ID (井上は「KG 番号」を使用)を付け、イメージを集めて写真集とし、以前から名前が存在する

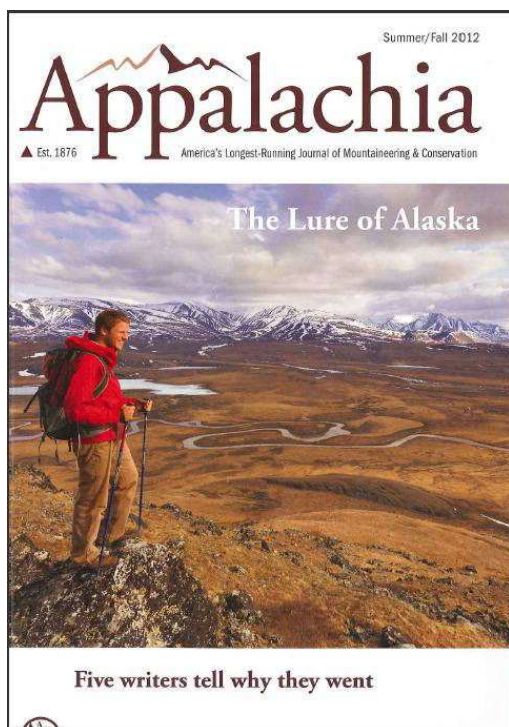
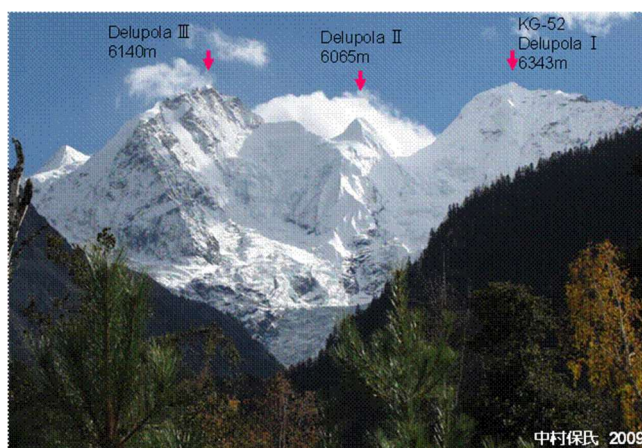


図-1 *Appalachia* [Summer/Fall 2012]表紙

場合、地図位置に名前および KG 番号を関連づけています。この努力について井上は、4つの神戸大学の遠征および、彼が記述している長い調査者リストにある人達によって得られた写真を蓄積しました。もちろんリストのトップには中村保の名前があります。写真集は、フランク・キングドンウォードによって1933年に唯一得られた写真を組込んでいます。(彼の能力なのか、または運なのか、驚いたことにキングドン・ウォードは、ルオニイ峰(Ruoni; 280km の山脈全体の最高峰)を撮影しています。)

井上の観察では、「ASTER とグーグル・アースから抽出された全てのデータで、尖ったり幅が薄い頂上構造を持ったりするピークは実際よりかなり低い高さを示す、・・・そして重厚な形のピークあるいは丸形ピークでは実際より少し低いデータとなる。」となっている。したがって、彼は次の仮説を立てた。「衛星調査から抽出されたデータはすべて[実際高度]より低く表示している。」

この結論については議論する人もいますが、しかし、ヒマラヤ山脈のグーグル・アース・イメージを同じピークのよい写真と比較する人は誰でも、明白な平滑化結果に気づくでしょう。



写真説明:中村保: 井上達男は遠隔地で未探検の山脈であるチベットの Kangri Garpo 山群中の何百という山々の同定と標高確定のために利用可能な衛星および他のデータを使用している。この画像は彼の仕事例です。Delupola 山群の3つの 6,000m 峰です。KG 番号は彼自身の発案である。

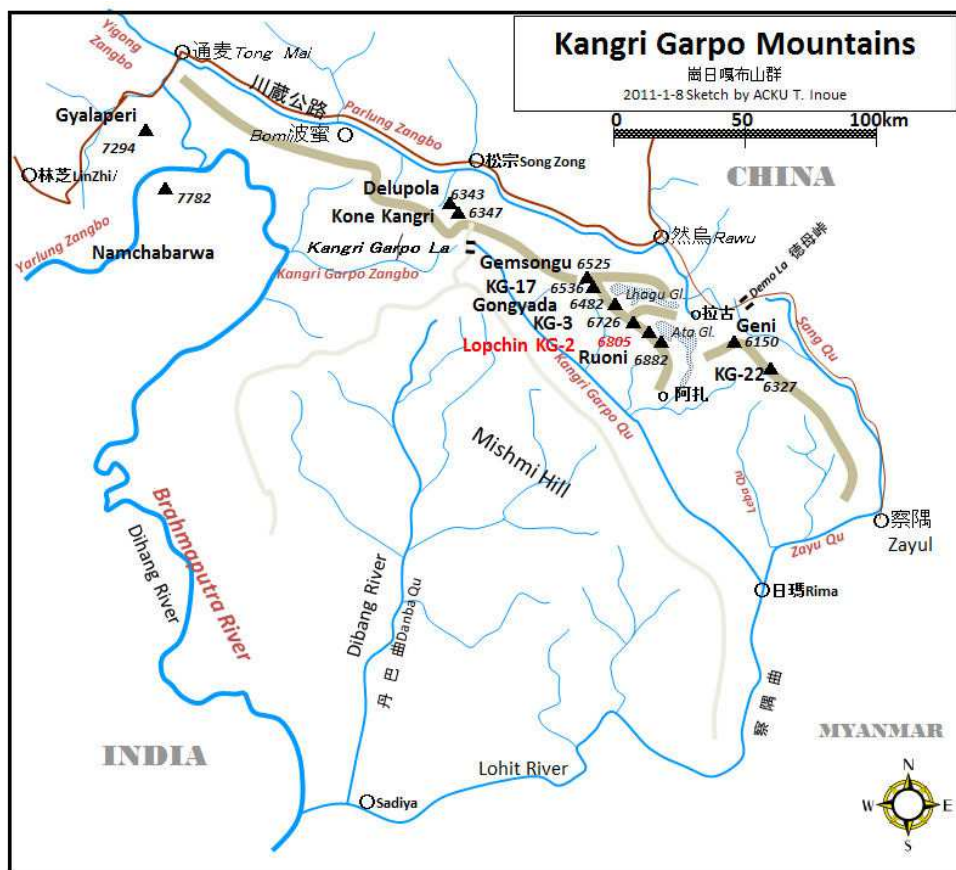
井上の主な作品は、6,000m 以上のカンリガルポ山群 47 座の表です。(Kangri Garpo Six-thousanders の数はこれまでの評価では 30 でした。) 表は各ピークの KG 番号、緯経度 (分、秒まで)、最良の評価標高およびもしあれば名前をリストしています。ほとんどの登山家は、「いままで誰も聞いたことの無い」山に対して関心がありません。もっと強い理由は、位置と高さが未知であるから興味が無いということで。したがって、このリストは、恐らくこれからしばらくの間 Kangri Garpo 登山の指針となるでしょう。

--- Jeffery Parrette, Alpina (編集者)---

(注-1)Appalachia Mountain Club: 米国東部を中心に活動している AMC(Appalachia Mountain Club)。135 年以上雑誌発行を継続している。

さて、カンリガルポ山群(Kangri Garpo Mountains; 崗日嘎布山群)についてまずは大まかに捉えてみたい。地図-1 にその概要を示す。ヒマラヤ山脈にあるヤル・ツァンポー川はヒマラヤの北を東に流れ、ナムチャバルワ(Namchabarwa 7,782m)の北からいわゆる大屈曲点(Great Bend)で南に大きく方向転換しブラマプトラ川となってベンガル湾に流れ着く。その東にカンリガルポ山群は全長約 280km の大きな山群を形成している。山脈の南西には湿潤なミシュミ(Mishmi)高原が展開しているが、インドのアルナチャール・プラデッシュ州であり、いわゆるマクマホンラインがあり中国との国境が定かでない地域である。

ベンガル湾の湿った気団がアッサムの平地からカンリガルポ山群にぶつかって多量の降雨、降雪をもたらす一方、山脈の北東は東チベットの乾燥高地となっている。境界線にある山々の天候はちょっとしたバランスの崩れで大きく変化する。登山の成功は天気次第という地域でもある。

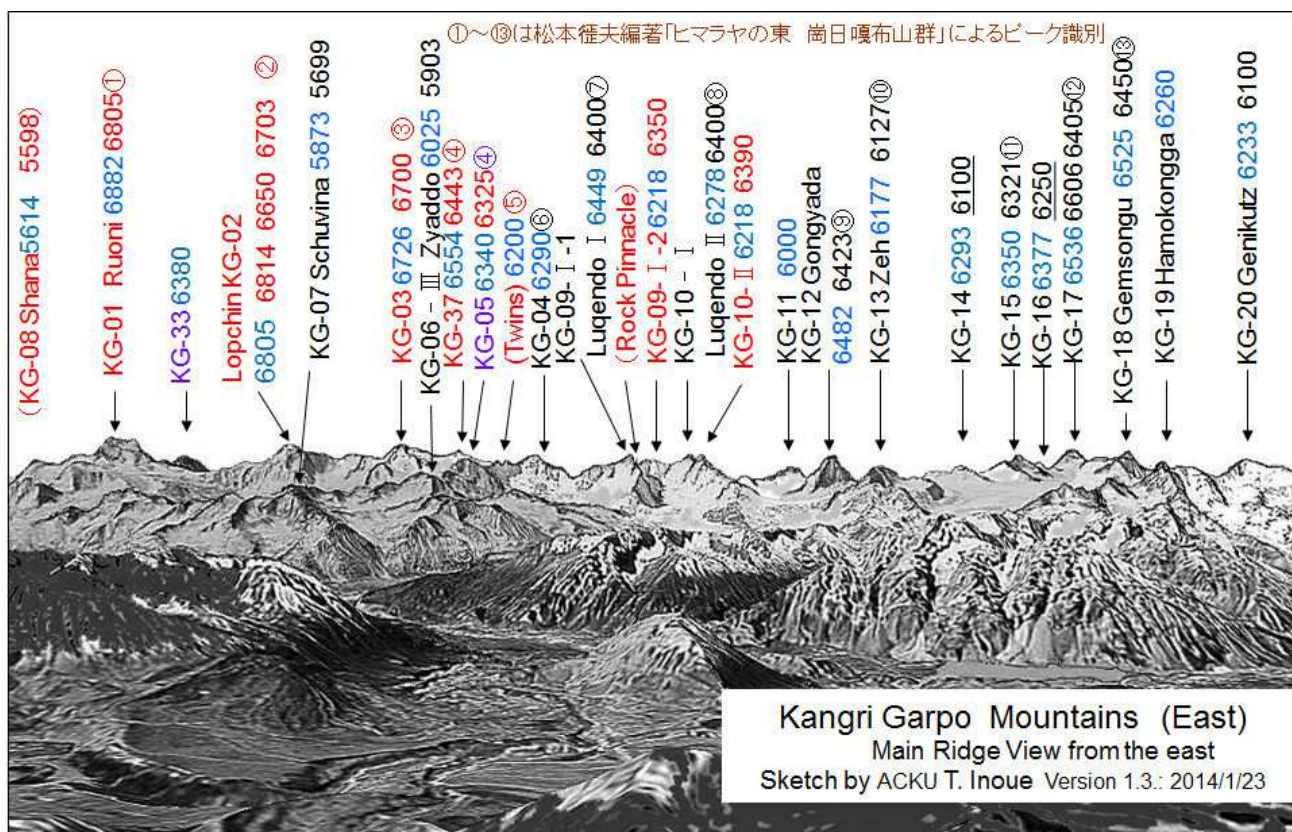


カンリガルポ山群はまだ未知な山域で不明な山々も多く、ほんの少し姿をとらえた山々など、解明すべき課題が多く残されている。

Dali La 以西で 5,000m 峰が数座あるが、(KG-114 5,230m, KG-65 5,090m, KG-66 5,200m, KG-67 5,560m, KG-68 5,450m, KG-69 5,200m, KG-70 5,230m)、街道からの観察は進んでいない。この研究では 5,500m 内外以上のピークに加えて聖山として名前のある顕著な岩峰に着目してきたのでそれ以外の多くのピークについてはこれからの課題として残る。

地図-1 崗日嘎布山群の位置

ACKU: The Alpine Club of Kobe University 神戸大学山岳会



スケッチ-1 山群東北面 アタ氷河、ラグー氷河の山々

スケッチ-1はカンリガルポ山群中央部、ラグー氷河(拉古氷河, Lhagu Glacier(注-2))とアタ氷河(阿扎氷河 Ata Glacier)周辺の主稜線に並ぶ峰々を描いたものである。標高を複数表示しているが、文献により数字がまちまちであり、いかにこの山脈が未知であることを示している。本研究では筆者の推定値を各ピークの代表標高としているが、中国政府の正式測量結果が公表されるまでは実際の標高は議論の尽きない課題である。

最近、横断山脈研究会に所属する写真家、烏里烏沙(Wuri Wusa)氏によるカンリガルポ山群空撮の貴重なデータ(写真-1)を入手することができた。今まで全く未知であったマクマホンライン側、すなわち南西面の連山の姿が、ナムチャバルワとギャラペリを前景に比較的鮮明に捉えられている。これを拡大したり画像処理したりして輪郭のスケッチ(図-1)を試作してみた。山群西部のデルポラ(Delupola 6,343m)とコネカンリ(Kone Kangri 6,347m)の姿も明確だ。またロプチン(Lopchin 6,805m)がルオニイ(Ruoni 6,882m)と拮抗する高さを持つとともに南東面がスッパリ切れ落ちた尖った岩峰に見える。アタ氷河側の氷をまとったドーム型の姿とは全く異なる風貌には驚いた。山は見る場所や季節、時間により千変万化する。これまでの研究で崗日嘎布山群が解ったとは決して言えないと、新しいデータが教えてくれる。

注-2:本稿ではラグーは従来の表現を踏襲し「拉古」としているが、現在現地ではライグ「来古」となっている。

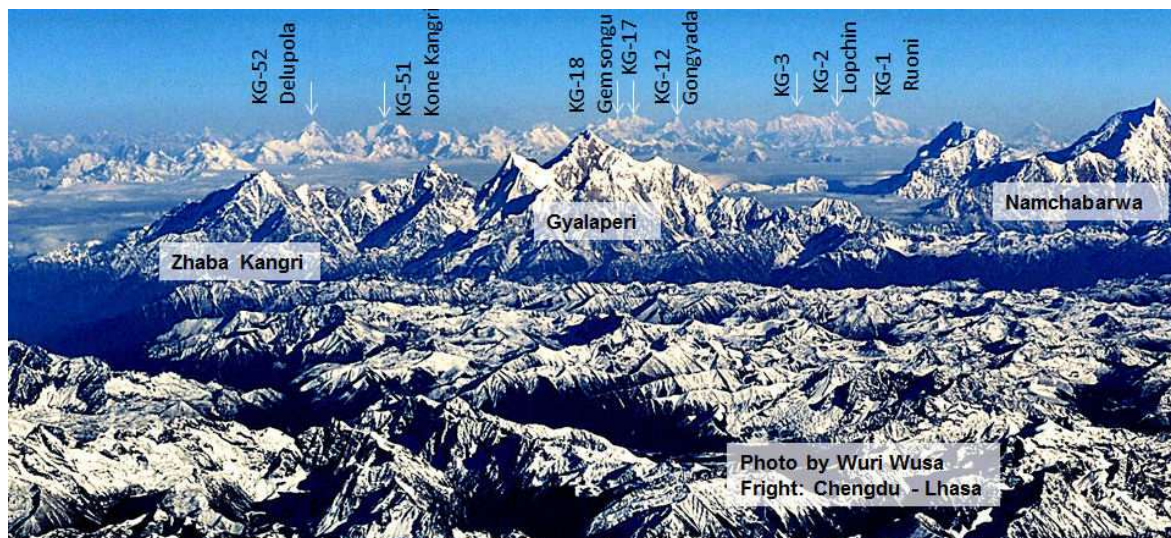
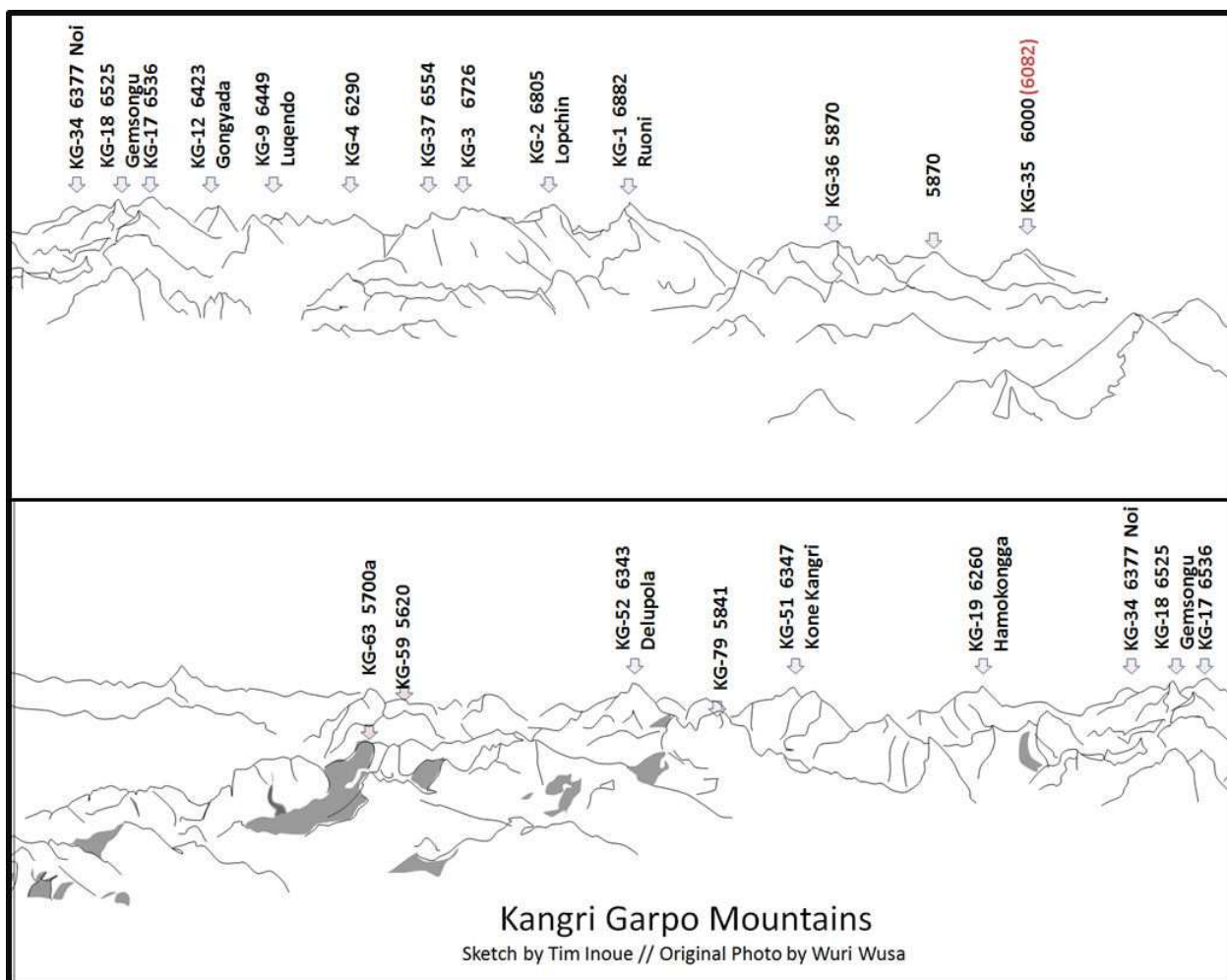


写真 - 1 崗日嘎布山群空撮 by: Wuri Wusa



スケッチ-2 崗日嘎布山群南西面スケッチ

2)カンリガルポ山群・幻の6000メートル峰47座

「ヒマラヤ山脈の東端はナムチャバルワ (Namchabarwa 7,782m)で終わり、その先には広大な東チベットの高原が続いている」という定説が流布された結果、カンリガルポ(崗日嘎布 Kangri Garpo)山群やニイチェンタングラ(念青唐古拉 Nyainqentanglha)山群など所謂横断山脈は登山家や研究者に忘れ去られて永らく解明されないまま今日に至っていた。衛星による観測結果から作成された Google Earth や Google Map などからおおよそのピークの存在は推測されるし、旧ソ連の地図や中国の公開されている地図などからもその概要は把握することができる。しかし、山脈には存在すら知られていない幻のピークも多くあり、詳しくは未知のまま今日に至っている。

横断山脈研究会(中村保会長)はこの地域の研究に熱心である。中でも会員の松本徂夫氏編著の「ヒマラヤの東 崗日嘎布山群・踏査と探検史」権歌書房 は広範囲、包括的な研究成果を発表したものととして注目に値する。神戸大学は2009年にカンリガルポ山群の第二の高峰、ロプチン峰(Lopchin Feng 6,805m)に初登頂したが、引き続きこの山脈の解明を続けている。

この山脈の高峰を丹念に調べていくと6,000m峰に絞っても従来30座程度とされていたものが、衛星峰的なものも含めて少なくとも47座の存在が推定される。中にはその存在が認められているにもかかわらず今日まで姿を見た者もなく、したがって写真一枚撮られていなかったコネカンリ(Kone Kangri 6,347m)や、神戸大学が初めて発見した山々(KG-5 KG-33 KG-37 KG-38 など: KGはKangri Garpoの頭文字をとった識別のための仮番号である)もある。現在、5,000m以上のピーク126座について位置と高度の推定に加えて、登山隊、踏査隊、旅行者などが撮影した写真から山座同定を進めている。その中で6,000m峰47座に注目してみたい。但し、KG-21、KG-35、KG-51-II峰、III峰、KG-54、KG-55、KG-57の7座については未だ写真を得られていない。

興味深いのは旧ソ連の地図と現地での測量結果を比較すると場合によっては100m内外の差があることだ。また、ASTER GDEM(注-3)データは実際より低いデータが得られることだ。47座の6,000m峰の山座同定では基本的にASTERのデータと筆者の推定値を採用した。しかし、既に詳細に測量されていると推察されるコネカンリやデルボラについては中国地形図の標高を採用した。

山座同定を行った山々47座は表-2に示す。マイナーピークも含めたので47座については異論が出てくるものと思われるが独断と偏見で選択しているのでご容赦願いたい。

注-3 ASTER(Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer)

<http://www.science.aster.ersdac.or.jp> GDEM(Global Digital Elevation Model)

地図-2は6,000m峰の位置を示したものだ。地図-2中の星印(☆)は登山隊や踏査隊およびトレッカーから提供された写真の撮影位置を示している。

表-2 Hidden 47 Six-thousanders in Kangri Garpo

NO	Peak ID	Name		Altitude(m)	° ' "			° ' "		
					Location N			Location E		
1	KG-1	Ruoni	Bairiga	6882	29	9	60	96	43	24
2	KG-2	Lopchin		6805	29	11	59	96	41	39
3	KG-3			6726	29	13	45	96	40	52
4	KG-37			6554	29	14	28	96	40	18
5	KG-17			6536	29	22	35	96	30	28
6	KG-18	Gemsongu		6525	29	23	26	96	29	41
7	KG-12	Gongyada		6482	29	19	24	96	36	29
8	KG-9	Lugendo I	I -1	6449	29	17	1	96	39	27
9	KG-33			6441	29	10	24	96	42	7
10	KG-10	Lugendo II	II -1	6390	29	17	58	96	38	54
11	KG-16			6377	29	21	60	96	31	24
12	KG-34	Noi		6377	29	23	20	96	30	37
13	KG-9	Lugendo I	I -2	6350	29	17	2	96	39	15
14	KG-15			6350	29	21	47	96	32	5
15	KG-51	Kone Kangri	I	6347	29	37	7	96	3	18
16	KG-52	Delupola	I	6343	29	39	18	96	2	25
17	KG-5			6340	29	15	18	96	41	28
18	KG-22			6327	29	6	52	97	4	39
19	KG-9	Lugendo I	I -3	6306	29	17	10	96	38	48
20	KG-14			6293	29	20	60	96	33	13
21	KG-4			6290	29	15	45	96	40	19
22	KG-112	Ruoni Gendarme	I	6289	29	10	26	96	44	26
23	KG-10	Lugendo II	II -2	6278	29	17	41	96	38	29
24	KG-19	Hamokongga		6260	29	24	18	96	36	3
25	KG-41			6238	29	25	54	96	21	42
26	KG-20	Genikutz		6233	29	24	6	96	26	41
27	KG-39			6211	29	23	48	96	28	43
28	KG-13	Zeh		6177	29	20	16	96	36	57
29	KG-24	Gheni	I	6150	29	11	51	96	58	10
30	KG-51	Kone Kangri	II	6143	29	36	25	96	4	44
31	KG-52	Delupola	III	6140	29	38	58	96	4	19
32	KG-40			6101	29	24	6	96	27	49
33	KG-11			6091	29	18	40	96	36	34
34	KG-25	Gheni	II	6085	29	12	9	96	57	3
35	KG-35			6082	29	7	31	26	33	21
36	KG-55			6077	29	33	15	96	0	54
37	KG-6		I	6076	29	15	56	96	43	3
38	KG-52	Delupola	II	6065	29	38	46	96	3	31
39	KG-57		I	6050	29	37	36	95	53	39
40	KG-51	Kone Kangri	III	6041	29	36	32	96	5	26
41	KG-54			6040	29	34	14	96	3	4
42	KG-6	Zyaddo	III	6025	29	16	10	96	44	3
43	KG-38	Gheni	III	6020	29	12	49	96	56	29
44	KG-23			6010	29	9	21	97	1	59
45	KG-6		II	6003	29	16	19	96	43	28
46	KG-21			6000	29	22	59	96	25	25
47	KG-26			6000	29	12	27	96	54	40

3) 登山史

カンリガルポ山群は歴史上7長年にわたって未開放地域にあり、登山隊が入域したことはきわめて少ない。ちなみに中国登山協会の正式許可を得て入域した隊は2016年6月現在、神戸大学隊のみである。過去の探検隊や踏査隊、トレッキング・パーティについては調査対象外とした。

1999年 学習院隊 Kone Kangri 偵察を目的にゴネ湖上流ゴネ(Gone)氷河に舌端に到達。

2001年 シルバータートル隊 ラグー氷河踏査 小ゲニ氷河の無名峰登頂(詳細不明)
(隊の報告書ではトンコーレコン 5,390m に登頂とある)

2002年 神戸大学隊 アタ氷河偵察。

2003年 神戸大学隊 ルオニイ峰登山 ルオニイテラス 5,900m にて敗退

2006年 シルバータートル隊 ラグー氷河踏査 スノードーム 5,900m に登頂
(隊の報告ではスノードームは6,000m としている)

2007年 神戸大学隊 アタ氷河偵察 ロプチン峰の登頂ルート発見

2008年 JAC アルパインスキー隊 アタカン・ラ周辺の氷河踏査

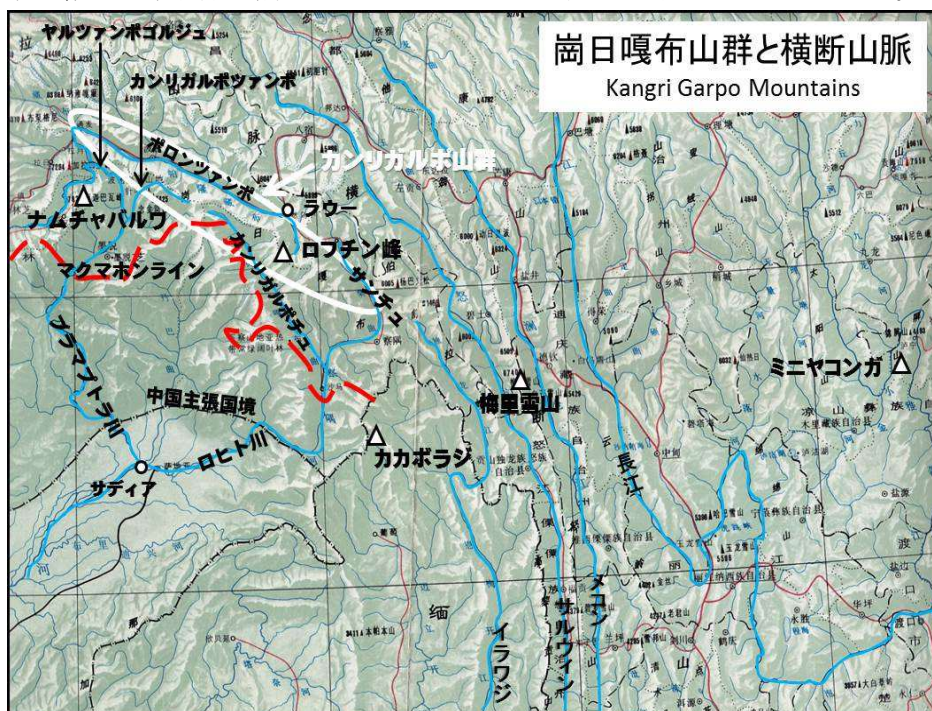
2009年 神戸大学隊 ロプチン峰(Lopchin Feng 6,805m)初登頂

以降中国政府による外国登山隊の入域禁止措置にて登山隊なし。崗日嘎布山群は未開放地域となっている。特別許可も出されなくなった。

4) カンリガルポの特殊な地域性

山田健

ヒマラヤ山脈の東の端は、インドプレートとユーラシアプレートの縫合線と考えられているヤル・ツァンポー川の大屈曲で区切られたところまでというのが一般的である。この大屈曲の内側にはナムチャバルワ峰が聳えている。そのヒマラヤ山脈の東に連なる、東チベット、雲南、四川にまたがる広大な地域はつい最近までほとんど秘密のベールに覆われていた。1986年クーラカンリ初登頂後、ACKUがこの地域を横断する形で世界に先駆けて川蔵公路(ラサ・成都間1990km)を辿り、カンリガルポの山々に接した。その後、中村保氏(日本山岳会、一橋大学山岳会)らが年以降、精力的にこの地域を踏査され、世界に情報発信を行われたことから概要がようやく明らかになった。



地図-3 横断山脈概要

このヒマラヤの東の地域では、ヤルツァンポー・ブラマプトラ、イラワジ、サルウィン、メコン、長江の中上流部がチベット高原の東南側縁辺部を激しく浸食し、プレート運動に伴う地殻上昇と相俟って、地球上でもまれに見る険しい地形を形作っている。20世紀前半にこの地域を広く踏査し、ヒマラヤの代表的な青いケシ

(*Meconopsis Baileyi*) を世界に紹介したイギリスのプラントハンター; キングドン・ウォードは著書「青いケシの国」で「深い浸食の国; The Land of Deep Corrosions」と形容した。その深い浸食の一例を示すと、メコンとサルウインの間にある梅里雪山主峰カワカブ峰は、メコン川の河床からの高度差が

実に1986mに達し、ルオニイやロプチンにおいても南側を流れるカンリガルポ・チュからの高度差は4500mを越えている。また、前述の大屈曲点にあるヤルツァンポーゴルジュをはじめ、怒江、玉曲の大峡谷、長江の虎跳峡など長年人間の侵入を拒んできた大峡谷が存在している。この世界最大規模の山岳地帯(多数の山脈を包含して「横断山脈」と表現されている)である広大な地域には幾重にも山脈が重なり、その最も西、すなわちヒマラヤ山脈に接するところにカンリガルポは存在している。

カンリガルボはヤルツァンポゴルジュを挟んでナムチャバルワと対峙しており、ヤル・ツァンポー支流のポロンツァンポ、カンリガルボツァンポ、ロヒト川支流のサンチュとカンリガルボ・チュに挟まれた東西 280km、細長いひょうたん型の大きな山脈である。最近のACKU井上達男の研究によれば、その中にルオニイ（6882m）を筆頭に 47 座の 6 km 峰があると推定している。大まかに地形を見ると、南側のアッサム、ミャンマーの平原からミシュミ丘陵と呼ばれる 3 千～4 千 m くらいの前山の背後に、一気に 6 千から 7 千 m 近い山稜が屏風のように突っ立っている。ミシュミ丘陵とカンリガルボの間には標高 2 千 m 前後でカンリガルボ・チュが南東から北西へ一直線に深く切れ込んでいる。

このような地形は、ベンガル湾からの極度に湿った季節風、いわゆるモンスーンやサイクロンの影響をまともに受ける要因となっている。アッサム地方は世界でも最も降水量が多い地域であり、カンリガルボが形作る屏風に当たった季節風はここで一気に雪を降らせるため、まれに見る豪雪地帯となっている。この関係は冬の日本海からの季節風で上越山地に豪雪が降ると同様である。2009 年の登頂隊では幸運にも例外的に降雪が少なかったが、2003 年のルオニイ登山隊や 2007 年の偵察隊ではその豪雪の洗礼を受けており、11 月のポストモンスーン期といえども 1 週間降り続くこともあった。この豪雪はカンリガルボの大きな特徴である。その緯度や標高を考慮すると、他の地域に比して巨大な氷河を形成する要因となっている。ポロンツァンポ最奥のラグーの集落から見えるラグー氷河はチベットで最大の面積を持つ氷河である。また、ルオニイやロブチンのあるアタ氷河は南支流の舌端が標高 2 千 m 近くまで融けずに伸びている。カンリガルボはその豪雪であるが故にすばらしい景観を呈している。カンリガルボとはチベット語で「白い雪山」という意味であるが、遠くからカンリガルボの主脈を見ると前山の黒い岩山の後ろに真っ白な神々しい姿が見られ、その山脈名はなるほど納得させられる。私は 2007 年と 2009 年の 2 度現地に行っているが、アタ氷河の上部は 360 度見渡す限りほとんどすべてが雪と氷の世界であり、天候が良い時の景観のすばらしさは形容のしようがないほどであった。

以上のように、カンリガルボの特殊性は一つには険しい地形、巨大氷河、豪雪などその自然環境の厳しさと美しさであるが、もう一つ挙げるとすれば近づき難いが故の未知、未探検地域としての魅力であろう。

カンリガルボへのアプローチは、現在でこそ北側にラサ・成都を結ぶ川蔵公路が通過しており入域許可取得という問題を除けば交通的には比較的容易と言える。しかし、20 世紀初頭まではカンリガルボの北側にポバと呼ばれる人たちの半独立国があり、外部からの侵入を嫌っていたため接近することが容易ではなかった。北側よりもさらに困難だったのが南側からのアプローチである。日本の屋久島と同じ北緯 29 度に位置するカンリガルボの南側では、アッサムやミャンマーの熱帯雨林地帯が広がり、雨期に降り続く降雨、植物の生い茂ったジャングルに加え、山ヒル、ダニ、猛獣やあらゆる毒虫の生息、マラリアなどの伝染病の蔓延、さらに、ミシュミ族やアポール族といった非友好的、好戦的な部族が跳梁し昔から南からの侵入を著しく困難なものとしていた。インドを植民地として領有していた英国は中国やとりわけロシアからのチベット干渉に神経を払い、盛んにチベットの地理調査のためパンディットと呼ばれる現地人密偵を送り込んだが、最も困難を極めたのがこのアッサムの北側の地域であった。

カンリガルボの西洋人による探検の歴史は、1911 年に始まる。イギリス軍人のベイリー大尉が成都から長江上流の巴塘を経てメコン、サルウィン川の中流部、イラワジ川の源流部を横断し、ロヒト川からアッサムに抜けているが、その途中でラマ教寺院のシュッディンゴンパに立ち寄った。これは、いわばカンリガルボの東縁に沿ったルートを通ったこととなる。なお、シュッディンゴンパはラウとラグーの中間に位置し、我々もこの寺院の横を何度も通過している。

1913 年、同じベイリーが同僚のモーズヘッド大尉とともに、ヤルツァンポゴルジュに入り、ヤル・ツァンポーがブラマブトラ川に繋がっていることを証明した（それまでは、ヤル・ツァンポーがイラワジに繋がっているとの説もあった）。その途中で、カンリガルボ西南縁のカンリガルボツァンポに入り、山群西端部のスイ・ラという峠を南から北へ横断している。その後、ルナン盆地で前述の青いケシ、*Meconopsis Baileyi* を発見している。「Baileyi」はベイリーの名前をとってキングドン・ウォードが命名した。

1924 年、フランス人女性のダヴィッド・ネールが巡礼に変装して雲南からラサへ向かう途中で、カンリガルボ北西縁の現在の川蔵公路のルートを通過している。

1933 年、キングドン・ウォードは、アッサムのサディアからロヒト川を遡り、南側から初めてカンリガルボの核心部に入った。主稜線南側のカンリガルボ・チュからアタカン・ラという氷河の峠を越えてラグー集落を通り、シュッディンゴンパに抜けている。このとき、峠の南側の谷間から付近の最高峰と見られる山（チョムボ峰と呼んでいる）を写真に撮っている。この写真がどの山を撮影したものか長い間わからなかったが、2009 年、ルオニイテラスに達した我々によってルオニイ南稜の肩を撮影したものであることが確認できた。

1935 年には英国人コールバックとハンベリー・トレーシーが東からシュッディンゴンパに入った。コールバックはアタカン・ラを北から越えてカンリガルボ・チュに下った。その後、カンリガルボ・チュを遡り、カンリガルボ・ラという氷河の峠を越えてカンリガルボツァンポに入り、さらにカンリガルボ主脈の峠（チンドウル・ラ）を北側に越えている。コールバックのカンリガルボ・ラ越えはその後トレースされた記録はない。なお、ハンベリー・トレーシーはシュッディンゴンパからカンリガルボの北縁に沿ってポロンツァンポ川を下りダシンゴンパでコールバックと再会し、二人はサルウィン源流に向かって北にニンチェンタンラ山脈を横断した。

その後、キングドン・ウォードは、1950 年に再度サディアからロヒト川を遡ったが、震源のリマ（カンリガルボチュとサンチュ合流点）でアッサム大地震に遭遇し、命からがらアッサムに逃げ帰っている。

以上が数少ないカンリガルボへの探検であるが、第 2 次大戦後、中華人民共和国が成立し、1950 年からチベット介入が始まった。その結果、次に述べる中印国境紛争が勃発し、最近に至るまで全く外国人が立ち入ることができなくなってしまった。



世界地図を見ると、インドのアッサムと中国・チベット自治区との国境線は2重に引かれていることに気づく。北側のラインはマクマホンラインとよばれインドが主張しているラインで、南側のラインはアッサム平原と山地との境界に引かれた中国が主張しているラインである。元々、20世紀初めにはチベットとインドの国境については確定しておらず、1913年、当時インドを支配していた英領インド政庁の外務参与マクマホンが提唱して、国際会議がインドのシムラにおいて開かれた。この「シムラ会議」には、英領インド政庁代表、チベット政府代表、チベットの宗主国として中華民国代表が参加して国境の確定等について話し合われた。このとき調印されたのが、マクマホンラインと呼ばれる国境線である。しかし、当時、中国は辛亥革命で清が倒れ、中華民国として成立して1年余りであり、未だに軍閥が台頭し混乱の中にあった。現共産党政権の中国では、正式な国の代表が参加していなかったとして、シムラ会議の合意を認めておらず、有史来中国・チベットの影響が及んでいた山岳民族が住む範囲まで、すなわちアッサム平原と山地部との境を国境とすべきであると主張している。イギリスからマクマホンラインを引き継いだインドと中国はこの2本の国境を巡って1962年に武力衝突を起こしている。現在は休戦状態で2本の国境の間は緩衝地帯となっている。

そのマクマホンラインはカンリガルポのすぐ南、基本的にはカンリガルポ・チュの南側に沿うように引かれているが、この区間で地形を無視して不思議に出入りのある複雑な形をしている。なぜこのようなラインが引かれたのか謎であるが、1913年当時の認識では、カンリガルポ・チュの支流がミシュミ丘陵側に切れ込んでおり、カンリガルポ・チュの流域をチベット側に入れたためではないかと推測される。しかし、実際にはそのような支流は存在せず、結果的に何の根拠もない線が生き残ってしまっている。いずれにしても、カンリガルポ山群のほとんどはマクマホンラインの北側にあるためチベット領には間違いないが、サンチュ・カンリガルポチュ沿川のザユール（察隅）県には人民解放軍が展開しており、外国人の立ち入りは非常に厳しく監視されている状況にある。

カンリガルポはベールに包まれたヒマラヤの東のなかでも一般人が最も近づき難い場所で、今、地球に残った最後の未探検地域として、世界の登山界だけでなく地理学、地質学、生物学者など学術面からも注目の的となっている。カンリガルポの際だった特殊性と魅力はここにある。

第二章 崗日嘎布山群の山々

1) 山群の最高峰とアタ氷河を取り巻く山々



写真-1 アタ氷河の三姉妹峰 (KG-1:Ruoni 6,882m,KG-2:Lopchin 6,805m,KG-3 6,726m)

写真右手の斜面は KG-114 Bengen 4,681m の裾でここに登ると主稜線のピークが詳しく観察できると考えられる。ここからの写真撮影は今後の課題である。

注: 本章の図版の番号は各項ごとに採番

神戸大学山岳会がカンリガルボ山群に魅かれたのは、1986年チベットの雄峰クーラカンリ初登頂後に川蔵公路を拉薩から成都まで旅した折、然烏(Rawu)の南に雪を頂いた高峰があると連絡官から情報もらったのが発端であった。その後の研究から1933年にキングドン・ウォードがロヒト川を遡り、カンリガルボ・チュ(崗日嘎布曲)からアタ・チュ(阿扎曲)に入り、アタカンラ(阿扎崗拉 Ata Kang La)を越えてラグ(拉古 Lhagu)に抜けるカンリガルボ山群横断の旅をしているが、その途上で南面からチョンボ峰(Choembo, Chömbö)と呼ばれる雪山の写真-2を撮っている。我々はこれが山脈の最高峰であるルオニイ峰(若尼峰、Ruoni Feng 6,882m)ではないかと推察していた。その解答は2009年のロブチン峰(洛布青峰 Lopchin Feng 6,805m)初登頂の遠征隊にて出された。すなわち、写真-2の右手にある尖ったピークがジャンダルムI峰(6,289m)であると解り、その結果ルオニイ峰の本峰ではなく、ルオニイ峰南稜の肩であることが解明された。ちなみに撮影地点は阿扎氷河南流舌端近くのリアラガ氷河(Rialaga Glacier)との合流点であろう。

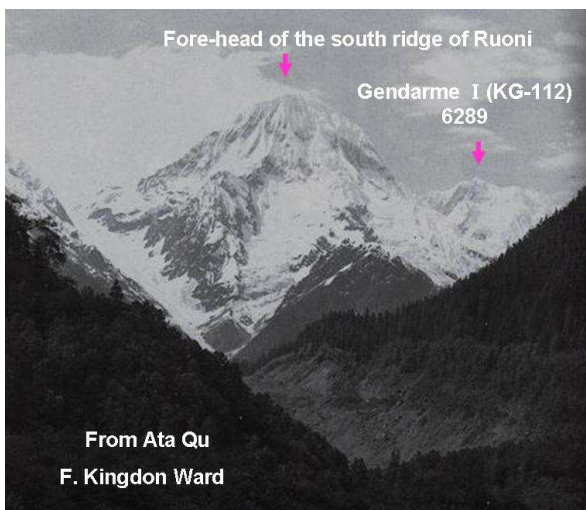


写真-2 チョンボ峰(1933年キングドン・ウォード)

に白日嘎 6,882m(Bairiga)とあるのを本稿では採用している。ちなみに2009年に測量した結果は6,859mで、ASTERのデータは6,841mであった。

カンリガルボ山群はJAC福岡支部が数々の踏査隊を派遣し、松本徂夫氏編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」としてその成果が発表されている。また横断山脈研究会を通じて中村保氏が筆頭に多くの情報が寄せられ、今日では探検時代から未踏峰登山時代の幕開けとなった。

◆山群の最高峰ルオニイ峰(若尼峰 Ruoni Feng 6,882m)

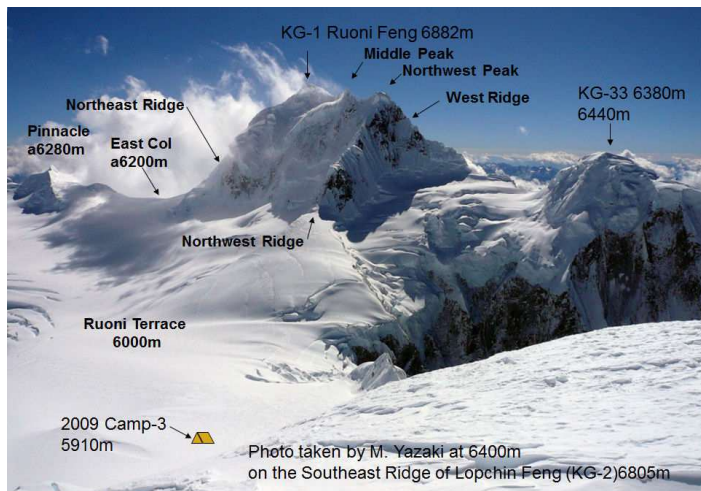


写真-3 ルオニイ峰北西面

(ロプチン峰南東稜 6400m 付近から登頂隊員矢崎撮影)



写真-4 ルオニイ峰北面 (阿扎氷河 5050m 付近から撮影)



写真-5 ルオニイ峰北東稜の核心部

(写真-6 はアタカン・ラから 2008 年 JAC アルパインスキークラブ撮影)



写真-6 ルオニイ峰南陵

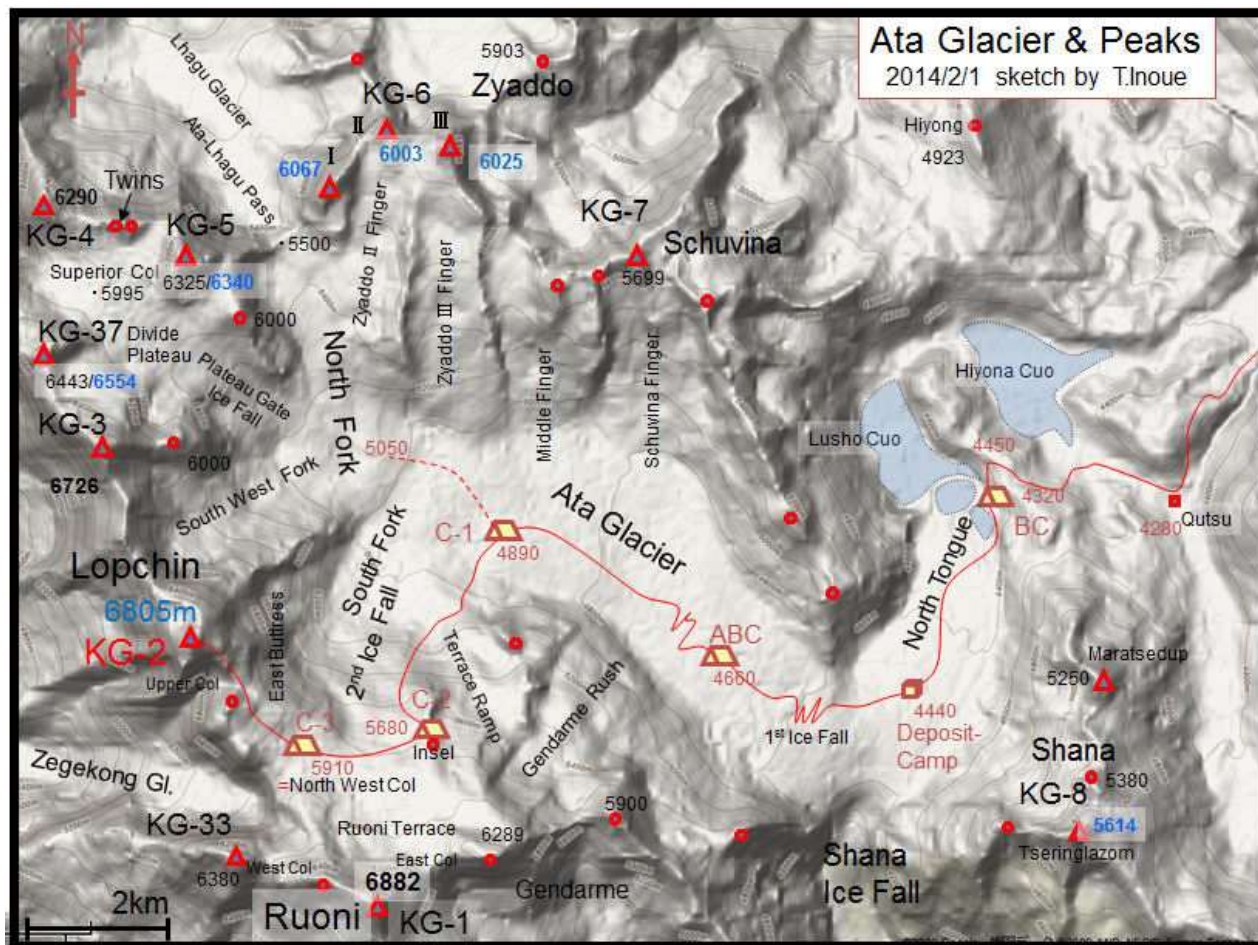
さて、2009 年、神戸大学隊はルオニイ峰ではなく、山群第二の高峰ロプチン峰に初登頂したわけであるが、なぜルオニイ峰に挑戦しなかったのか。その訳は写真-2,3,4 に込められている。困難には挑戦すべきだが、極めて重大なリスクは避けるべきとの考えであった。四六時中轟くセラック崩壊による雪崩を間近に見聞きしていると挑戦する気持ちは微塵も起きなかった。

登頂の可能性を探ると、南陵(写真-6)が傾斜も緩く肩から上部は悪くはなさそうだ。しかし、肩からは傾斜もきつく、標高差 3,000m の壁が控えている。しかもアプローチはアタカン・ラ越えとなり、遠大な旅となる。マクマホンラインに接近するので許可の可能性は低い。次に北西峰の二つのリッジ(写真-4)が考えられる。しかし、ヒマラヤ巒を纏った岩稜はいただけない。残された候補は北東稜で、2003 年の隊もこれに挑戦する予定だったが、ルオニイテラス 5,900m に達して撤退している。そして 2009 年、再びアタ氷河に足を踏み入れた神戸大学隊はじっくりこのルートの可能性を観察したが、覆いかぶさるセラックのオーバーハング(写真-5)は手を付けられないと判断した。

カンリガルポ山群は年々氷河が衰退しつつある。ルオニイは厚い氷に包まれているが、今後セラックが崩壊し、岩肌が露出すると様相が一変すると思われる。その結果、道が開けるのか、それともより危険な山になるのか。



写真-7 山群の最高峰ルオニイ峰 6,882m



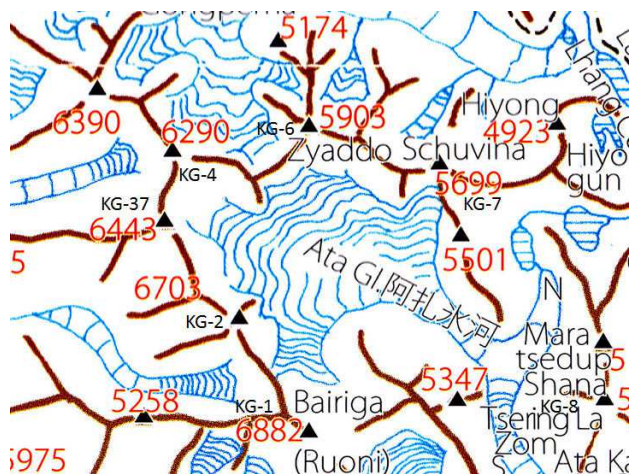
地図-1 アタ氷河と ACKU 2009 年ロプチン峰登頂ルート

◆阿扎氷河を取り巻く山々の同定

松本徃夫氏編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」が発行された 2007 年、筆者はアタ氷河周辺の山座同定および稜線のスケッチについて異論を唱え、論争となった。中国の地形図は厳重に管理されて外国人には開示されないので東チベットの地図は旧ソ連のものに頼らざるを得ない状況は今日も変わっていない。しかし、カンリガルポ山群に関してソ連地図の信頼性は低く、アタ氷河について言えば実際との違いに驚く場面が数々あった。2007 年当時の Google Earth と Google Map はまだ精度と解像度が十分でなく、山座同定には活用されていなかったが、筆者はあえて衛星による観測データを駆使して同定することを試みた。もちろん写真とその撮影位置情報が基本となるが、衛星データは良い補助となった。

論点を以下に列記する。

- 1) 松本地図ではジャッドーシュビナ(Zyaddo-Schuvina)稜線が 6,290m ピーク(KG-4)から派生しているが実際にはその間に松本地図にない KG-5(6,340m)が存在する。
- 2) 松本地図ではカンリガルポ山群の主稜線が 6,290m(KG-4)ピークからソ連地図の 6,443m ピーク(KG-37)に続いているが、実際には KG-5(6,340m)と KG-37 の間にプラトー(Divide Plateau)が存在し、そこから氷河が東西に別れて流下し山脈を分断している。
- 3) KG-37 は 6,443m ではなく ASTER によると 6,554m で立派なピークである。
- 4) 松本地図ではジャッド(Zyaddo)は 1 つのピークだが、実際には 3 つのピーク(KG-6- I、II、III)が存在し、その位置と標高も松本地図とは異なる。松本地図の 5,903m はソ連の地図にある標高点のものを参照したものと思われるが、それは III 峰からラグー氷河側に派生した稜線上のマイナーピークである。KG-6 は I 峰が 6,067m、II 峰 6,003m、III 峰は 6,025m と推定され、松本徃夫氏編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」の記述と写真にある Zyaddo は KG-6-III がそれとするのが妥当である。
- 5) 松本地図には KG-3(6,726m)が記載されていない。
- 6) 松本地図では KG-2 の標高が 6,703m となっているが、もっと高くのではないか。実際には 6,805m(頂上での GPS データ)で松本地図の標高より約 100m 高かった。これは登頂の結果論であり、筆者も登頂日に近藤隊員が頂上から GPS 高度 6,805m を報告してきたとき、初めは信じられなかった。検証のためにアタ氷河上で山田副隊長と測量した結果、6,814m を得た。隊の統一見解として GPS データ 6,805m をロプチン峰の標高に採用している。



地図-2 松本徂夫氏編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」部分

注目しなかったが、神戸大学 2007 年偵察隊がその存在の大きさに再評価を加えて 2009 年、KG-2 が登山隊の目標となった。

ロプチン峰は登頂時点では無名であった。拉古村の村長以下村人たちが協議の末に命名してくれた。ロプチンはチベット語で " 雄鷹 " " 勇敢 " " 智慧 " と " 大学 (University)" の意味がある。大学同士の合同隊で " 大学峰 (Daxue Feng)" とする案も出たが、やはり現地の提案する呼び名を尊重すべきとの合意に至った。「白鷹の峰・ロプチン」と呼ぶ。中国語表記は「洛布青峰」とした。

2008 年にアタカンラ(阿扎崗拉 Ata Kang La)に入った JAC アルパインスキークラブ隊はルオニイとシャナ(KG-8 Shana)の写真-10 を撮っているが、そこにロプチンの頂上シャナの稜線越しに姿を

現している。また、2006 年のシルバータートル隊がラギー氷河からアタ氷河側を撮った写真に KG-5 がその左手のアタ・ラグ峠とともに写っているが、報告書の解説にはルオニイとされている。これは誤りである。ラギー氷河側から KG-1、KG-2、KG-3 は KG-5、KG-4、KG-9 の稜線に遮られて見ることはできない。



写真-9 夜明けの KG-2 Lopchin と KG-3 (アタ氷河 Camp-1 から)



写真-8 KG-1(Ruoni)と KG-2(Lopchin) 徳母拉(Dema La)付近から



写真-10 アタカン・ラ付近から見たルオニイ峰とロプチン峰およびシャナ、シュビナ

未探検山群の解明を進めるに当たり先駆者の努力は偉大なものであり、松本徂夫氏の功績は絶賛に値する。後進の筆者は氏の業績を礎により多くのデータと新しい情報にて解析を進めた結果であり、今後さらに新事実が発見されて筆者の間違いを正してくれるとともに山群を詳しく解明してくれることを期待したい。

◆KG-2 (ロプチン峰、洛布青峰、Lopchin Feng 6,805m)

崗日嘎布山群研究の過程で数々の新発見があったが、このロプチンの発見は後の山脈全体での初登頂という快挙に結び付いた。徳母拉(Dema La)への街道から撮影された写真にはアタ氷河の主稜線にひとときわ高い三つのピーク(三姉妹峰)が映し出されていた。神戸大学 2003 年遠征隊はルオニイ峰に注力し、他のピーク KG-2 と KG-3 にはあまり



記事

1. 拉古村からはZyaddoⅢ峰(6025m)が見えるのみでⅠ峰(6076m)とⅡ峰(6003m)は知られていない
2. KG-5とKG-6Ⅰの間にはAta氷河とLhagu氷河の峠(5500m)
3. ☆5050m: Kangri Garpo Mountains East撮影ポイント (KG-22 23 24 25 26 27などの望遠写真撮影)

写真-11 アタ・ラグー氷河分水嶺の山々

写真-11 はアタ・ラグ氷河の分水嶺の山々だ。拉古村からは KG-6-Ⅰ とⅡは見えないので Zyaddo は KG-6-Ⅲとするのが妥当であろう。



写真-12 KG-3 と KG-37



写真-13 Zyaddo 稜線は KG-5 から右手の Ata-Lhagu Pass を経て派生している

◆KG-3 (6,726m)

KG-3 はアタ氷河の三姉妹峰の末娘だ。徳母拉付近から三姉妹が並んだ景観(写真-1)は雄大である。KG-3 は手前に KG-5 や KG-6 が重なって頂上稜線の一部のみが見えるので姉たちより控え目なように思える。しかし、アタ氷河を遡り麓に達するとロブチン峰と並んで巨大な側壁に圧倒される。登路はアタ氷河を源頭のプラトーまで登り詰めて北壁のステップ(傾斜の緩い雪原)を通過して頂上西側の稜線に出るラインが考えられる。しかし、雪崩のリスクは大きい。



KG-03 6726m 3Ata-Sisters 3rd peak

ACKU 2003 Camp-1

写真-14 KG-3 6,726m

(Shana 5,614m)である。松本徃夫氏編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」によると聖山として本峰に Tsering La zom、下流側の岩峰に Maratsedup(5,250m)の名前が付けられている。

Shana は旧ソ連の地図によると 5,593m となっているが、アタ氷河から測量すると 5,614m の標高を得た。

◆KG-8 Shana (5,614m)

然烏(Rawu)から U 字谷を遡るとマン湖(Mang Co)、ヤン湖(Yang Co)と氷河の後退で出来た湖を通過する。康沙(Kansa)を過ぎると東側の丘にシュデンゴンバ(Shugden Compa)がある。1956年のチベット動乱時に解放軍によって破壊されたが現在少しずつ復元されつつある。そこから谷の奥に雪を頂いて見えるのがシャナ

◆KG-33 (6,380m、または 6,440m)

ルオニイ峰の西稜に KG-33(写真-3)が存在するのを 2009 年のロブチン峰登山隊が発見した。アタ氷河を登っているとルオニイとロブチンの間にあるコルの向こうにドーム状の白いピークが頭を見せていた。既存の地図にないのでこれは新発見だと興味を持ったが、そのコルにキャンプ(Camp-3 5,910m)を進めて姿が確認された。西稜はカンリガルボ山群の主稜線から外れてソンユイチュロン(Songyu Qqulong 送玉曲弄)に下っているが、そこにルオニイ峰の衛星峰としてルオニイテラス北西コルの南にドーム型の頂上がある。標高は ASTER によると 6,440m となっている。



写真-15 KG-8 Shana と KG-30 Ata Kangri (北面の Hiyong 頂上から)



写真-16 アタ氷河中流から見た Shana の西面



写真-17 KG-33 6,440m

◆KG-35 (6,082m) KG-36 (5,870m)

アタ氷河のピークではないが、ルオニイ峰(若尼峰 Ruoni Feng 6,882m)の西稜には KG-36 が、さらに末端には KG-35 がある。KG-35 の西にはカンリガルポ・チュが流れているが、そこにある康沙村の標高が 2,250m であるから、実に 3,832m の落差のある壁が一気に下っている。KG-35 の姿は拉古氷河(Lhagu Glacier)のスノードームから撮影された一枚に不明瞭ながら確認できる。



写真-18 KG-35 KG-36

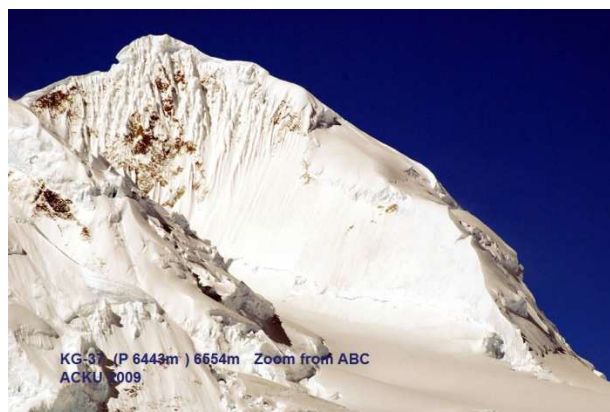


写真-19 KG-37 6,554m (ソ連地図の 6,443m 峰)

◆KG-37 (6,554m)

アタ氷河の源頭にある氷原(Divide Plateau 5,995m) に隠れるように存在するのが旧ソ連の地図にある 6,443m 峰(写真-7)で、アタ氷河からはプラトーに弧を描いて下る稜線が KG-3(6,726m)の右手に見える。ASTER でよく調べてみると立派なピークで標高 6,554m を得た。また、Dema La から撮影された写真にも尖った頂上が KG-5 越しにちらりと覗いている。カンリガルポ山群の主稜線はこのピークでいったん途切れ、アタ氷河最奥のプラトーを隔てて KG-5 から再び主稜線を形づくっている。

2)未知の東南部に迫る

この項の対象地域は神戸大学隊が4度にわたって入域したアタ氷河より東南の地域である。古くから交易に使われ、1933年にプラントハンター、キングドン・ウォード(F. Kingdon Ward)も探検したアタ(阿扎 Ata 地図-1 地点☆C)からアタカンラ(阿扎崗拉 Ata Kang La)を越えて拉古(Lhagu)に至るカンリガルポ山群の分水嶺越えの古道を境にしてその東南の地域、格尼峰(KG-24)、KG-22 (Peak6,327m)のある山塊である。このエリアの最高峰は Peak6,327m (KG-22)で、旧ソ連地図の標高を山名としていた。最近、名前の裏づけは不明だが Google Earth に格泥(Geni)と記され、後に Yuhe Kangri に更新されている。また、最近の中国の地図には 6,177m とされているようだが、筆者は未確認である。山名についてはこの研究では仮称とし、正式な名称は今後の議論に委ねたい。

この地域での登山活動は 2000年のシルバートル隊が Little Ghени 氷河(仮称)のとあるピークに登ったものと、2008年、JAC アルパインスキー隊が Bimaque 氷河(仮称)を奥アタカンラ(4,800m)の南にある氷河を遡って 5,010m の峠付近に到達したものがあつた。それ以外はまったく人跡未踏のまま残されている。そして主要ピークは全て未踏のままである。表-1に主要 20 ピークを示す。

表-1 崗日嘎布山群東南部 ピーク一覧

NO	Peak ID	標高 1	標高 2	名前	記述
1	KG-22	6250	6327	格泥(Geni)	P6327m ASTER 標高は 6149m 別名 Yuhe(玉河)Kangri 中国地図 6177m
2	KG-23	6050	6010		ASTER 標高は 5925m
3	KG-24	6150	6150	格尼(Gheni) I	ASTER 標高は 6120m
4	KG-25	6085		格尼(Gheni) II	
5	KG-26	6000			
6	KG-27	5850			
7	KG-28	5800		Tonkole	拉古村から見える尖ったピーク
8	KG-29	5770	5788	Pongle	拉古村から見えるドーム型のピーク
9	KG-30	5760	5760		
10	KG-38	6020	-	格尼(Gheni) III	ACKU2009、Camp-3 5910m からの写真で発見
11	KG-78	5850	5601		
12	KG-85	5390	5337		2008JAC スキー隊命名は「フスコンダ」(注 2)
13	KG-86	5550	-		
14	KG-87	5450	5501		
15	KG-88	5550	-		
16	KG-89	5350	5411		
17	KG-90	5700	-		
18	KG-97	5450	-		
19	KG-99	5360	5325	小格尼(Gheni)	Little Gheni 同じ名前でややこしいので
20	KG-102	5610			

注 1: 標高 1 は井上推定値 標高 2 は旧ソ連の地図標高 注 2: 報告書[参照-12]には「フスコンダ」と「スフコンダ」の記述あり

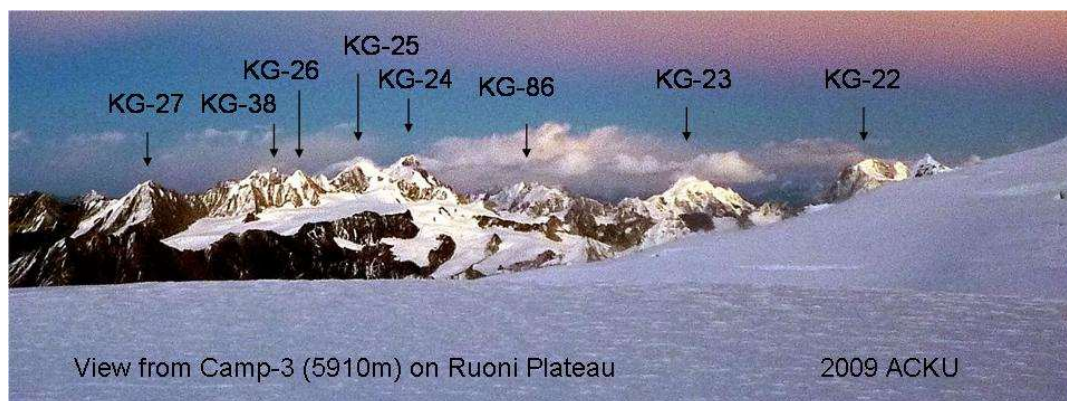


写真-1 カンリガルボ山群東南部、格尼山塊パノラマ (2009年 ACKU 撮影)

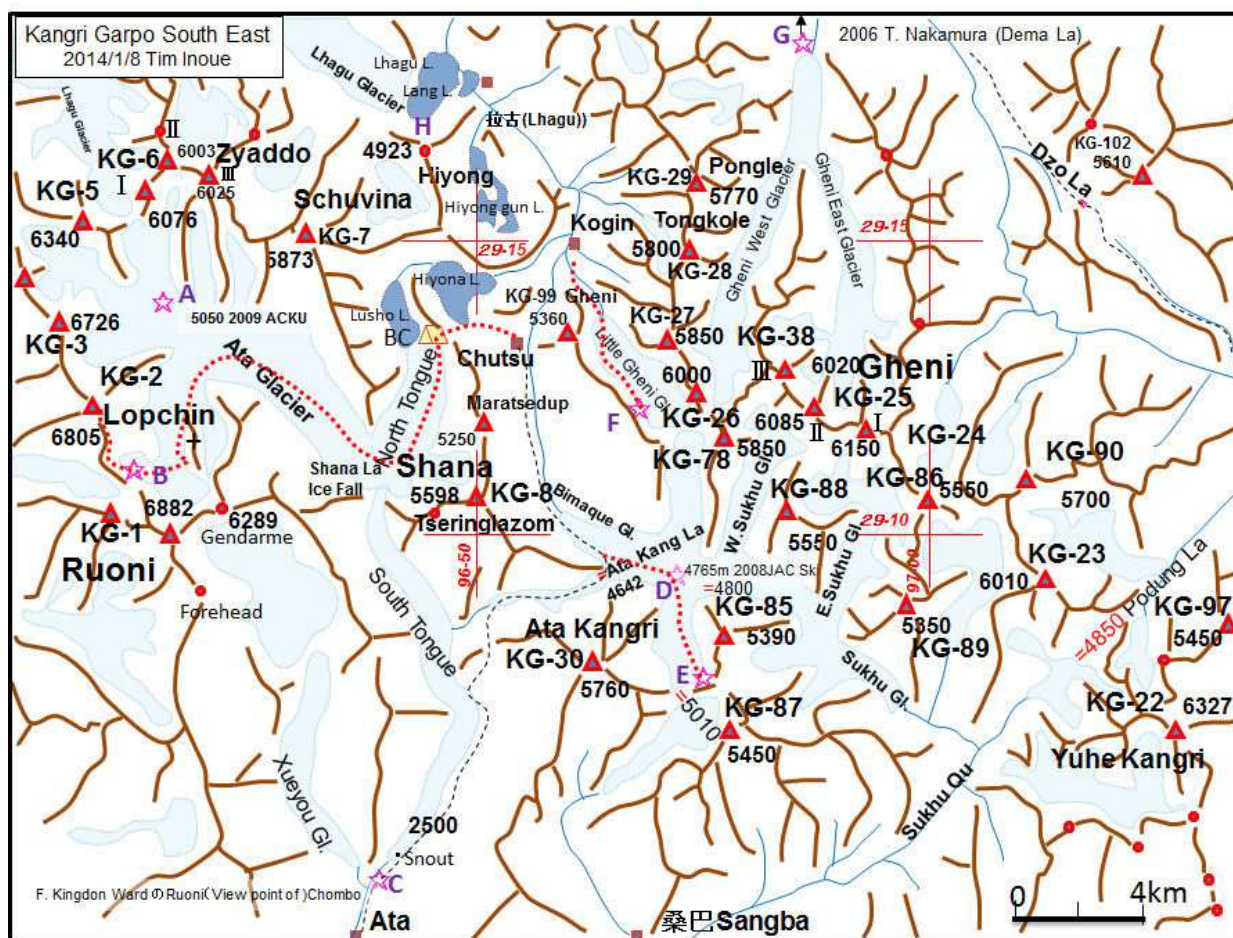


図-1 崗日嘎布山群東南部 (地名の多くは仮称)

地図の地点の説明

- ☆A: 2009年11月4日、阿扎氷河(Ata Glacier)本流を遡った枝氷河の合流点上部5050m地点。格尼山塊の西面観察の絶好地点
- ☆B: Ruoni Terrace 5,910m 2009年ACKU登山隊のCamp-3地点 崗日嘎布山群東南部のパノラマ撮影地点
- ☆C: 1933年、F. Kingdon Ward が Ruoni 峰(Choembo)の南稜肩の写真を撮影した地点
- ☆D: 2008年、JACアルパインスキー隊が360度のパノラマ写真を撮影した地点
- ☆E: 2008年、JACアルパインスキー隊の最高到達点 KG-87の写真を撮影している
- ☆F: 2001年、シルバータートル隊が登頂したと記述しているピークの推定場所
- ☆G: 徳母拉(Dema La): 中村保氏、渡部秀樹氏ら多数の訪問者が南方の格尼峰山塊を遠望

◆ P6,327m (KG-22 格泥(Geni) 又は Yuhe Kangri)について

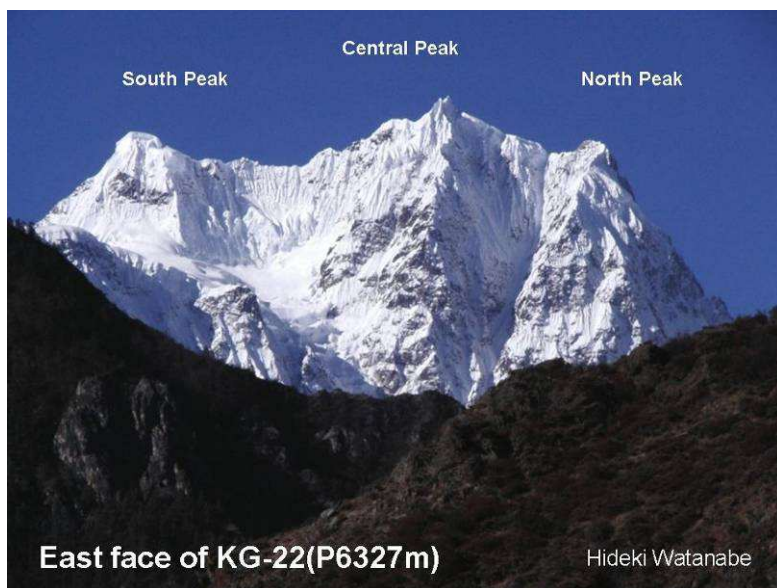


写真-2 東面、察隅曲(側から見た KG-22 世界初の写真

あるが、察隅曲は谷深く KG-22 を見るには意図的に街道筋から外れて山に近づかねばならない。東面の姿(写真-2)は JAC 福岡隊により初めて撮影された。

この山塊の盟主が KG-22 である。カンリガルボ山群東南端の 6,000m 峰である。ここより南には察隅曲(Zayü Qu または Zayul Qu)を隔ててミャンマー国境のカカルボラジまで高峰は存在しない。このピークの存在は旧ソ連の地図に 6,327m の標高が記されていることがきっかけで近年になって横断山脈研究会により注目されるようになった。探検時代(1900～1940)に数多くの隊がインドと東チベット間の崗日嘎布山群を越えて往来しているが、誰一人としてその存在に気づかなかったようだ。写真-1 は 2009 年の神戸大学隊がアタ氷河奥のルオニイテラス Camp-3 (5,910m)から撮影したカンリガルボ山群東南部のパノラマである。山塊全体が明確になった初の貴重な写真である。

探検時代の足跡と KG-22 の視認性についてはこの地域にいち早く目をつけて訪問された松本徹夫氏(JAC 福岡)等が考察している。カンリガルボ山群の北東面には察隅曲(Zayul Qu)、桑曲(Sang Qu)を遡りゾーラ(Dzo La)を越えて然烏(Rawu)に出る交易道が往来盛んで

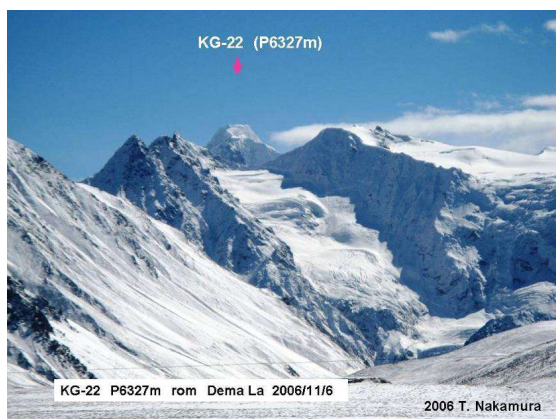


写真-3 KG-22 北面

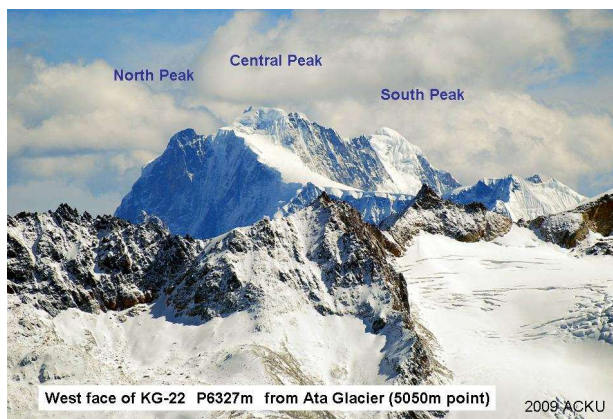


写真-4 KG-22 格泥(Geni)または Yuhe Kangri の西面

北面からは、徳母拉(Dema La)峠近くの道路から KG-24 東側稜線上の KG-90 越に頂上部分を遠望できる。多くの訪問者がその光景を目にしているはずだが、特定した者はいなかった。中村保氏から頂いた該当の写真(写真-3)を分析していると KG-22 の顕著な特長ある北峰岩壁の頭や雪に包まれた中央峰が確認できる。また、2009 年、ロブチン峰(Lopchin Feng、KG-2)登山時に阿扎氷河の 5,050m 地点(地図-1 地点☆B)より捉えた KG-22 の西面の写真(写真-4)が鮮明にその姿を捉えている。

ロブチン峰登山中に Camp-3(5,910m)で撮影したカンリガルボ山群東南部の望遠写真(写真-1)を見よう。KG-22 から左に KG-23 KG-24 KG-25 が並んで写っている。この写真から KG-22(P6,327m)の標高について疑問を持った。少し高すぎるように見える。ASTER GDEM から得たデータは 6,149m であった。中国の地図 6,177m が妥当な標高かもしれないが推定値として 6,250m を与えた。JAC 福岡隊の東面写真とこの西面写真により中村保氏撮影の写真-3 のピークが KG-22 の北面であることが確認できた。

このようにして KG-22(格泥(Geni))の存在が 21 世紀になってようやく明確になった。南面については全くの未知であり、ましてやアプローチと登山ルート of 解明は全く手付かずで、大きな宿題として残されている。別名の Yuhe Kangri は山の東側にある村、玉河(Yuhe)の地名からきていると思われる。

◆ KG-23 の発見

さて、続いて KG-23 の存在であるが、やはり旧ソ連の地図に 6,010m と記載されている。このピークは北面の徳母拉付近から見える可能性があった。中村保氏もそうではないかと写真から KG-90(5,700m)をそれと同定された。しかし、ASTER-GDEM の立体視を根拠にすると、KG-23 は KG-90 の陰に隠れて徳母拉付近から見ることは出来ない。(Google Earth を立体視すると微妙に頂上が見えるようにも思える。) その存在は 2009 年の神戸大学隊が阿扎氷河の 5,050m (地図-1 地点☆A) から 300mm 望遠レンズで撮影した写真にて明らかにされた。峻険なる様相のピークが大多数のカンリガルボ山群 6,000m 峰の中にあつてロプチン峰と同様に優美でコニカルなドーム型の頂上を持ったピークである。標高は ASTER GDEM によると 5,925m のデータを得たのでひょっとすると 6,000m 峰ではないかもしれない。アプローチや登攀ルートは皆目検討がつかないが、察隅曲側から Podung La 4,850m の谷を詰めると KG-22 の北面や KG-23 の南面を観察できるのではないか。



写真-5 KG-23 の西面 (地図-2 の地点☆A から撮影)

また、2008 年の JAC アルパインスキー隊は Bimaque 氷河を奥アタカン・ラ(Upper Ata Kang La 地図-1 地点☆D)まで登りパノラマ写真を撮影している。貴重な写真である。KG-22、KG-23 の西面が奥アタカン・ラ峠越しに写っている。ただし同隊の報告書「雪上散歩 19号 2008年 Ata Kang La スキー登山報告」の 9 ページ写真では KG-22 を Gheni(KG-24)と誤認している。



写真-6 Upper Ata Kang La 付近☆D から見た KG-22 23

◆ KG-26 (6,000m) 及び KG-38 (6,020m Gheni-III)



写真-7 格尼峰周辺 KG-24 25 26 38

KG-24、25 は徳母拉(Dema La)近くの幹線道路から障害物もなく見通せるのでその存在と写真は数多くある。ACKU 神戸大学 2009 登山隊は西面から山塊の写真をいくつか撮っているが Camp-3(地図-1 地点★B)からのシーン(写真-7)が新たな 6,000m 峰の存在を示唆してくれた。KG-26 6,000m と KG-38 6,020m である。KG-26 は Little Gheni Glacier の右岸稜線最奥のピークであり、その奥に West Gheni Glacier に通じる峠が存在している。ピラミダルな姿の良いピークで

阿扎氷河からも良く見えていた。どうやら 6,000m は確実にありそうだ。またもう一つの発見は KG-38 の存在である。写真を見ると吊尾根で結ばれた綺麗な双耳峰だ。北面からは KG-38 から北に伸びる幅のある稜線の陰になっていて視認しづらく、同定されていなかった。

1995 年に中村保氏が北の徳母拉付近(地図-1 地点★G)から撮影した写真をあらためてチェックすると KG-38 の存在が明らかであった。写真-8 は同様地点から 2004 年に JAC 福岡の渡部秀樹氏が撮影されたものだが、KG-38 の双耳峰が顕著に映し出されている。

阿扎氷河から見た格尼山塊(写真-9)の姿が美しい。KG-26 のピラミダルな姿や Little Gheni 氷河源頭のチップ・ソウ(円盤鋸の歯)を思わせる岩と氷の尖った稜線のあるピーク (KG-78

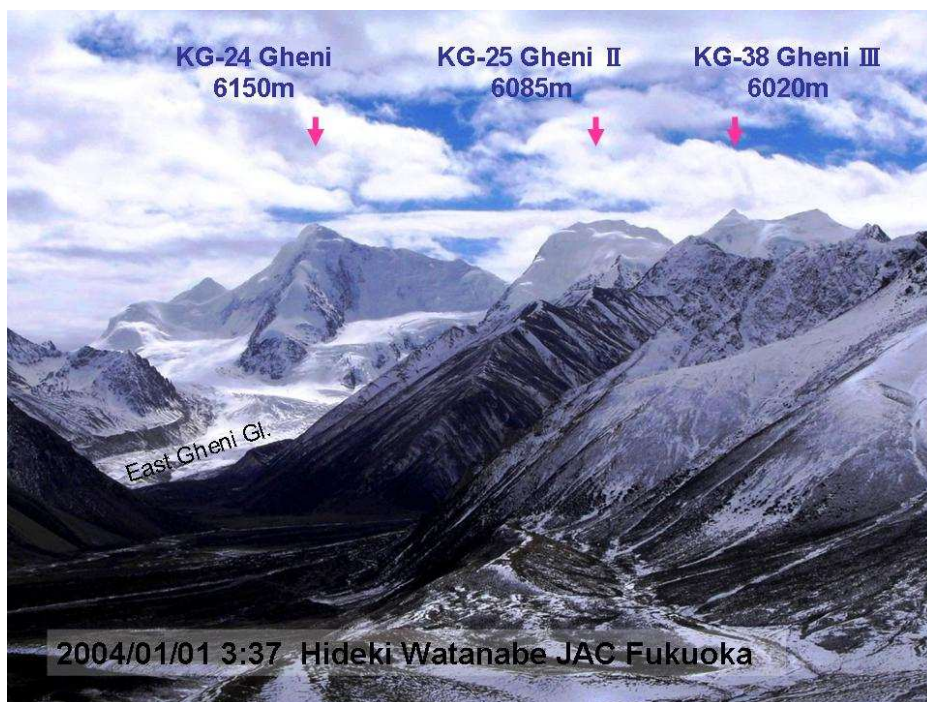


写真-8 KG-38 発見の写真 (JAC 福岡 渡部秀樹氏撮影)

5,850m)、中にはシャモの姿を連想させてくれる岩峰も並んでいる。Little Gheni 氷河から West Gheni 氷河に抜ける峠の存在も見ることが出来る。

◆ アタカン・ラ付近の 5,000m 峰

アタカン・ラから見る若尼峰 (Ruoni Feng) の立派な姿に引き付けられて反対側の山々には注目が行かないのは仕方がない。この地域には2008年のJACアルパインスキークラブの入域が注目される。

Bimaque 氷河を遡って奥アタカン・ラ付近から撮影した写真は格尼山塊西面の様子を明らかにしてくれている。その報告書 [参照\[12\]](#) によると Shana に「コートワ」、ロプチンに「レギンまたはレキン」の名前を現地のポーターから聞き出して命名している。またアタカンリ (Ata Kangri 5,760m, KG-30) の東のピーク、KG-85 5,390m には「フスコンダ、またはスフコンダ」の名前を与えているが、単なる聞き取りであり、裏づけに乏しい。報告書である「雪上散歩 19号」(アルパインスキークラブの会誌?) には最高到達点よりアタカンリ奥のピーク(私の推定では KG-87 5,450m) の写真が掲載されているがこの写真も世界初のものだ。

シルバートール隊が2001年に Little Ghenni Glacier を詰めてあるピーク(報告書によると、トンコーレコーン 5,390m) に登頂したことを報告しているが、登頂時のルート図もなく同定できない。記述によると眼下にアタカン・ラを見下したとあるので [地図-1](#) に地点 **☆F** を記した。写真が発表されていないのも残念である。



写真-9 KG-26 及び格尼峰

◆ KG-28(Tongkole 5,800m)、KG-29 (Pongle 5,770m)

拉古氷河(Lhagu Glacier)のエンドモレーンと氷河湖を越えて拉古村に入ると南方に対照的な二つのピークが広いU字谷の左手斜面の上に現れる。ボンレ(KG-29)は白クジラのようなアイスクャップを頂いた優美な峰で、トンコーレ(KG-28)はその右奥にピラミダルな岩山が小さな内院氷河を手前に抱いて鎮座している。二つのピークから流れ出る谷の水は灌漑用水として夏の麦畑を潤している。



写真-10 ボンレとトンコーレ 拉古村から南方



3) ラグー氷河の山々

本項が対象とするラグー氷河(拉古, Lhagu Glacier)はアタ氷河(阿扎, Ata Glacier)とともにカンリガルボ山群の中心域を形成する東チベット随一の氷河地帯である。ラグー氷河は舌端の湖とともに谷のラグー村から一望できるので数多くの写真が公開されているが、姿を明瞭に現わしているピークは KG-12(Gongyada 6,423m)、KG-13(Zeh 6,127m)、KG-18(Gemsongu(6,525m)および KG-19(Hamokongga 6,260m)などである。ラグー氷河に接するカンリガルボ山群主稜線の山々はデモラ(徳母拉, Dema La)付近の街道筋から遠望できる。松本徃夫氏、中村保氏、渡部秀樹氏らの写真に加えて神戸大学遠征隊の写真などが解明に重要な情報を提供してくれる。

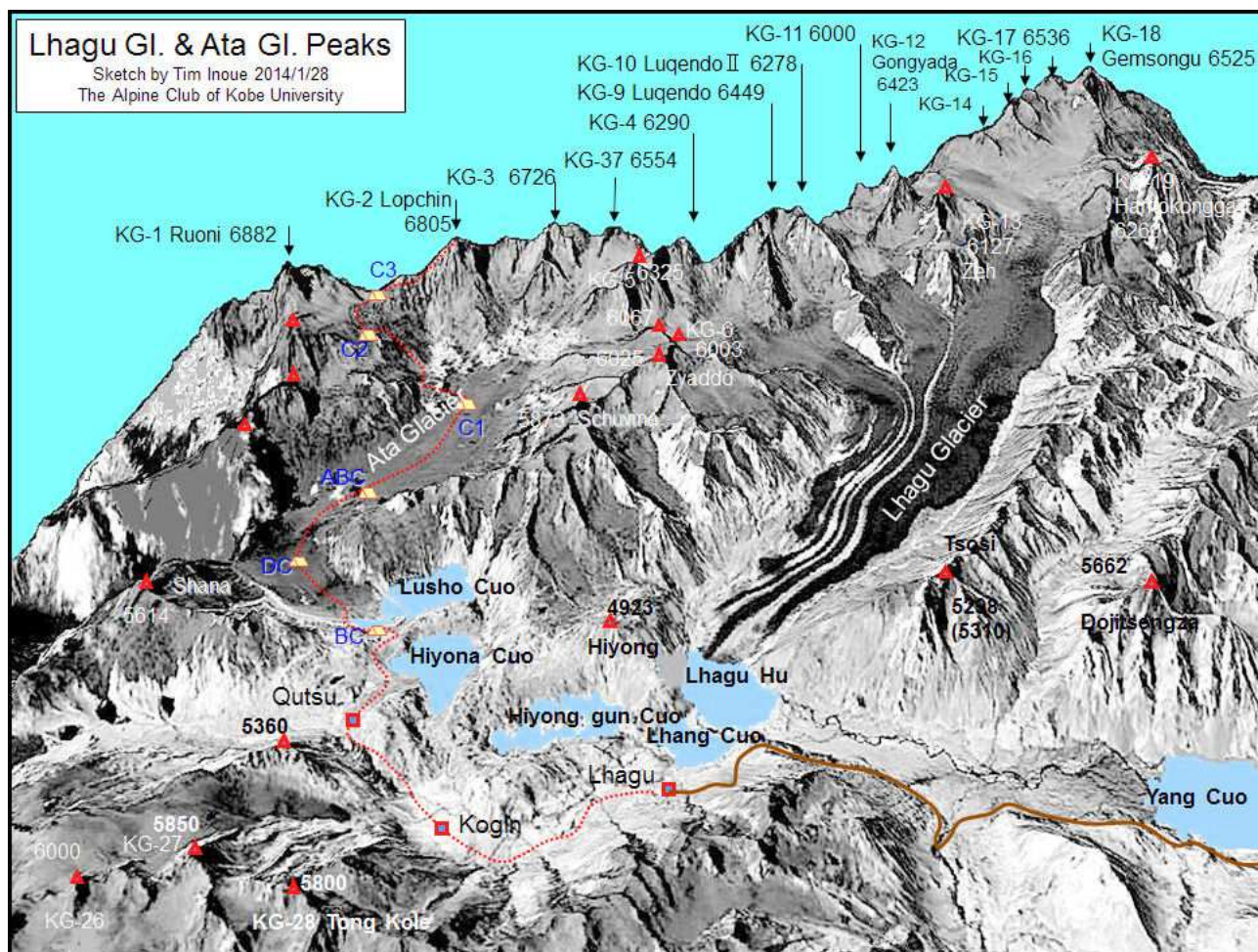
◆ ピークリスト

表-1 に拉古氷河流域の顕著なピークの一覧を示す。拉古氷河流域は 6,000m 峰が 21 座確認できる。表中の標高-2 に標高が示されているピークは既存の松本徃夫氏作成の地図に示されているピークで、標高が記入されていないものはその存在が明らかにされていなかったものである。山座同定を進めた結果、いくつかの発見と詳細結果が得られているので以下に述べる。

表-1 拉古氷河(Lhagu Glacier)流域の山々

NO	Peak ID	標高 1	標高 2	名前	記述
1	KG-4	6290	6290		松本地図 6290
2	KG-4-II	6200	-	Twins	顕著な双耳峰につき愛称とした ASTER 標高
3	KG-5	6340	-		ACKU 発見
4	KG-6-I	6076	-		ACKU 発見 ASTER 標高
5	KG-6-II	6003	-		ACKU 発見 ASTER 標高
6	KG-6-III	6025	5903	Zyaddo	ASTER 標高 6025 松本地図 5903
7	KG-7	5873	5699	Schuvina	ASTER 標高 5873 松本地図 5699
8	KG-9-I-1	6449	-	Luqendo-I	ASTER 標高 6449
9	KG-9-I-2	6350	-		Luqendo-I Minor Peak-1 ASTER 標高
10	KG-9-I-3	6306	-		Luqendo-I Minor Peak-2 ASTER 標高
11	KG-10-I	6278	6390	Luqendo-II	ASTER 標高 6278 松本地図 6390
12	KG-10-II	6218	-		Luqendo-II Minor Peak ASTER 標高
13	KG-11	6091	-	Hiqen-III	ASTER 標高
14	KG-12	6482	6423	Gongyada	別名 Hiqen-I ASTER 標高 6482 松本地図 6423
15	KG-13	6177	6127	Zeh	ASTER 標高 6177 松本地図 6127
16	KG-14	6293	-		
17	KG-15	6350	6321		ASTER 標高 6350 松本地図 6321
18	KG-16	6377	-		
19	KG-17	6536	6606		ASTER 標高 6536 松本地図 6606
20	KG-18	6525	6450	Gemsongu	ASTER 標高 6525 松本地図 6450
21	KG-19	6260	6260	Hamokongga	別名 Dojizangdoi
22	KG-31	5662	5662	Dojitsengza	岩峰 聖山
23	KG-32	5298	5298	Tsoshi	岩峰 聖山
24	KG-34	6377	-	Noi	
25	KG-114	5480	-		Insel Peak

注-2：標高 1 は井上推定値 標高 2 は旧ソ連の地図または松本徂夫氏地図標高



スケッチ-1 拉古氷河(Lhagu Glacier) 阿扎氷河(Ata Glacier)の山々

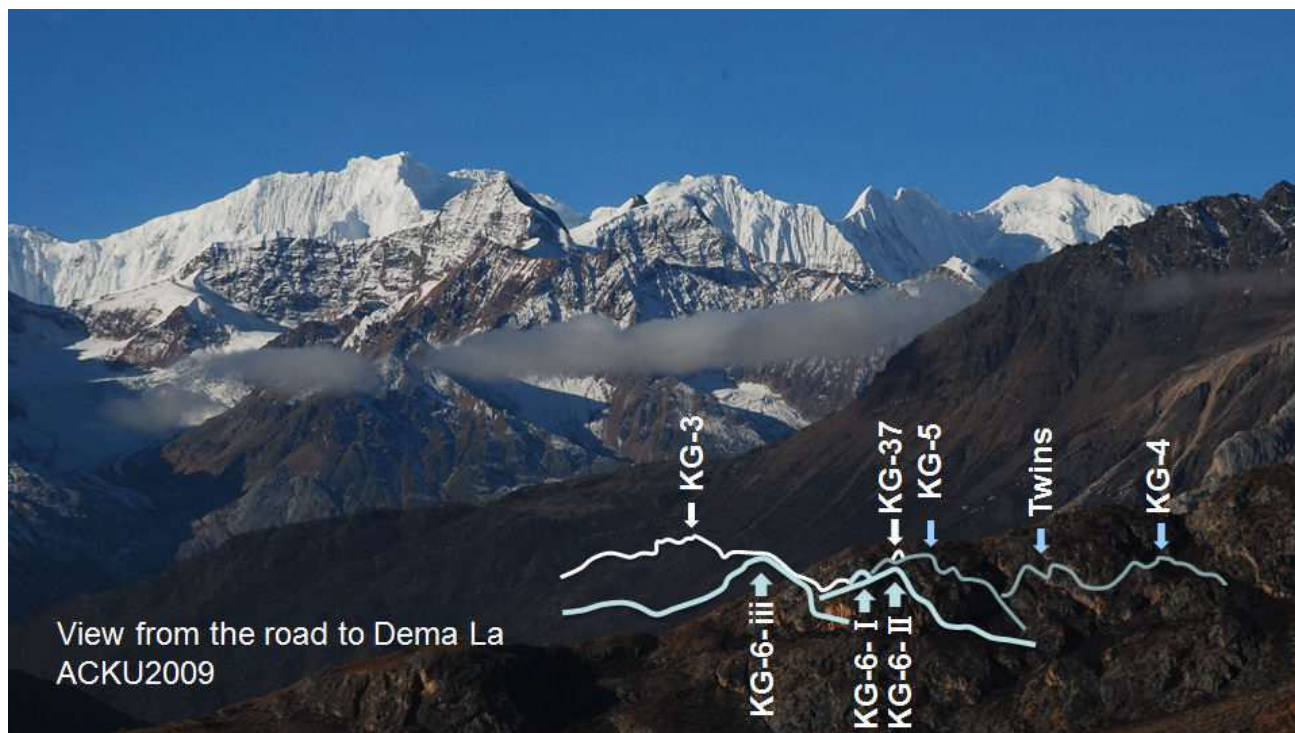


写真-3 アターラグー氷河分水嶺分岐点あたりの崗日嘎布山群主稜線

◆ KG-5 (6,340m)

KG-5は2003年の神戸大学隊がアタ氷河に入ってその姿を写真に収めている。しかし、ピークを同定するに至らず、2007年の偵察隊が再度確認した。松本徂夫氏編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」の地図には記載されていないピークである。分水嶺の氷原に接したピークで比較的登頂の可能性が高い6,000m峰である。



写真-4 アタ氷河源頭の花々パノラマ



写真-5 KG-5 6,340m (アタ氷河 4,600m 付近から撮影)



写真-6 KG-7 Schuvina (5,873m)

◆ KG-6 周辺について



写真-7 アタ氷河から見る KG-6

KG-6はラグー氷河とアタ氷河の分水嶺を構成する3つの顕著なピークを持っていることが神戸大学2003年隊によるア

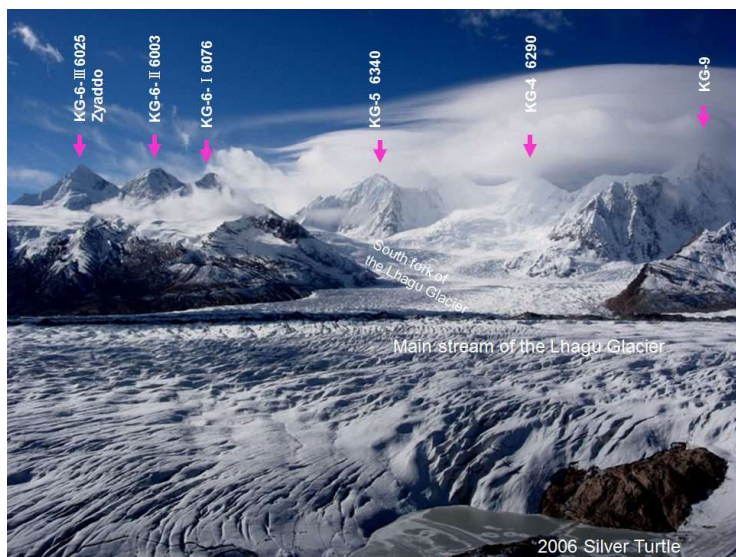


写真-8 KG-7(左3峰)、Ata-Lhagu Passを隔ててKG-5(6,340m)、Twins、KG-4、KG-9

阿扎氷河(Ata Glacier)と拉古氷河(Lhagu Glacier)の分水嶺

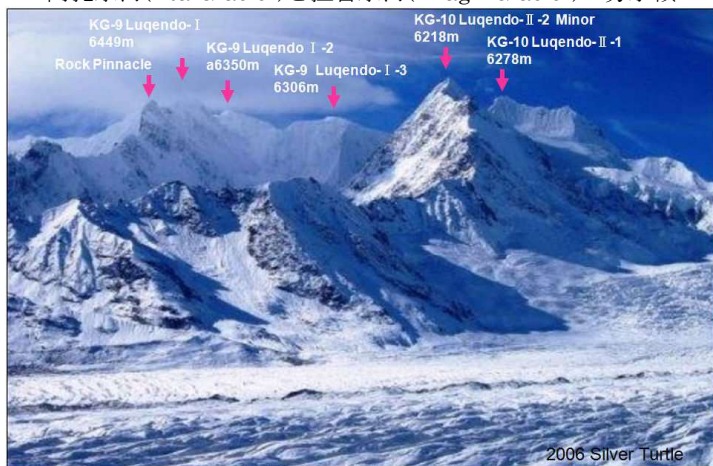


写真-9 KG-9,10の解明

と即座に答えられる。では主稜線ではどれか?と聞かれると答えはロブチン峰(Lopchin 6,805m ACKU 2009年初登頂)であろう。それでは次に登頂できそうなピークは?と聞かれるといずれも鋭く尖った頂稜を持っているので答えが難しい。盟主ルオニイ峰がきわめて危険性の高いピークであり、それと比較するとKG-3やKG-17、KG-18(Gemsongu)あたりが可能性を持っているように思える。拉古氷河を対象を求めるとその最高峰に注目したくなる。

では拉古氷河の最高峰はどれか?これに答えが出ていない。おそらくKG-17またはKG-18であろうと考えている。松本氏の地図ではKG-17が6,606mで最高峰だが、松本氏もこの標高には高すぎるとの意見であった。ASTERの標高を参照すると表-1のようにKG-17は6,536m、

タ氷河からの観察、写真とシルバータートル隊2006年のラグー氷河からの写真により明らかになった。拉古村からはZyaddoと松本氏が同定しているピークを旧ソ連の地図にある5,903m標高点としているが、ASTERやGoogle Earthの地形と旧ソ連の地図の緯経度を比較すると明らかに位置が異なる。衛星のデータから導き出した結果、KG-6はKG-6-I(6,076m)、II(6,003m)、III(6,025m, Zyaddo)とした。

◆KG-9,10 Luqendo について

シルバータートル隊2006年はラグー氷河を遡りスノドーム(KG-84 5,900m)に登りカンリガルポ山群主稜線の数々のピーク写真を得ている。彼らの報告に使ったスケッチ地図にLuqendoが記されているが山名について詳しい記述はないので出所は定かでない。松本氏はKG-10(Luqendo-II)に単に6,390mの標高を記して名前は記されていない。松本地図には一つのピークのみ記されているが、多数の写真から分析するとKG-9から10に繋がる稜線には表-1に示すように5つのピークを確認することができる。

◆ Lhagu Glacier の最高峰は?

カンリガルポ山群で最も登りやすい6,000m峰はどれか?と聞かれたらKG-6



写真-10 拉古氷河源頭の山々。最高峰はどれか?

KG-18(Gemsongu)は6,525mである。この程度のデータの差異ではKG-17の方が高いとは断言できない。Gemsonguは従来の標高が6,450mとされていたが86mも高いデータが得られているので実際がどうなのか興味がつきない。

◆岩峰 Gongyada (KG-12 6,482m)

拉古村から氷河を眺めるとモレーンが横る縞模様と右岸に聳えるゴンヤダ(Gongyada KG-12)及びゼー(Zeh KG-13)の姿に引き付けられる。昨今のクライマー達には格好の登攀対象であろう。各国から登山申請が出されているが、今日まで許可は出されていない。時には真っ白に積雪に包まれ、また晴天が続くと黒々とした岩肌を持つ姿は挑戦的で天空に胸を張っているように見える。朝日に照らされて黄金色に輝くときには崇高なる神を思わせる。KG-12(Gongyada)は東岩稜に登攀ルートを見出すことができそうだ。標高は従来6,423mとされているが、ASTERでは6,482mを得た。59m高い。このグループにはKG-11(6,091m)、KG-12(Gongyada,6,482m)及びKG-13(Zeh 6,127m)の3つのピークがあるがKG-11は拉古からは見ることができない。2006年シルハータートル隊はKG-11をHiqen-III、KG-12をHiqen-I、KG-13をHiqen-IIとしている。



写真-11 KG-11,KG-1



写真-12 KG-11とKG-12(Gongyada 右)

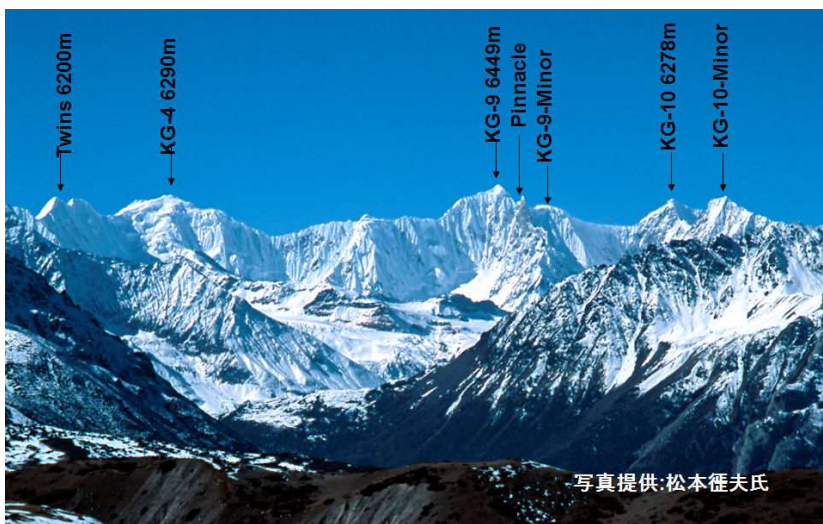


写真-13 崗日嘎布の主稜線 KG-4 から KG-10

◆阿扎氷河源頭から Gongyada へ続くカンリガルポ山群の主稜線

KG-4(6,290m)から Zyaddo の稜線がどのように分岐していくのか、2006年当時の松本氏との議論が懐かしい。KG-2,KG-3,KG-37,KG-5の存在は松本氏等には認識されていなかった。阿扎氷河源頭に小さな Divide Plateau(高所氷原)が存在することが解明されていなかったためである。

松本徹夫編著「ヒマラヤの東 崗日嘎布山群」権歌書房 P161にKG-37(④ 6,443m)ピークからZyaddoに稜線が続いているようにスケッチされている。また、④はKG-37ではなく、KG-5であり、KG-37はこの写真の位置からは尖った頂

上部分がわずかに見え隠れするが、松本氏等は認識していない。また、KG-37はASTERでは6,554mであり、KG-4、KG-5とはプラトーで分断されている。Zyaddo 稜線はKG-5から分岐していることが、神戸大学2009年隊のロブチン峰登攀中に明確に確認された。

◆拉古氷河奥のピーク

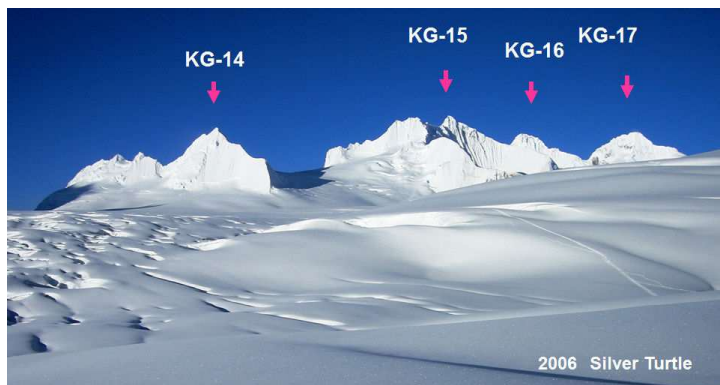


写真-14 Lhagu Glacier Upper Ice Field を囲むピーク

上げて KG-16,17,18 へと続く。KG-17 からは KG-34(Noi 6,377m)に稜線が続いているのか、KG-18(Gemsongu)に繋がっ

カンリガルボ山群の主稜線は氷河によって何ヶ所か分断されている。南東からまず奥アタカン・ラ(Upper Ata Kang La)、続いてアタカン・ラ(Ata Kang La)、そして南北に分かれて流下するアタ氷河(Ata Glacier)の Shana Ice Fall。次にすでに述べたアタ氷河源頭の Divide Plateau が最も標高の高い分断地点である。そして KG-12 から KG-13 に続いた主稜線がラグー氷河の上部氷原で分断されている。すなわち、KG-13 から KG-14 には稜線が続いていない。アイスフィールドからは北流が拉古氷河の本流に合流するとともに南流が KG-114(Insel Peak, 5,480m)にて二分されて Songyu Qu の深い渓谷にアイスフォールとなって落下している。これらの地形は降雪量の多いことを表している特長ある現象であろう。主稜線は KG-14 から再び高度を



写真-15 美しい Insel Peak (5,480m)

ているのか、微妙なところである。稜線が KG-34 に繋がっているとすれば KG-18 は拉古氷河源頭のピークではなく米堆(Midui)氷河の盟主となる。KG-17 が拉古氷河の源頭で盟主となるが、判定には現地での確認が必要だ。



写真-16 KG-17 登路はあるか



写真-17 モレーンの縞模様が見事な拉古氷河(Lhagu Glacier)、左奥は KG-19(Hamokongga 6260m)

◆聖山 ドジチェンザ(KG-31 Dojitsengza) とツオシ(KG-32)Tsoshi

然烏(Rawu)から未舗装の道をドライブして拉古村に近づく右手に鋭い岩峰が現れる。KG-31 (Dojitsengza, 5,662m) と KG-32 (Tsoshi, 5,298m)である。これらはシュデンゴンパの聖山として村人たちに親しまれている。

現在ラゲー氷河流域の6,000m峰はすべて未踏峰のまま人類に頂を明け渡していない。

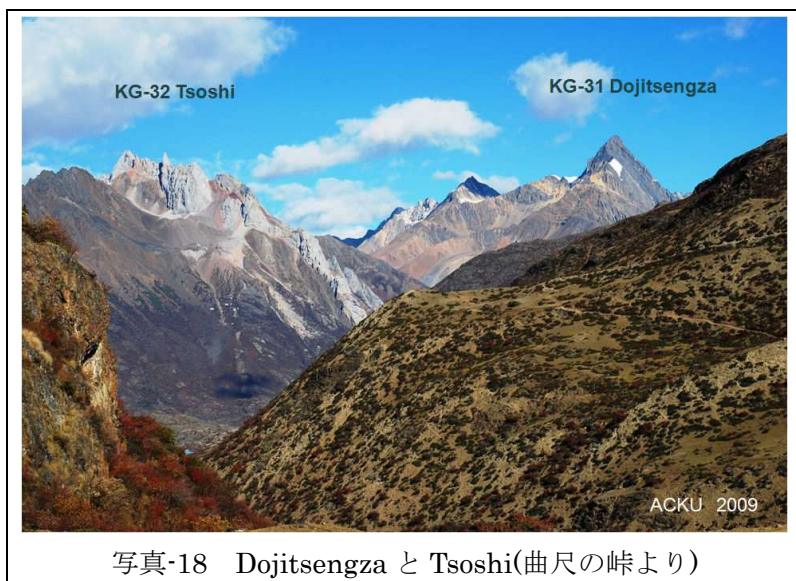


写真-18 Dojitsengza と Tsoshi(曲尺の峠より)

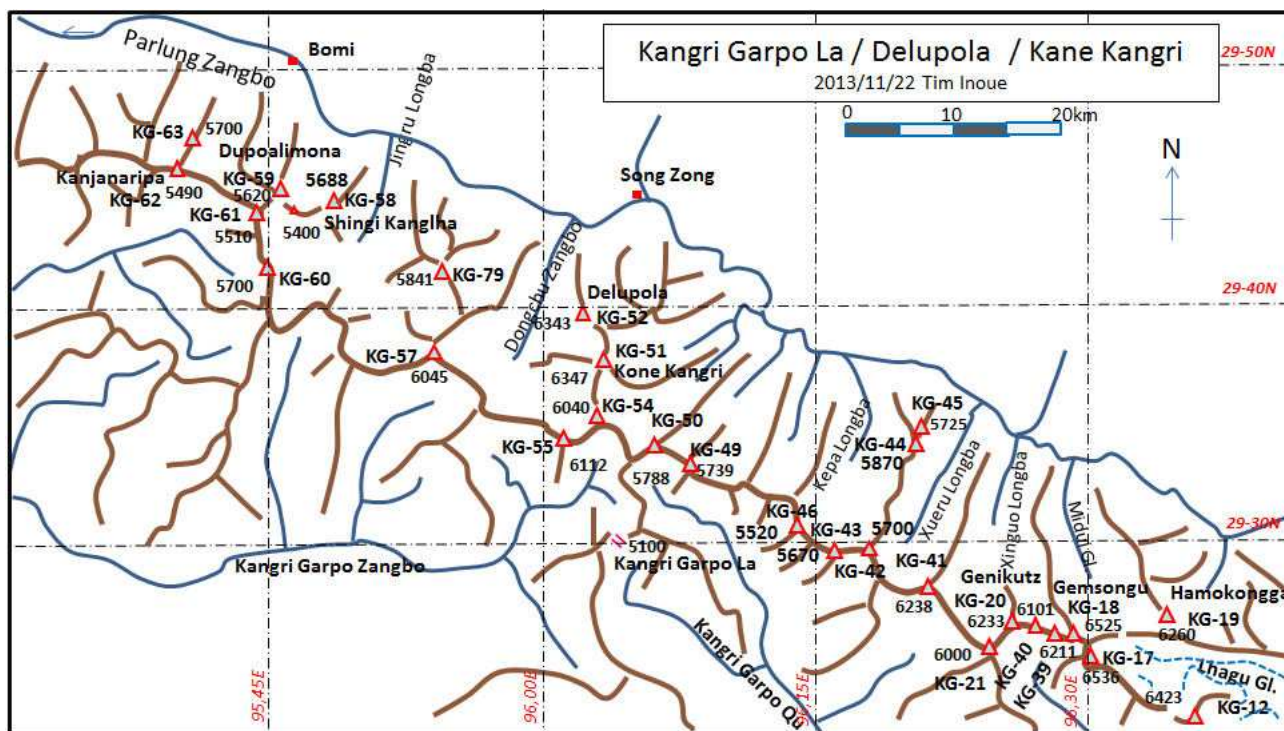
4)ミドイ氷河(米堆 Midui Glacier)周辺の山々

この項ではラグー氷河より西、KG-19、KG-18あたりからケパロンバ(改巴弄巴 Keba Longba)あたりまでのカンリガルボ山群主稜線を中心に探索する。この地域の顕著なピークは表-1に示す通り、12座が揚げられる。6,000m 峰は7座ある。そのうちKG-39とKG-40は双耳峰であり、数え方によっては9座とも言える。

表-1 Midui Glacier, Xinguo Longba, Xueru Longba, Keba Longba 周辺の山々

NO	Peak ID	標高 1	標高 2	名前	記述
1	KG-18	6525	6450	Gemsongu	松本地図 6450
2	KG-19	6260		Hamokongga	
3	KG-20	6233	6220	Genikutz	松本地図 6220
4	KG-21	6000	-		未知のピーク Xinguo Longba
5	KG-39	6211			双耳峰
6	KG-40	6101			双耳峰
7	KG-41	6238			Xinguo Longba
8	KG-42	5700	5740		未知のピーク Xueru Longba 松本地図 5740
9	KG-43	5670	5546		未知のピーク Keba Longba
10	KG-44	5870		Gaisyan Konla	((Gaishan Gong La)Keba Longba
11	KG-45	5725			Keba Longba
12	KG-46	5520	5420		未知のピーク Keba Longba 松本地図 5420

ピークの位置については地図-1を参照願いたい。Google Earth や ASTER のデータおよび松本徂夫氏作成の地図を参考に作成したものである。標高についてはそれぞれのデータからもっとも確信の持てるものを筆者の推定値として記載した。



地図-1 崗日嘎布山群中部の山々

◆ Gemsongu (KG-18, 6,525m)

Gemsongu が Lhagu 氷河の源頭であると考えられていたが、よくよく見ると Noi(6,377m)と KG-17(6,536m)の間に鞍部がありそうで、それを根拠に KG-17 が Lhagu 氷河源頭にある谷の盟主であると仮に結論付けている。したがって Gemsongu と Hamokongga(KG-19, 6,260m)は Midui 氷河のピークに位置づけられる。

KG-18 (Gemsongu)は開けた米堆(Midui)谷の奥に Noi (KG-34, 6,377m)とともに聳えているので早くから注目されているピークである。米堆村は観光地化しており、多くの写真が公開されている。



写真-2 Gemsongu (KG-18 6525m)



写真-3 Midui 谷から見た Gemsongu と Noi

◆ Hamokongga (KG-19, 6,260m) 別名 Dojizandoi

ラグー(Lhagu)村から眺めるラグー氷河は雄大で居並ぶ岩峰群をちりばめて東チベット唯一の景観を見せてくれる。その中でもハモコンガ(Hamokongga KG-19 6,260m)は右端を締めくくる尖塔を形作っているが、このピークは Lhagu 氷河の分水嶺ではなく、ミドゥイ氷河側に派生した尾根上にある。ハモコンガの意味は「白い雪の女神」でハモ・カンカールであると、松本徂夫氏編著「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」は述べている。

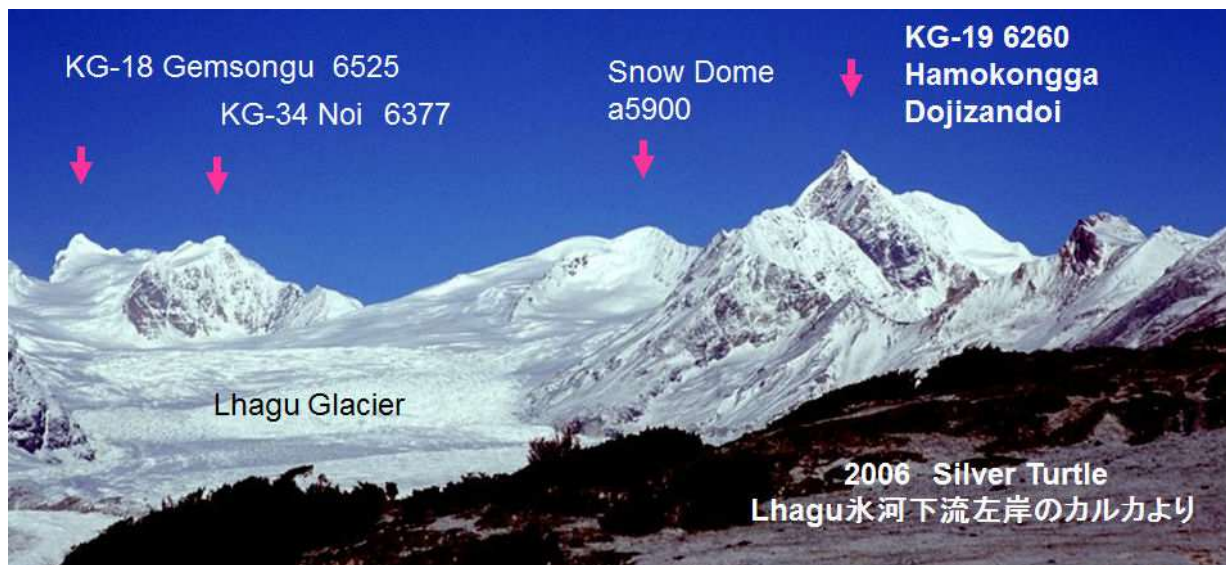


写真-4 Lhagu 村から

スノードーム(5,900m)は 2006 年のシルバータートル隊が頂上に達し、ラグー氷河奥のピークを全て解き明かした。頂上から加藤晴久氏が撮影した数々の写真はラグー氷河の山々のみならずコネカンリやデルボラの姿も遠方で不鮮明ながらもその存在を明らかにした貴重なデータとなっている。ミトゥイ (米堆 Midui)谷は 2000 年以降日本山岳会福岡支部が 5 次にわたって崗日嘎布山群を調査した折に度々訪れている。隊員の中山健氏は米堆谷の山々に詳しい。



KG-19 6260m
Hamokongga
北東面 渡部秀樹

写真-5 Hamokongga 北東面

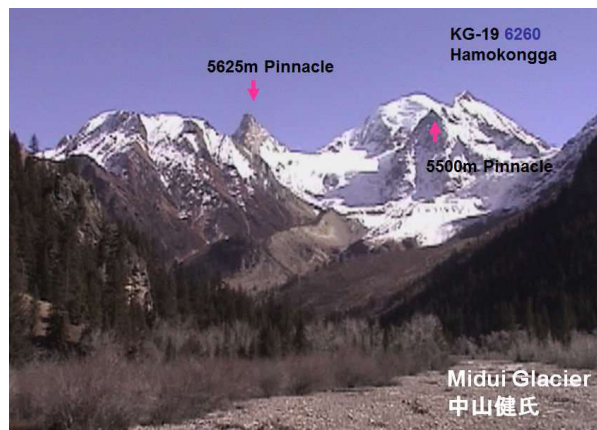


写真-6 米堆谷から見た Hamokongga

◆ KG-39 (6,211m), KG-40 (6,101m)

中山健氏がゲニクツ(Genikutz)について松本徹夫氏とは違う見解を述べている。筆者は根拠を持たないが、仮に書籍「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」にて発表された松本氏の見解である KG-21(6,233m)をゲニクツとしている。中山氏は KG-40の東峰をゲニクツとしている。中山氏は米堆村の村民からのヒヤリングを根拠としている。カンリガルポ山群山群の山名は訪れた人の調査によりまちまちでなかなか決定することが困難である。当面はどれかを選ぶのではなく、複数列記しておくことが無難であろう。但し、遠征隊が勝手に名づけたものはそれを明記しておかねばならない。山名は現地名を最優先としたいものだ。



図-1 KG-18 から KG-20 への崗日嘎布山群山主稜線(Google Earth)

Google Earth(図-1)では KG-39 と KG-40 の双耳峰は顕著でないが、写真-7、8 では顕著な双耳峰が捉えられている。



写真-7 どれが Genikutz か?



写真-8 新果谷から見る KG-40

◆ Genikutz (KG-20, 6,233m)

2009年に中村保氏が新果谷(Xinguo Longba)に入って KG-40、KG-20、KG-41 の姿を撮影している。また、2004年に

は渡部秀樹氏が同谷を訪れ同様の写真を手に入れている。しかし、KG-20の隣にあるKG-21(6,000m)は残念ながら雲の中ではっきりした姿を見せていない。



写真-9 KG-20 Genikutz



写真-10 KG-21(6000m)ガスで不明瞭

◆ KG-83 (5,870m)

すこし対象エリアから外れるが、カンリガルボ山群の主脈にあるKG-21(6,000m)から南東に派生して送玉曲(Songyu Qu)と崗日嘎布曲を分かつ稜線が伸びている。そこにはKG-83(5,870m、図-1のスケッチでRuoniの右手にある5,870mピーク)がある。目立つ高峰は近くにKG-82(5,450m)があるがそれだけである。

◆ KG-41 (6,238m)

新果谷(Xinguo Longba)は二股あたりから氷河が東西に分かれて崗日嘎布山群の主稜線に登っている。谷の盟主はKG-41(6,238m)であるようだ。出合付近まで達した中村氏はKG-41の姿を捉えている。2006年のシルバータートル隊がLhagu氷河のスノードーム(5,900m)に登って数々の貴重な写真を撮っていることはすでに述べたが、西方にカメラを向けた一枚にコネカンリ(Kone Kangri)やデルボラ(Delupola)遠景の左手にKG-41の姿をはっきりと収めている。撮影場所と両方の写真に写っている稜線の特徴点からKG-41を同定することができた。



写真-11 KG-41(6238m) 新果谷より



写真-12 KG-41 ラグー氷河スノードームより

◆ Gaisyan Konla (KG-44, 5,870m), KG-45 (5,725m)

帕隆蔵布(Parlung Zangbo)沿いの川蔵公路を然烏(Rawu)に向かって走っているとき改巴谷(Kepa Longba)の奥に夕日に輝く岩峰を見た。カンリガルボ山群の主稜線にしては近すぎるなと思って気になる存在だった。その解答は加藤晴久氏のスノードームから撮影した西方の写真が提供してくれた。



写真-13 Kone Kangri, Delupola と KG-44, 45

(注: Snow Dome の標高は Silver Turtle タイでは 6000m としている)

また、この写真はコネカンリを捉えた初めての写真とも言える。松本徭夫編「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」P81 によると Gaisyan Konla は Gaishan Gong La と書かれ、ピークの南西にある峠(5,099m)と同名ともされている。改善貢拉かぶこんらとも書かれている。

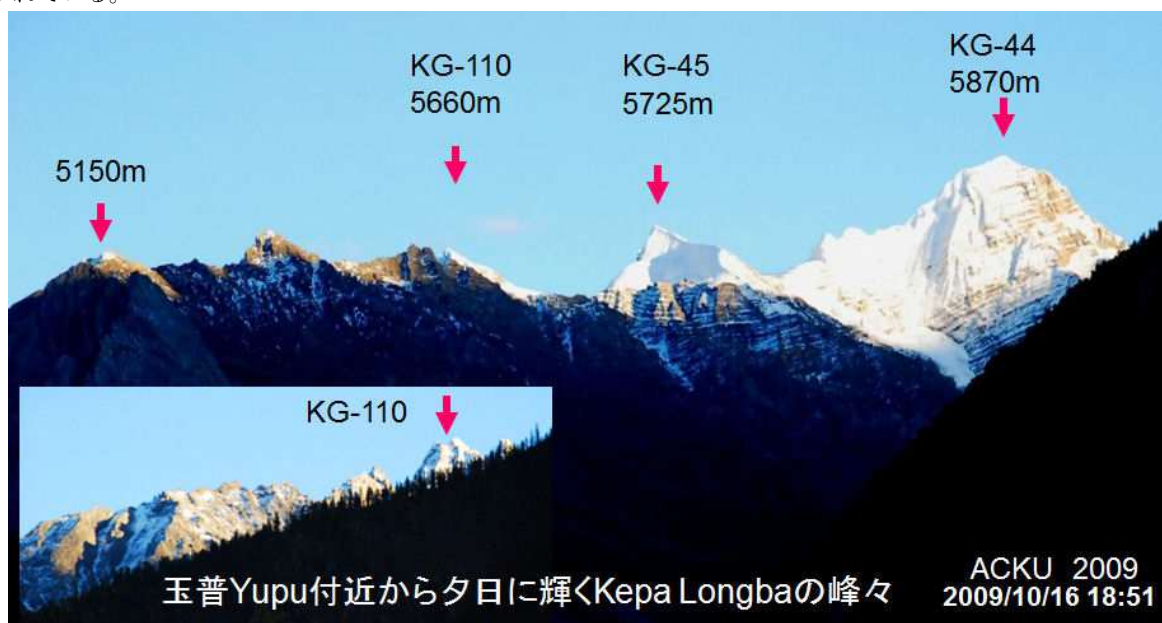


写真-14 Gaisyan Konla (KG-44,Gaishan Gong La) と KG-45

Kepa Longba の奥にはカンリガルポ山群の主稜線上に KG-42(5,700m)、KG-43(5,670m)、KG-46(5,520m)が存在するようだが、その姿は未知のままである。

5)山群西部の山々(Kangri Garpo La、松宗(Song Zon)、波蜜(Bomi)あたりの山々)

パルンツァンポー (帕隆蔵布 Parlung Zangbo)沿いの最大の町はボミ (波蜜 Bomi)である。町の北側はニエンチンタラ山群(念青唐古拉 Nyainqentanglha)が広大に展開している。そちらにも興味深い山々が存在する。町からは雪をまとった美しい岩峰群が観られる。まるでアルプスの様なども、カナディアンロッキーの様な、と比喻すればよいのだろうか。5,000m級のピークが林立するのでヨーロッパやカナダよりも少しスケールが大きく、また登攀も困難そうなものが多数だ。

チベットの人々の生活圏に存在する山々は聖山として信仰の対象になっており、山名の多くはチベット仏教に由来する。一方、山脈の主稜線に近い山々は深く切れ込んだ谷の奥に氷河を抱いて人々を近づけない存在として捨て置かれている。そのため登山隊や探検家が村人達に名前を聞いても知らないか、彼らの勝手な名前を教えてくれるので決め手に欠く。しかし、登山対象としては聖山でないことは有難い。

地図-1に主要部の拡大地図を示す。☆印で山々の観察ポイントを3か所記している。また、表-1に主たるピークのリストを示す。6,000m峰はマイナーピークも含めて9座が数えられる。一方、5,500m級のピークは多数で街道筋から見えるもの以外は人知れず未知のまま残されている

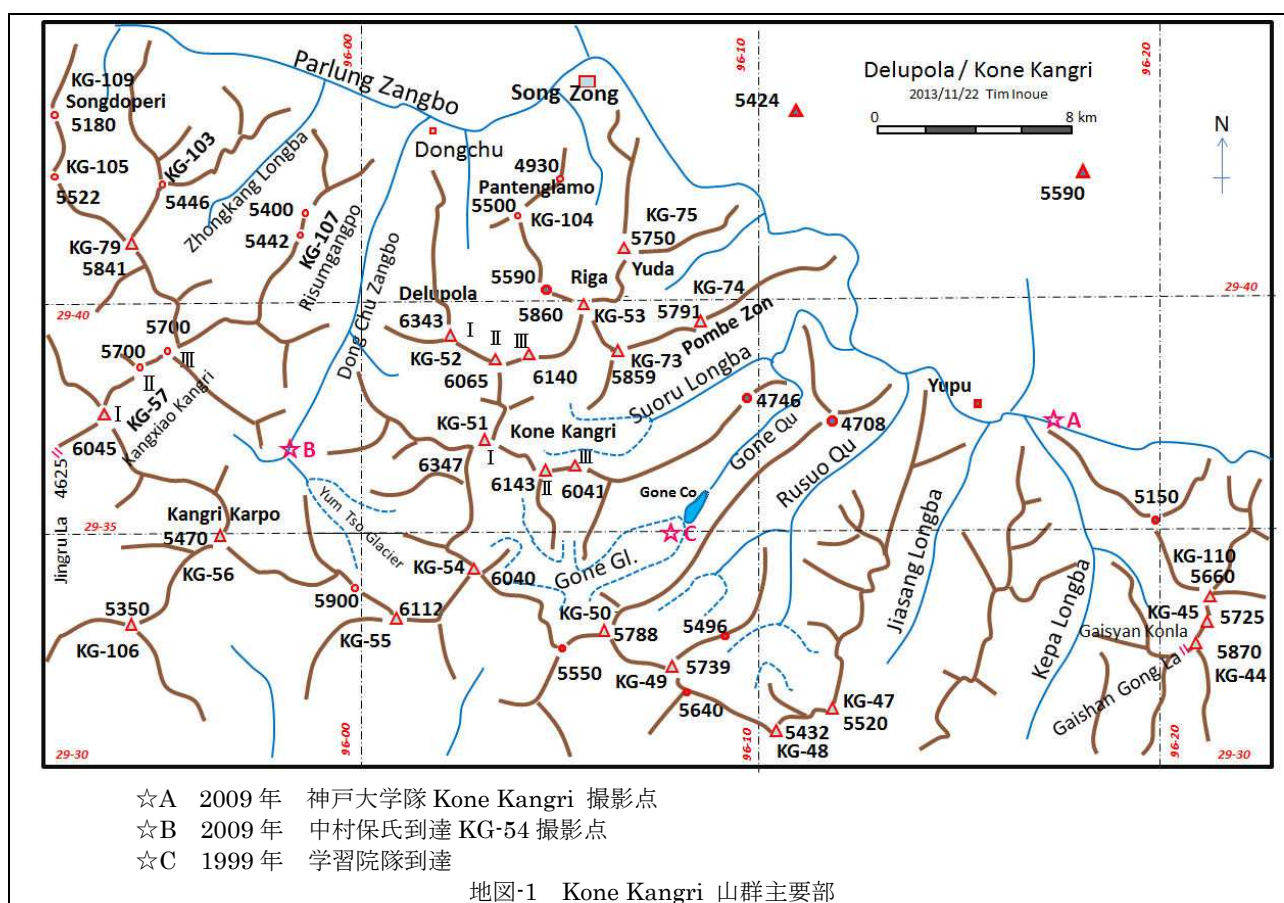


表-1 Delupola, Kone Kangri 周辺の山々

NO	Peak ID	標高 1	標高 2	名前	記述
1	KG-47	5520			未知のピーク Jiasang Longba
2	KG-48	5432			未知のピーク Rusuo Qu
3	KG-49	5739			未知のピーク Rusuo Qu
4	KG-50	5788			未知のピーク Gone Glacier
5	KG-51-I	6347	6260	Kone Kangri I	中国地形図標高 6347 松本地図 6260
6	KG-51-II	6143		Kone Kangri II	未知のピーク
7	KG-51-III	6041		Kone Kangri III	未知のピーク
8	KG-52-I	6343	6230	Delupola I	中国地形図標高 6343 松本地図 6230
9	KG-52-II	6065		Delupola II	
10	KG-52-III	6140		Delupola III	
11	KG-53	5860		Riga	松宗ピラミッド
12	KG-54	6040			Yum Tso Glacier
13	KG-55	6112			未知のピーク Yum Tso Glacier
14	KG-56	5470		Kangri Karpo	Dongchu Zangbo 奥の目立つピーク
15	KG-57-I	6045		Kangxiao Kangri	未知のピーク Dongchu Zangbo 西の源頭
16	KG-57-II	5700			未知のピーク Dongchu Zangbo 西の源頭
17	KG-57-III	5700			Parlung Zangbo から遠望可
18	KG-58	5688		Shingikanglha	Bomi の街から見える
19	KG-59	5620		Dupoalimona	Bomi の街から見える
20	KG-60	5700			
21	KG-61	5510			Galong Gompa の奥山
22	KG-62	5490		Kanjanaripa	
23	KG-63	5700			Gu Duo 付近から近くに見える
24	KG-73	5859		Pombe Zon W	松宗ピラミッド
25	KG-74	5791		Pombe Zon E	松宗ピラミッド
26	KG-75	5750		Yuda	松宗ピラミッド
27	KG-79	5841			
28	KG-103	5446			
29	KG-104	5500		Pantenglamo	Pinnacle-B
30	KG-105	5522			
31	KG-106	5350			未知のピーク Kangri Karpo の南西
32	KG-107	5442		Risumgangpo	3つのピークに見える
33	KG-109	5180		Songdoperi	Pinnacle-A

◆ Kone Kangri (KG-51 6,347m)

1999年、カンリガルボ山群が注目され始めていち早く学習院隊がコネカンリ(Kone Kangri KG-51 6,347m)の登路偵察を目的にゴネ氷河(Gone Glacier)に入っている。しかし、ゴネ湖(空錯 Gone Cuo)の先で行く手の氷河に前進を阻まれるとともに山の姿も見ることができずに終わっている。隊員の錦織英夫氏からは「チベット東南部 ヒマラヤ偵察行」学習院山桜会発行の報告書とともに山域の貴重な情報をいただいた。地図-2はその報告書の地図を転載したものである。地図にはコネカンリの北に6,343mが記載されているが、これはデルポラ(Delupola, KG-52)である。2009年には中村保氏が東秋谷(Dongchu Zangbo)を踏査した折、谷の奥深く足を延ばしたがコネカンリの姿を見ることができなかった。

さて、コネカンリの姿は2009年、神戸大学(ACKU)隊がロプチン峰登頂後ラサへの帰路、玉普(Yupu)の上流にて撮影した山々の写真の中に写っているのを帰国後の分析で発見した。山本恵昭隊員と筆者のカメラにそれぞれ残されていた。道中GPSにて軌跡を記録していたので写真の撮影時刻と合わせて撮影場所が特定でき、Google Earthなどのデータと照合してコネカンリであることを同定した。

その後2006年、シルバータートル隊の加藤晴久氏のラゲー氷河(Lhagu Glacier)、スノードーム(5,900m)からの写真および本稿の冒頭で述べた烏里烏沙氏の空撮写真にも遠景ではあるが姿が映っていることを発見した。登路の発見など登攀にはまだまだ情報不足であるが、周辺の情報からすると手強いピークのようなのだ。

コネカンリには主峰を含めて3つ6,000m級のピークが存在するが姿は未知である。KG-51-I(6,347m)、KG-51-II(6,143m)、KG-51-III(6,041m)となっている。



地図-2 コネカンリ周辺



写真-1 Kone Kangri 発見

◆ Delupola (KG-52 6,343m)

松宗(Song Zon)の南には目立つ岩峰が林立している。尖塔を天に突き上げた岩山や釈迦三尊を思わせるような左右にマイナーピークを従えたりスムガンボ(Risumgangpo KG-107)、いくつものピラミッドが重なり、まるでエジプトのピラミッド群を巨大化したのではないかと見上げると圧倒されるものなどが帕隆蔵布沿いに次々に現れて旅行者を楽しませてくれる。沢山撮った写真は地形が複雑で同定には苦労させられた。その中で山塊第二の高峰がデルポラである。東秋村付近から見えるので旅行者にも知られたピークである。よく調べてみるとこちらも3つ6,000m級のピークが確認できる。デルポラ本峰 KG-52-I(6,343m)、KG-52-II(6,065m)、KG-52-III(6,140m)である。

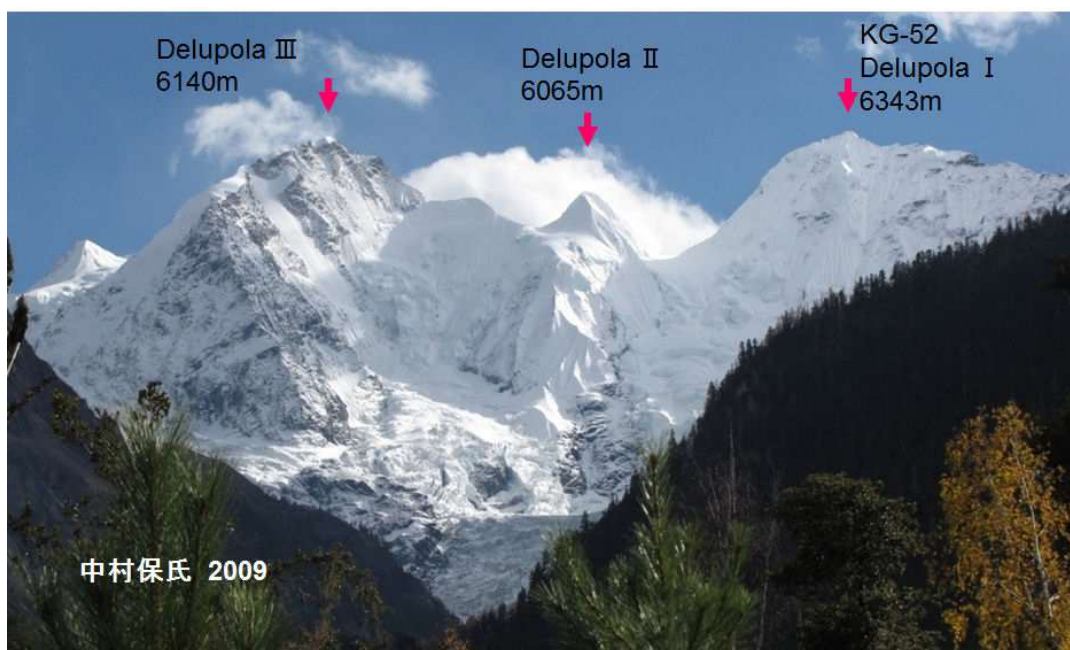


写真-2 東秋村付近の川蔵公路からデルポラの三峰を見ることができる

また、東秋谷(Dongchu Zangbo)には KG-54 (6,040m)、KG-55 (6,112m)およびカンリカルポ(Kangri Karpo KG-56 5,470m)が存在する。KG-55はその姿が未知である。



写真-3 Kangri Karpo (KG-56,5470m)



写真-4 KG-54 (6040m)

◆ Riga (KG-53 ,5860m)、Yuda(KG-75 ,5750m)などの聖山達

居並ぶピラミッドは川蔵公路を旅していると形を変えつつ次々と現れ山裾に消えてゆく。リガ(KG-53)、ユダ(KG-75)は川蔵公路から間近に見える。KG-104(Pinnacle-B, 5,450m)は広い屏風を持つ特徴ある岩峰でパンテンラモ(Pantenglamo)と呼ばれている。いずれのピークも現地の人々が聖山として信仰の対象としている。

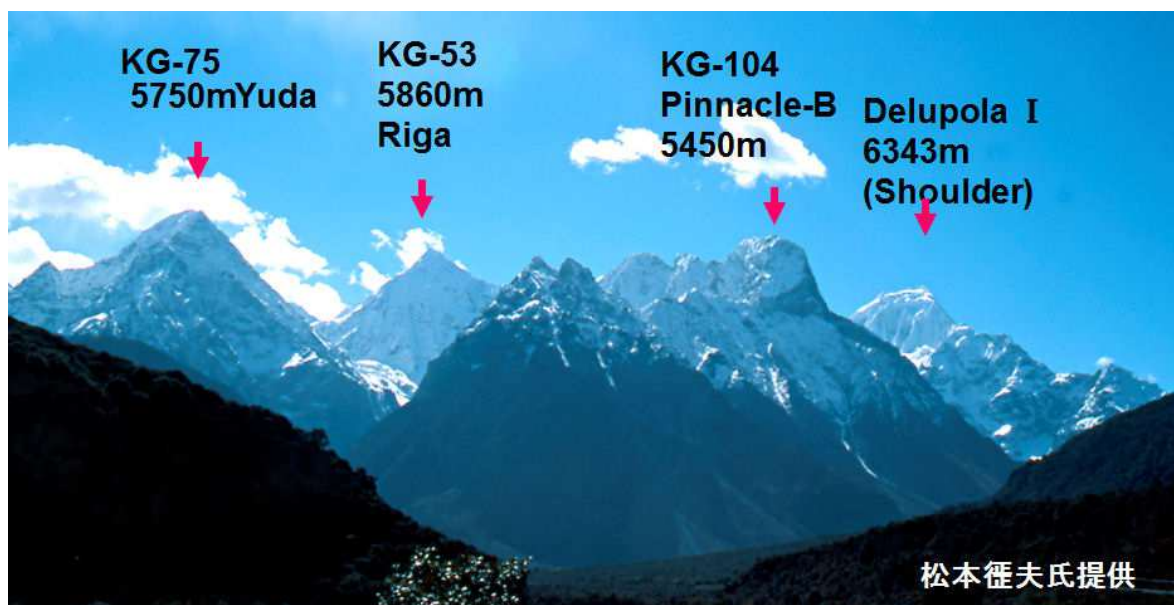


写真-5 松宗 (Song Zon) 四山の聖山達 Pinnacle-B は Pantenglamo

◆ Pombe Zon (West KG-73 5,859m; East KG-74 5,791m)

ユダ(Yuda)やリガ(Riga)の鋭峰を過ぎると Suoru Longba の北側壁にそびえる 2つのピラミッドが現れる。ポンベゾム (Pombe Zon と呼ばれている聖山。東西どちらも立派で姿の良いピラミット型の岩峰である。中央のピークは KG-74 のマイナーピーク(KG-74-II, 5,650m)で写真-6のKG-74左肩に隠れて見えない。

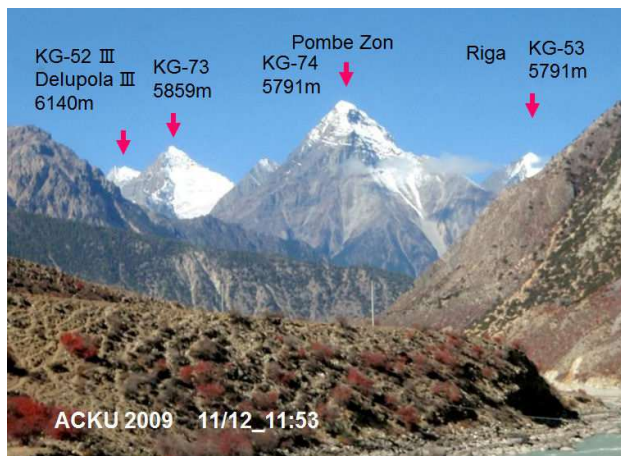


写真-6 Pombe Zon と Delupola-III



写真-7 Riga と Yuda
写真-5の反対面

◆ 2つのピナクル

川蔵公路の帕隆蔵布 (Parlung Zangbo) に合流する Zhongkang Longba には KG-79 (5,841m)の峻嶒なピークがある。そこから北に派生している尾根に良く尖ったピナクルがあり、川蔵公路を東に進んでいくとしばらく車窓の右に見え隠れする。Pinnacle-A でソンドペリ(Songdoperi KG-109 5,180m)だ。山の西側の金珠谷(Jingru Longba)を南に遡るとカンリガルボ山群主稜線の金珠拉(Jingru La 4,625m)を越えて山脈の南面、堤琴曲(Diqin Qu)を経て崗日嘎布蔵布(Kangri Garpo Zangbo)に出る道がある。

帕隆蔵布をさらに東に進むとまたピナクルが現れる。一瞬先ほどのピナクルを違う角度から見たのかと錯覚するがこれは Pinnacle-B でパンテンラモ(Pantenglamo KG-104 5,500m)である。東秋蔵布(Dongchu Zangbo)の一つ東の小さな谷の入口に鎮座している幅広い岩壁の右端に岩塔が屹立している。谷の奥にはデルポラの三峰がサーク(圏谷)を形成している。



写真-8 Pinnacle A

松本徃夫氏の地図ではこの岩壁の左端(北東端)のピーク 4,930m をパンテンラモとしているが、姿形から Pinnacle-B をパンテンラモとするのが自然だと考えた。

◆ Risumgangpo(KG-107 5,442m)

リスムガンポも聖山。松宗 (Song Zon) ゴンパから南西方向に見える。3つのピークから成り、中央が最高峰のように見えるが、実際は左端が一番高い。右端は肩にすぎないが、まるで釈迦三尊である。



写真-10 Risumgangpo(KG-107, 5442m)



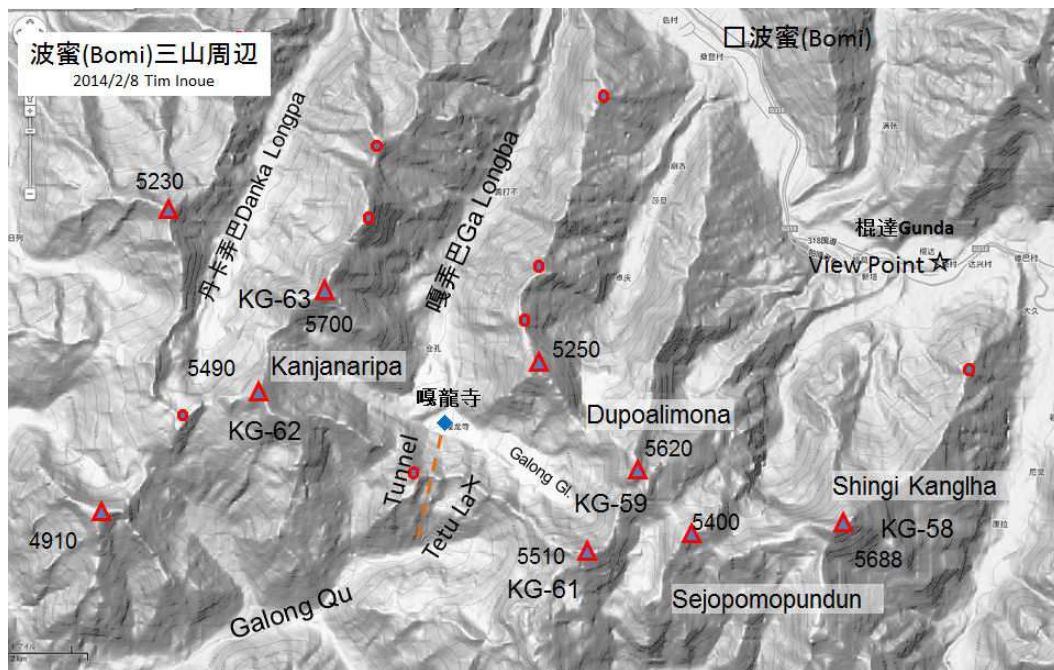
写真-11 Shingikanglha (KG-58 5,688m)

◆ ボミ三山 (波蜜 Bomi)

波蜜(Bomi)の東、ゴンタ(棍達 Gunda)の村から南方に展開する特徴ある山々が左からシンギカンラ(Shingikanglha KG-58 5,688m)、セジョポモブドゥン(Sejopomopundun)、ドゥポアリモナ(Dupoalimona KG-59 5,620m)、および KG-79 (5,841m)などで初めての三山は波蜜三山とされている。松本徃夫編著の「ヒマラヤの東崗日嘎布山群」P335によるとシンギカンラは白い獅子神、雪神の意味、セジョポモブドゥンは七人姉妹、ドゥポアリモナは黒顔の魔神の意味でこのあたりの聖山(ユラ)といわれている、と解説されている。ただ、山の順番を西から(写真の右から)セジョポモブドゥン、ドゥポアリモナ、シンギカンラとしているが地図と写真および記述の間に疑問が残る。筆者の推定では KG-58 と KG-59 の間の針峰が林立しているピーク(a5,400m)が七人姉妹の名前からセジョポモブドゥンではないだろうか。



写真-12 KG-58 Shingikanglha5,688m(左) と Kg-59 Dupoalimona5,620m



地図-3 波蜜(Bomi)三山周辺の同定

シンギカンラは波蜜(Bomi)の街から間近に見ることができる。帕隆蔵布の岸边から夕日に輝く姿が印象的だった。KG-59とKG-63の間の谷、嘎弄巴(Ga Longba, Galongpa)には波蜜(Bomi)から (Galong Gumpa)を経てTetu Laを越え嘎弄曲(Galong Qu)を下り墨脱(Medog)へ至る道路がある。現在峠にはトンネル工事が進められている。この谷へ外国人が立ち入ることは厳しく制限されている。



写真-13 KG-61(5,510m)と Galong Glacier 右端は Tetu La



写真-14 KG-62 5,490m KG-63 5,700m
古多付近の帕隆蔵布岸辺から

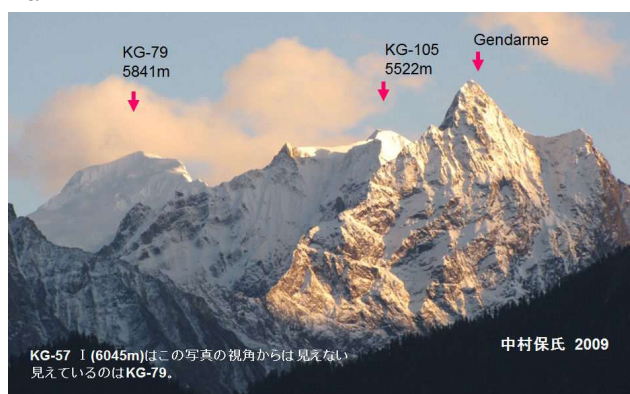


写真-15 KG-79 5,841m および KG-105

第三章 崗日嘎布山群の主要ピークの同定方法について

カンリガルボ山群はようやく探検的登山、初登頂の時代を迎えた。これは 21 世紀の奇跡と言えまいか。山群には 30 座程度の 6,000m 未踏峰が林立しているといわれていたがどうやらこの数字は低すぎるようだ。昨今入手可能になった NASA World Wind、Google Earth 及び 2009 年に新たに公開された ASTER GDEM (注記-1) のデータおよび 2009 年の神戸大学・中国地質大学合同崗日嘎布山群学術登山隊の現地観察結果などを総合的に参照してカンリガルボ山群の主要ピーク(およそ 5,500m 以上)の同定を試みた。標高の推定及び疑問について以下に報告する。

ちなみに 2009 年に登山中に測量したピークについて既存の地図や ASTER GDEM データなどとの比較をしてみる。(表-1)

表-1 各種標高比較 (単位:m)

NO	KG-#	山名	ACKU 推定	2009 測量	旧ソ連	中国	ASTER
1	KG-1	Ruoni	6882	6859	6805	6882	6841
2	KG-2	Lopchin	6805*	6814	6703		6791
3	KG-3		6726	6740	-		6698
4	KG-5		6340	6373	-		6340
5	KG-6 III	Zyaddo	6025	6018	5903**		5999
6	KG-7	Schuvina	5873	5890	5699		5873
7	KG-8	Shana	5614	5614	5593		5571

表中注記 * 登頂時の GPS でデータ ** KG-6 II の位置データ

注記-1 ASTER(Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer)

1)カンリガルボ山群の主要ピークリスト



写真-1 徳母拉(Dema La)への道路(主峰群から27~29kmの距離)から見たカンリガルボ山群の主稜線、阿扎氷河(Ata Glacier)の三姉妹峰(左から若尼峰(KG-1)、ロブチン峰(KG-2)及びKG-3(KG-4,5,6などが重なっている))

今日まで入手可能な地図や著書に記述されている標高については疑問も多い。神戸大学山岳会では2002年に初めて阿扎氷河(Ata Glacier)を訪問して以来、カンリガルボ山群の山座同定を続けているが、新しい情報を入手するたびに主要ピークの標高に関して疑問を持ち続けて今日に至っている。

その典型的な例がKG-2(ロブチン峰)の標高である。2009年11月7日、山頂にてGPSによる高度測定の結果、6,805mを得た。従来は旧ソビエト連邦の地図にある標高、6,703mであったので驚くべき差異を得た結果である。

最新の地球観測衛星のデータであるASTER GDEMが2009年6月に無償公開されたのでこの情報を従来の数字と比較して各ピークに適用しそれらの差異を検討した。

表-2にGoogle Map及び松本徂夫氏のスケッチマップなどから得た標高に加えて、最近のASTER GDEMより簡易的に得られた数値を示す。カンリガルボ山群の標高6,000m以上および、今まで6,000mあるのではないかとされていたピークを選んで表に示した。KG-##はピークの同定に関連して識別のために我々が独自に採番したもので、ピークを確認するたびに番号を付与したので特別な法則で整列されたものではない。

カンリガルボ山群の高峰群は次の5つの山群にグループ化すると全体を把握しやすい。

- 1) Delupola 山塊 (西北部)
Delupola 及び Kone Kangri の存在するエリア
- 2) Midui 氷河周辺(中西部)
- 3) Lhagu 氷河周辺 (中部)
- 4) Ata 氷河周辺 (中部)
- 5) Gheni 山塊 (東南部)

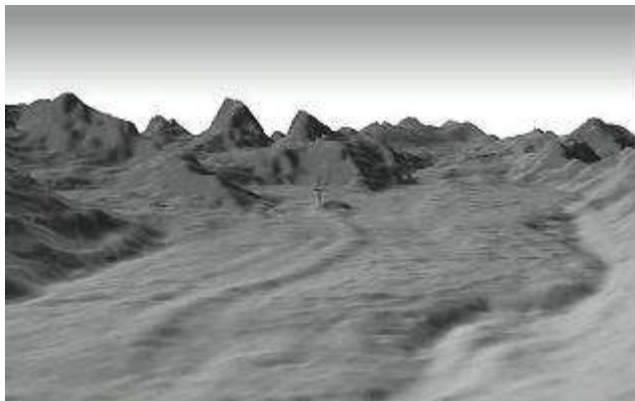


図-1 ASTER GDEM 3D Image (Lhagu Glacier)

衛星からの測量データには、仮説の域を出ないが、次のような傾向がある。

(1) 平坦地の標高は比較的精度が高く、たとえばGoogle Mapの阿扎氷河本流の標高は我々が三台のGPS[GARMIN]で観測したデータのばらつきである10m程度に収まっている。

(2) ピークの標高は、頂上部がドーム型のように広いピークについてはGPSデータに近い値かやや低い標高(10~15m程度の最大ずれ)を示す。一方、ピラミッド型やナイフリッジのように薄い稜線を持つピークは時として50m超の実際より低いデータを示す傾向がある。その例としてKG-28(Tongkole)とKG-29(Pongle)の例が挙げられる。2009年の登山隊が登山中に撮影した写真-2と観察結果からKG-28(5,800m) > KG-29(5,770m)と推定したが、ASTERデータではKG-29(5,759m) > KG-28(5,703m)でKG-29は比較的両者ともに近い値だが、尖峰である

KG-28 は 100m 近い差異となっている。

(3) ASTER GDEM のデータにはまだまだノイズが多く 3D View であきらかにデータ欠陥が見られる場所が多いが、写真と照らし合わせるとピークの同定に活用可能だ。但し山肌や氷河上のコブや窪みが不自然に並ぶのでまだまだ観測データの蓄積とシステムの改善が必要と思われる。

図-1 ASTER GDEM 3D Image (Lhagu Glacier)

(4) Google Earth に使用されているデータと比較して ASTER GDEM の標高データは精度が高いと思われる。ASTER GDEM の標高精度は 7~14m(標準偏差)とされているが、前述の通りそれがそのまま実際の精度として各ピークの標高データが得られる訳ではないようだ。

図-1 は拉古(Lhagu)氷河とカンリガルボ山群の主稜線上にあるピークの立体図を得たものである。ピークの識別が可能であるとともに、1 秒 (約 30m) メッシュの標高データを得ることが出来る。表-2 に示す ASTER 欄の標高が該当する。写真-3 に拉古村から撮影した拉古氷河と周辺の山々の姿を示す。ピークの識別の有用性が解る。

カンリガルボ山群の ASTER GDEM データの内、西部と南西側はノイズが多く使用に耐えない部分が多くあるが、カンリガルボ山群の主稜線については比較的ノイズや不自然な凹凸が少ない。

表-2 カンリガルボ山群の6000m峰
高度順(ASTER GDEM)

NO	Peak ID	Name	Current	Estimation ACKU	ASTER
1	KG-1	Ruoni 若尼峰	6882		6848
2	KG-2	Lopchin 洛布青峰	6703	6805	6791
3	KG-3			6726	6698
4	KG-37		6443		6554
5	KG-17		6606	6405	6536
6	KG-18	Gemsongu	6450	6371	6525
7	KG-12	Gongyada	6423		6482
8	KG-9	Lugendo I		6400	6449
9	KG-33			6380	6441
10	KG-16			6250	6377
11	KG-34	Noi	6300		6377
12	KG-15		6321		6350
13	KG-5			6325	6340
14	KG-51	Kone Kangri	6260		6320
15	KG-9	Minor Peak		6350	6306
16	KG-14			6100	6293
17	KG-4		6290		6288
18	KG-52	Delupola I	6343	6230	6280
19	KG-10	Lugendo II		6400	6278
20	KG-41		6238		6238
21	KG-20	Genikutz	6100		6233
22	KG-10	Minor Peak		6390	6218
23	KG-19	Hamokongga	6260		6215
24	KG-39				6211
25	KG-13	Zeh	6127		6177
26	KG-22		6327		6149
27	KG-24	Gheni I	6150		6120
28	KG-40				6101
29	KG-52	Delupola III	6140		6100
30	KG-11			6000	6091
31	KG-50			6090	6090
32	KG-25	Gheni II	6050		6085
33	KG-6	I		6003	6076
34	KG-52	Delupola II			6050
35	KG-55		6044		6030
36	KG-6	II		5930	6003
37	KG-21				6000
38	KG-54			6000	6000
39	KG-6	III Zyaddo	5903	5985	5999
40	KG-36			5870	5992
41	KG-35		6082	6000	5991
42	KG-38	Gheni III		6020	5989
43	KG-26			6000	5952
44	KG-23			6010	5925
45	KG-74			5900	5900

2)阿扎氷河三姉妹峰の標高順位

阿扎氷河(Ata Glacier)には6,700mを越す立派なピークが三座あり、我々はそれを阿扎氷河三姉妹峰と呼んでいる。

従来、若尼峰(KG-1 Ruoni Feng)が山群の最高峰で、標高は旧ソ連の地図で6,805mであった。最近の中国の地図でKG-1は6,882mとなっている。山名は白日嘎峰(Bairiga)と記載されている。KG-2(ロプチン)はGoogle Earthで6,615m、2007年に偵察隊が簡易的に測量した結果は6,650mであった。旧ソ連の地図でKG-2は6,703mと表示されている。旧ソ連の地図でKG-3はその存在すら明確にされていない。KG-3の標高はNASA World Windでは6,726m、Google Earthで6,685m、2007年に偵察隊が簡易的に測量した結果は6,700mであった。

このようなデータから三姉妹峰の標高順位は、KG-1 > KG-3 > KG-2と判断していた。しかし、ロプチン峰に登頂し、GPSによる高度測定の結果、6,805mを得たので、ロプチン峰(KG-2)が山群の第2位の高峰である可能性が高まった。すなわち、KG-1 > KG-2 > KG-3であると推定される。

ASTER GDEM データからも阿扎氷河三姉妹峰の標高順位は KG-1(6,848m) > KG-2(6,814m) > KG-3(6,698m)である。

3)カンリガルボ山群の6000m峰

中村保氏の研究ではカンリガルボ山群には2009年に神戸大学・中国地質大学合同崗日嘎布山群学術登山隊が登頂したロプチン峰(KG-2)を含めて未踏の6,000m峰が30座あるとしている。

我々はカンリガルボ山群の未踏峰の同定を行うに当たって現在までにGoogle Mapより126座を取り上げてKG-###を付与した。その中で5,500m以上と推定されるピークを68座リストアップできた。その中では従来の標高や我々の推定値を含めると47座の6,000m峰が数えられる。また、ASTER GDEMによる6,000m峰は表-1に示すとおり38座ある。マイナーピークも含めているが、マイナーピークであるかどうかの扱いは主観的であり、数える人により若干数が変動すると思われる。仮説として、カンリガルボ山群には約47座の6,000m峰が存在し、2010年3月現在ロプチン峰(Lopchin Feng 6,805m)のみが既登である。図-2にカンリガルボ山群のピーク同定に使用したGoogle Mapをベースにしたスケッチマップの一例を示す。この地図のピーク番号と表-1の番号は一致している。



写真-2 KG-29(左)とKG-28 ;Hiyona Pass 4,450m から



写真-3 拉古氷河と主稜線のピーク

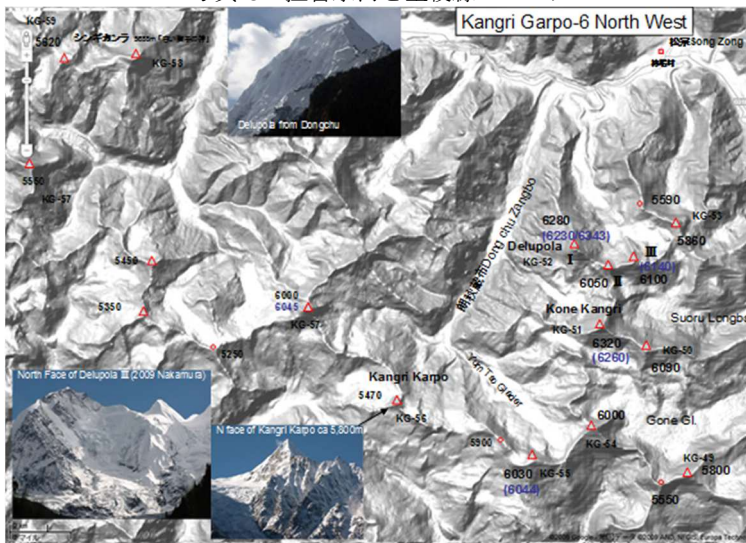


図-2 ピーク同定 Google Map 例

4) P6327m(KG-22 格泥峰(Geni Feng)または玉河カンリ (Yuhe Kangri)の標高について

Lopchin Feng(KG-2)登山中に C3(5,910m)より撮影したカンリガルボ山群東南部の写真-4 から P6,327m の標高について疑問を持った。ASTER GDEM から得たデータは 6,149m であった。また格尼峰(KG-24)は従来 6,150m とされているが、ASTER GDEM からは 6,120m を得た。KG-24 については従来の標高 6,150m を引き続き使いたい。

5) KG-17, KG-18(Gemsongu)の標高

KG-18(Gemsongu)は従来 6,450m とされている。Google Earth からは 6,371m を、そして ASTER

GDEM からは 6,525m を得た。近傍の KG-17 は従来 6,606m の高度が旧ソビエト連邦の地図に記載されている。Google Earth からは 6,405m の数値が得られた。ASTER GDEM からは 6,536m を得た。衛星からの観測データの表示傾向から判断して針峰である Gemsongu の標高は低く、KG-17 についても稜線がナイフリッジとなっている関係から同様に低く表示されていると判断するのが妥当と考えられる。従ってこれらのピークは明らかに 6,500m を越しているとは推測する。

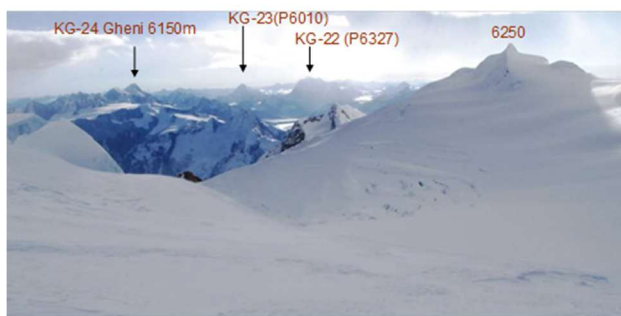


写真-4 KG-22,24 遠景



写真-5 KG-17 KG-18 (松本徂夫氏提供)

6) KG-37 の標高

ASTER GDEM を使った分析は阿扎氷河源頭の氷原(Divide Plateau) に存在する旧ソビエト連邦の地図にある P6,443m 峰(KG-37)についても適用できる。その結果、KG-37 は ASTER GDEM からは従来標高より 111m も高い 6,554m を得た。図-3 の右端に立派な KG-37 を認めることができる。阿扎氷河三姉妹峰に加えて孫娘が現れた思いである。

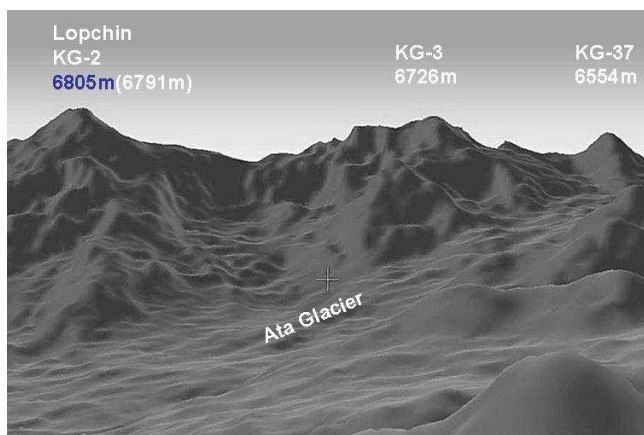


図-3 従来高度より 111m 高く表示された KG-37

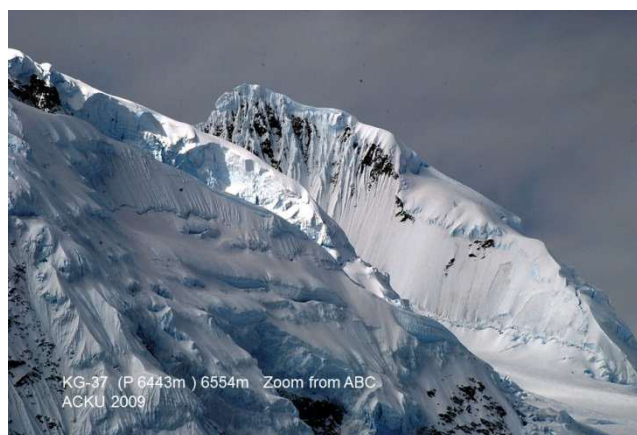


写真-6 KG-37 6,554m

結論

カンリガルポ山群には 6,000m 峰が少なくとも 40 座は存在し、それぞれの従来認識されている標高は最大約 100m 程度の誤差があり、より精度の高い数値は今後の研究や測定の結果を待つ必要がある。しかし、写真や GPS データなど複数の情報源を参照し、衛星による観測データを評価して活用することは有意義である。

また、処女峰の登山において 100m の標高の違いは登山活動に大きな影響を及ぼすと同時に、登山者に時として思いも寄らぬ危険を及ぼす可能性があることを留意すべきである。



第四章 参考資料

1)写真・資料ご提供 (敬称略)

松本徭夫
中村保
辻和毅 渡部秀樹 中山健 (JAC 福岡)
徳永泰朗 加藤晴久 松尾治 伊藤英弘 (JAC アルパインスキークラブ)
池田錦重 大山昇 (シルバータートル)
錦織英夫 (学習院)
神戸大学山岳会・山岳部 2002年 2003年 2007年 2009年

2)地図

旧ソ連 1/100,000 1/250,000
中国 1/50,000 1/250,000
松本徭夫編著「ヒマラヤの東 崗日嘎布山群」付録地図
Google Earth / Google Map
ASTER GDEM (Satellite TERRA)
測量データ 山田健(ACKU)

3)文献・参考資料

- 1) 「チベット東南部 ヒマラヤ偵察行」1999年 学習院大学
- 2) 「雪上散歩19号 2008年 Ata Kang La スキー登山報告」JAC アルパインスキークラブ
- 3) 「深い侵食の国」中村保 山と溪谷社
- 4) 「チベットのアルプス」中村保 山と溪谷社
- 5) [11] 松本徭夫「ヒマラヤの東 崗日嘎布山群 踏査と探検史」権歌書房 2007
- 6) 「神戸大学東チベット学術登山隊報告書 2003年」神戸大学山岳会・山岳部
- 7) 「ロプチン峰初登頂 山と人 18号 2009年」神戸大学山岳会・山岳部
- 8) 「夢 時を越えてII」同人シルバータートル
- 9) 「Japanese Alpine News Vol.8 2007」JAC
- 10) 「Japanese Alpine News Vol.12 2011」JAC
- 11) 「Japanese Alpine News Vol.14 2013」JAC
- 12) 「Die Alpen Tibets」Tamotsu Nakamura
- 13) 「Appalachia Summer/Fall 2012」Appalachia Mountain Club
- 14) Tim (Tatsuo) Inoue, ACKU; 「Hidden 47 Six-thousanders in the Kangri Garpo Mountains」, Japanese Alpine News 2011, Japanese Alpine Club
- 15) WGS84: The World Geodetic System 1984 世界測地系 GPS に使われている
- 16) 国土地理院 基準点 <http://www.gsi.go.jp/kizyunten.html>
- 17) ジオイド Geoid <http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/geoid/geoid/geoid.html>
- 18) GEONET: GPS Earth Observation Network System <http://www.jsurvey.jp/9.htm>
- 19) 気象庁地震地殻変動 <http://www.gsi.go.jp/common/000059672.pdf>
- 20) SRTM: The Shuttle Radar Topography Mission <http://www2.jpl.nasa.gov/srtm/>
- 21) ASTER(Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer)
- 22) <http://www.science.aster.ersdac.or.jp>
- 23) TOF: Time of Flight TOA: Time of Arrival とも言う。光を発射して反射が帰った時間差から光の波長で距離に換算する計測方法。
- 24) GDEM(Global Digital Elevation Model)

第五章

Hidden 47 Six-thousanders in the Kangri Garpo Mountains

◆ Introduction

The 280km-length Kangri Garpo Mountains lies on the east Tibet from Tongmai to Zayul near the great bend of Yarlung Zangbo. In 1933, a plant hunter Frank Kingdon Ward visited Ata Qu and passed Ata Kang La. He took a picture of Choembo (Fig.1), the highest peak in the Kangri Garpo Mountains. He supposed that he had seen the summit. It was a remarkable exploration to the range where he made the first discovery of the highest peak. The peak Choembo is called Ruoni Feng or Bairiga (6882m) today. Kangri Garpo has still many unexplored valleys and mountains to date. The said old picture motivated us to study and plan expeditions to Kangri Garpo. But we could not identify the picture taken by F. Kingdon Ward for many years. A picture taken from Camp-3 by the Alpine Club of Kobe

University (ACKU) in 2009 and a picture from the south on the Bimaque Glacier(or the Ata Kang La Glacier) near Ata Kang La by JAC Ski party in 2008 clearly projected Ruoni Gendarme I (KG-112 6289m) that is also seen in the picture of F. Kingdon Ward. Those are definitive evidences of the camera location of F. Kingdon Ward. His picture captured the fore-summit on the south ridge of Ruoni.

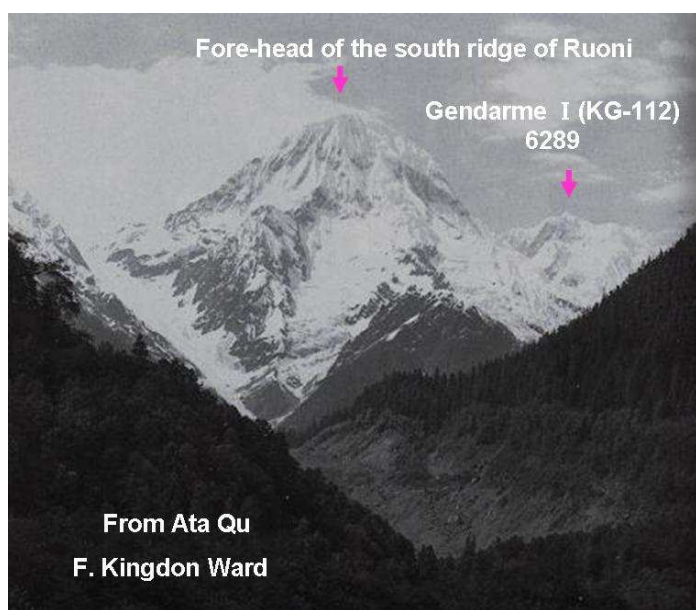


Fig.1 Choembo from Ata Qu

Questions raised during my studying peaks are as follows;

- 1) The order of altitude around “Three Ata Sisters”; (We refer to KG-1, KG-2 and KG-3 as Three Ata Sisters)
- 2) The altitude of KG-1 (Ruoni)
- 3) Where is P6443m (KG-37)?
- 4) The ridge connection around the watershed of the Ata Glacier
- 5) Which peak is the highest in the Lhagu Glacier, KG-17 or KG-18 (Gongyada)?
- 6) Which peak is the fourth highest in Kangri Garpo, KG-37, KG-18 or KG-17?
- 7) Figure of mysterious Kone Kangri (KG-51)
- 8) Visibility of P6327m (KG-22) and KG-23(6010m)
- 9) Existence of Gheni III (KG-38 6020m) and KG-26(6000m)
- 10) A pass between the Ata Glacier and the Lhagu

Glacier

- 11) Existence of P6082m (KG-35) on the west ridge of Ruoni (KG-1)

The first ascent of a mountain, “White Hawk” Lopchin Feng (KG-2, 6805m) was made by two Tibetan students, Deqing Ouzhu and Ciren Danda, on 5th November 2009, and two Japanese, Masanori Yazaki and Koichiro Kondo (student), on 7th November 2009; the Joint Scientific and Mountaineering Expedition organized by ACKU and the Mountaineering Association of Chinese University of Geosciences (CUG, Wuhan) led by co-leaders Tim Inoue and Dong Fan. This is the only one climbing record out of 47 six-thousanders through the range to date.

◆ List of Six-thousanders (List.1)

It is surmised that 100 or more un-climbed five and six-thousanders exist in the range. No one clarified the whole picture of peaks till today. The purpose of this article is to introduce unclimbed, unknown and hidden Six-thousanders in the range.

I studied the mountains through existing reports and pictures taken by the explorers such as Tom Nakamura, Yukio Matsumoto, Kazuki Tsuji, Hideki Watanabe, Takeru Nakayama, Tairou Tokunaga, Haruhisa Kato, Hidehiro Ito, Osamu Matsuo, Kaneshige Ikeda and Hideo Nishigori in addition to our photos and report of the ACKU expeditions in 2002, 2003, 2007 and 2009. They provided me many important data. I appreciate their contribution to this article.

The sketch maps shown in this report were charted by me based on the Google Map with peak numbers “KG-##”, names and altitudes that were the result of peak identification through analyzing photos and reports. The altitudes and locations shown in the 47 peaks list (List.1) are much relied on ASTER (Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer) GDEM (Global Digital Elevation Model; Map Datum WGS84). The altitude estimation partly referred to existing Chinese maps (Chinese People’s Liberation Army(PLA)) , old Soviet Union maps and the sketch map attached to the book “East of Himalaya; the Kangri Garpo Mountains” edited by Yukio Matsumoto. To estimate altitude of peaks, ASTER GDEM was more reliable than the data extracted from Google Earth, Google Map and SRTM (The Shuttle Radar Topography Mission). I have mostly chosen the highest numbers of altitude



in the 47 six-thousanders if the peaks have multiple data sources. The list includes in minor peaks which I have decided as minor with my subjective opinion. I cannot conclude that there is no more hidden six-thousander in the range. I hope anyone will quest and find more peaks.

I found a few tendencies that the altitude data extracted from ASTER and Google Earth indicates lower height numbers on the sharp or thin summit structure peaks than that of actual numbers and little lower numbers on the massive or round shape summit peaks. I assume that all data extracted from the satellite survey indicates lower than that of actual.

NO	Peak ID	Name		Altitude(m)	Location N			Location E			Comment
					°	'	"	°	'	"	
1	KG-1	Ruoni	Bairiga	6882	29	9	60	96	43	24	The Highest Peak in the Kangri Garpo Mountains
2	KG-2	Lopchin		6805	29	11	59	96	41	39	1st Ascent by ACKU , 2009
3	KG-3			6726	29	13	45	96	40	52	
4	KG-37			6554	29	14	28	96	40	18	KG-3- II Soviet U P6443m
5	KG-17			6536	29	22	35	96	30	28	The Highest Peak in the Lhagu Glacier
6	KG-18	Gemsongu		6525	29	23	26	96	29	41	
7	KG-12	Gongyada		6482	29	19	24	96	36	29	Hiqen-1
8	KG-9	Lugendo I	I -1	6449	29	17	1	96	39	27	
9	KG-33			6441	29	10	24	96	42	7	Satellite Peak of Ruoni
10	KG-10	Lugendo II	II -1	6390	29	17	58	96	38	54	
11	KG-16			6377	29	21	60	96	31	24	
12	KG-34	Noi		6377	29	23	20	96	30	37	Lhagu Glacier Origin
13	KG-9	Lugendo I	I -2	6350	29	17	2	96	39	15	
14	KG-15			6350	29	21	47	96	32	5	
15	KG-51	Kone Kangri	I	6347	29	37	7	96	3	18	
16	KG-52	Delupola	I	6343	29	39	18	96	2	25	
17	KG-5			6340	29	15	18	96	41	28	
18	KG-22			6327	29	6	52	97	4	39	P6327m
19	KG-9	Lugendo I	I -3	6306	29	17	10	96	38	48	
20	KG-14			6293	29	20	60	96	33	13	
21	KG-4			6290	29	15	45	96	40	19	
22	KG-112	Ruoni Gendarme	I	6289	29	10	26	96	44	26	Ata Glacier
23	KG-10	Lugendo II	II -2	6278	29	17	41	96	38	29	
24	KG-19	Hamokongga		6260	29	24	18	96	36	3	Dojizandoi
25	KG-41			6238	29	25	54	96	21	42	
26	KG-20	Genikutz		6233	29	24	6	96	26	41	
27	KG-39			6211	29	23	48	96	28	43	Midui Glacier Divide
28	KG-13	Zeh		6177	29	20	16	96	36	57	Hiqen-3
29	KG-24	Gheni	I	6150	29	11	51	96	58	10	
30	KG-51	Kone Kangri	II	6143	29	36	25	96	4	44	
31	KG-52	Delupola	III	6140	29	38	58	96	4	19	
32	KG-40			6101	29	24	6	96	27	49	Midui Glacier Divide
33	KG-11			6091	29	18	40	96	36	34	Hiqen-3
34	KG-25	Gheni	II	6085	29	12	9	96	57	3	
35	KG-35			6082	29	7	31	26	33	21	West Ridge of Ruoni
36	KG-55			6077	29	33	15	96	0	54	
37	KG-6	I		6076	29	15	56	96	43	3	
38	KG-52	Delupola	II	6065	29	38	46	96	3	31	
39	KG-57		I	6050	29	37	36	95	53	39	Dong Chu Zangbo / III can be seen from Parlung Zangbo
40	KG-51	Kone Kangri	III	6041	29	36	32	96	5	26	
41	KG-54			6040	29	34	14	96	3	4	
42	KG-6	III	Zyaddo	6025	29	16	10	96	44	3	
43	KG-38	Gheni	III	6020	29	12	49	96	56	29	
44	KG-23			6010	29	9	21	97	1	59	
45	KG-6	II		6003	29	16	19	96	43	28	
46	KG-21			6000	29	22	59	96	25	25	Xinguo Longba Divide (South of Mimai)
47	KG-26			6000	29	12	27	96	54	40	Little Gheni Glacier

List. 1 47 Six-thousanders in the Kangri Garpo Mountains

6 peaks are still unknown and unveiled.

◆ Peak Identification

The Kangri Garpo Mountains is large and still unknown. I hope I will be given further more information by visitors and climbers who will visit the range. I recommend them to take pictures with GPS data. Even though he or she takes a picture without knowledge of a mountain, it is possible to identify later if the digital photo data has time and location.

The Six-thousanders stand on the five areas.

- (1) Delupola - Kone Kangri Range (Map-1 and 2),
- (2) Genikutz - Gemsongu Range (Map-3),
- (3) Lhagu Glacier Range (Map-4),
- (4) Ata Glacier Range (Map-5 and 6)
- (5) Gheni Feng Range (Map-6 and 7)

According to this classification, I have tried to identify peaks on the pictures and locate peaks in the sketch maps.

(1) Delupola - Kone Kangri Range (Map-1 and 2)

Questing six-thousanders in the map or GDEM data is very patient. But it is exciting if a possible six-thousander is discovered. There are supposed to be 9 six-thousanders in this range. The highest two peaks are Kone Kangri (6347m) and Delupola (6343m). These peaks are identified in the Chinese topography, but no name was found in the map.

Passengers travelling the Road G318 along the Parlung Zangbo near Song Zong have often seen the Delupola Group. The group has three peaks of Delupola I (6343m, main peak), II (6065m) and III (6140m). Tom Nakamura, Hideki Watanabe and I took pictures of these peaks. (Fig. 2)

From the Road G318, Tom Nakamura took a picture of KG-79 (5841m) and KG-57 III (5700m) standing alongside (Fig. 3). He supposed to aim KG-57 (6000m, one of hidden six-thousanders), but the main peak of KG-57 could not be seen from the Road G318. He took a picture of KG-57 III.

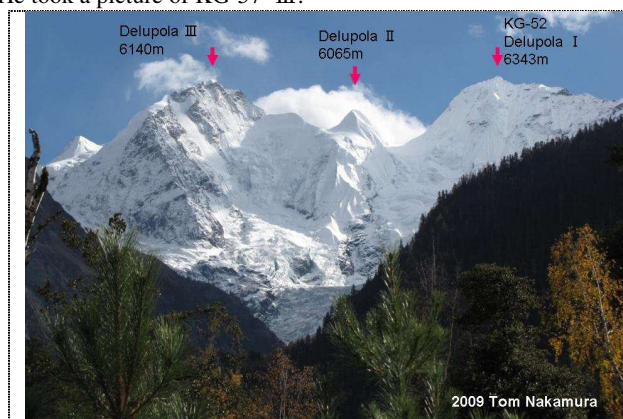


Fig. 2 Delupola

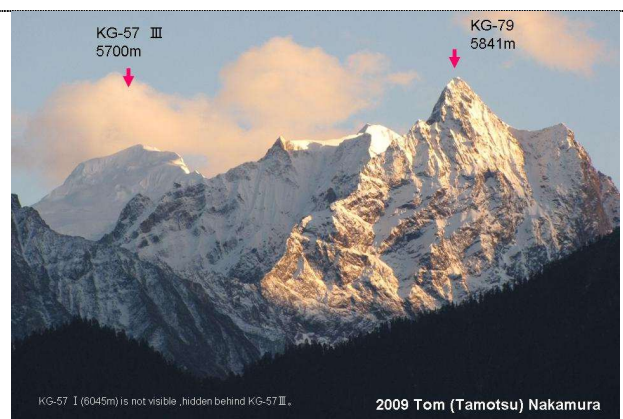


Fig. 3 KG-57 III

◆ Discovery of Kone Kangri (6347m)

In September and October 1999, Hideo Nishigori and his Gakushuun University party explored the Gone Glacier to find possible climbing route to Kone Kangri. They reached upper side of Gone Lake just on the snout of the Gone Glacier. They could not see the peak and no route to the top were found.

In autumn 2009, Tom Nakamura trekked in the valley of Dong Chu Zangbo and reached the deepest confluence. He could take nice pictures of Delupola (6343m) and Kangri Karpo (5470m), but Kone Kangri was not visible from the valley where his party stepped on. In late autumn 2009, Shigeaki Yamamoto who was the climbing leader of the Lopchin Feng Expedition (organized by ACKU and CUGW) took a picture toward Kone Kangri range at N29° 03'43" E96° 18'04", altitude 3500m on the Road G318 in the upper valley of Yupu Town (Fig. 4). He did not distinguish that the picture captured the summit of Kone Kangri and the north ridge linking to Delupola II. Recently I happened to find the shot and identified the appearance of Kone Kangri in the picture through my analysis work. The date and time of the digital picture and the GPS data provided me the location of the shot. The 3D image extracted from ASTER GDEM and Google Earth were good evidences of my peak identification. This is the first discovery of Kone Kangri figure. Kone Kangri group has three peaks, Kone Kangri I (6347m), II (6143m) and III (6041m). The appearance of Kone Kangri II and III are not captured to date.

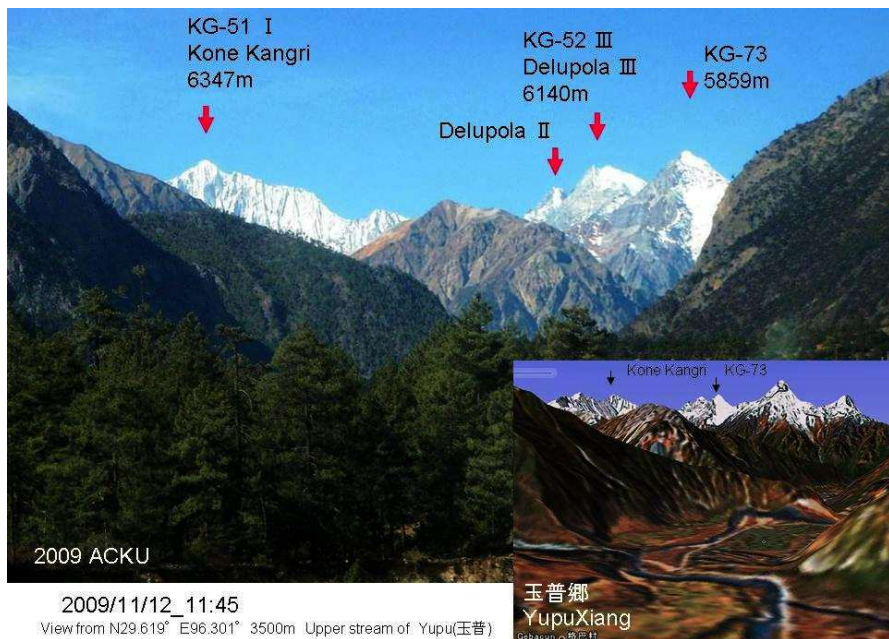
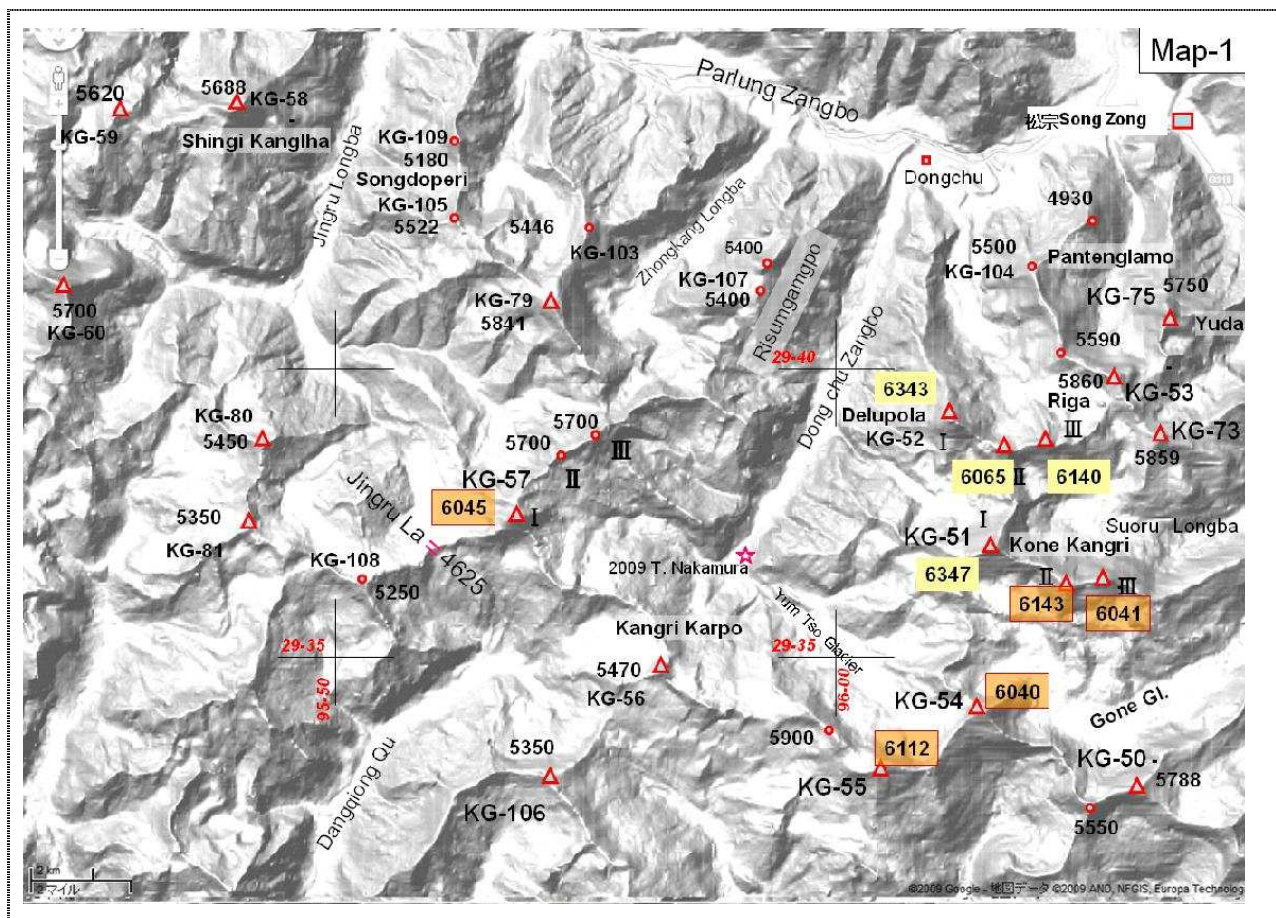
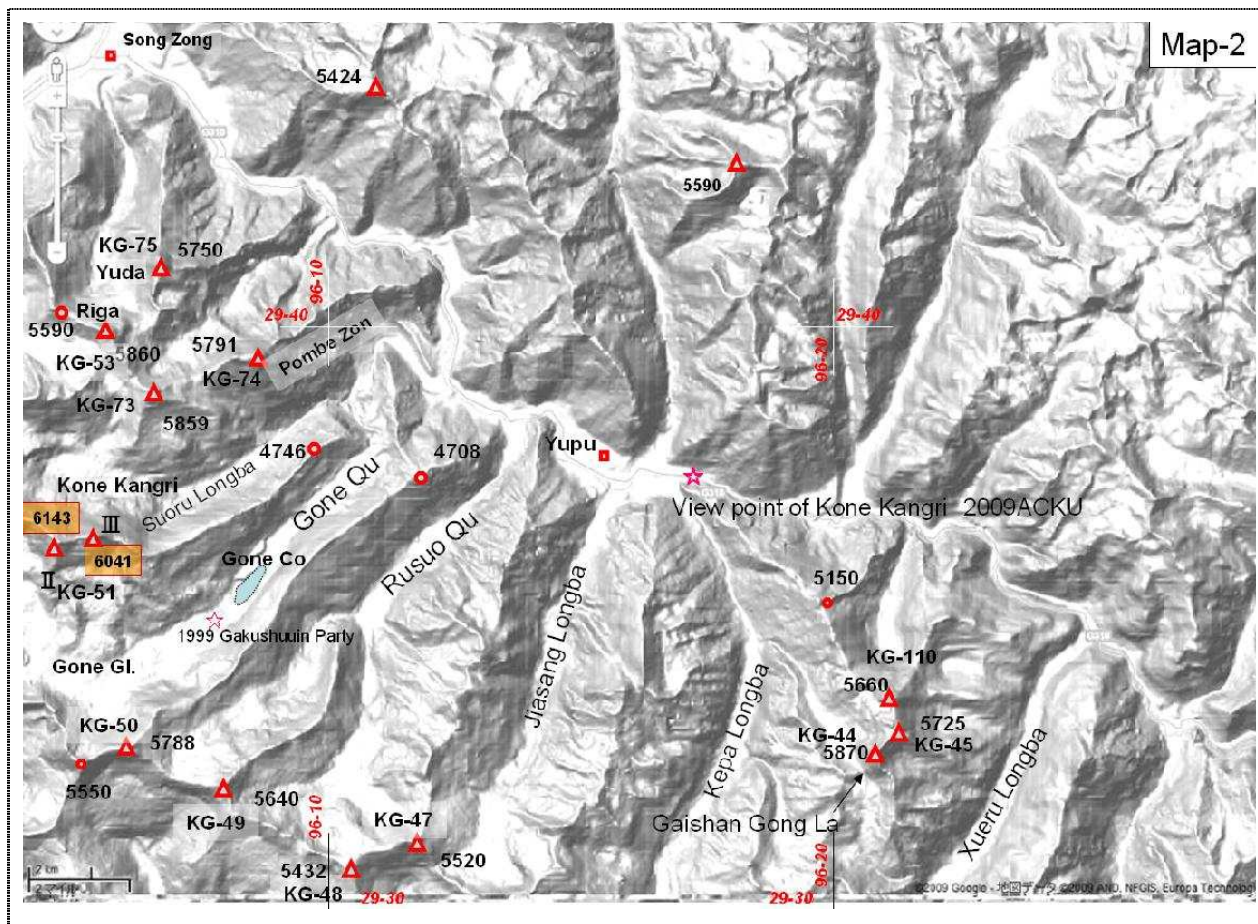


Fig.4 Kone Kangri I and Delupola rock towers

◆Hidden Six-thousanders in this range

Kone Kangri II (6143m), III (6041m), KG-54(6040m), KG-55(6112m) and KG-57 I (6045m) are still unknown in this range. KG-53 (Riga 5860m), KG-73 (5859m), KG-74(Pombazon 5791m)KG-75 (Yuda 5750m) are not six-thousanders, but have attractive appearances. Riga, Pombazon and Yuda are sacred mountains of Tibet Buddhism.

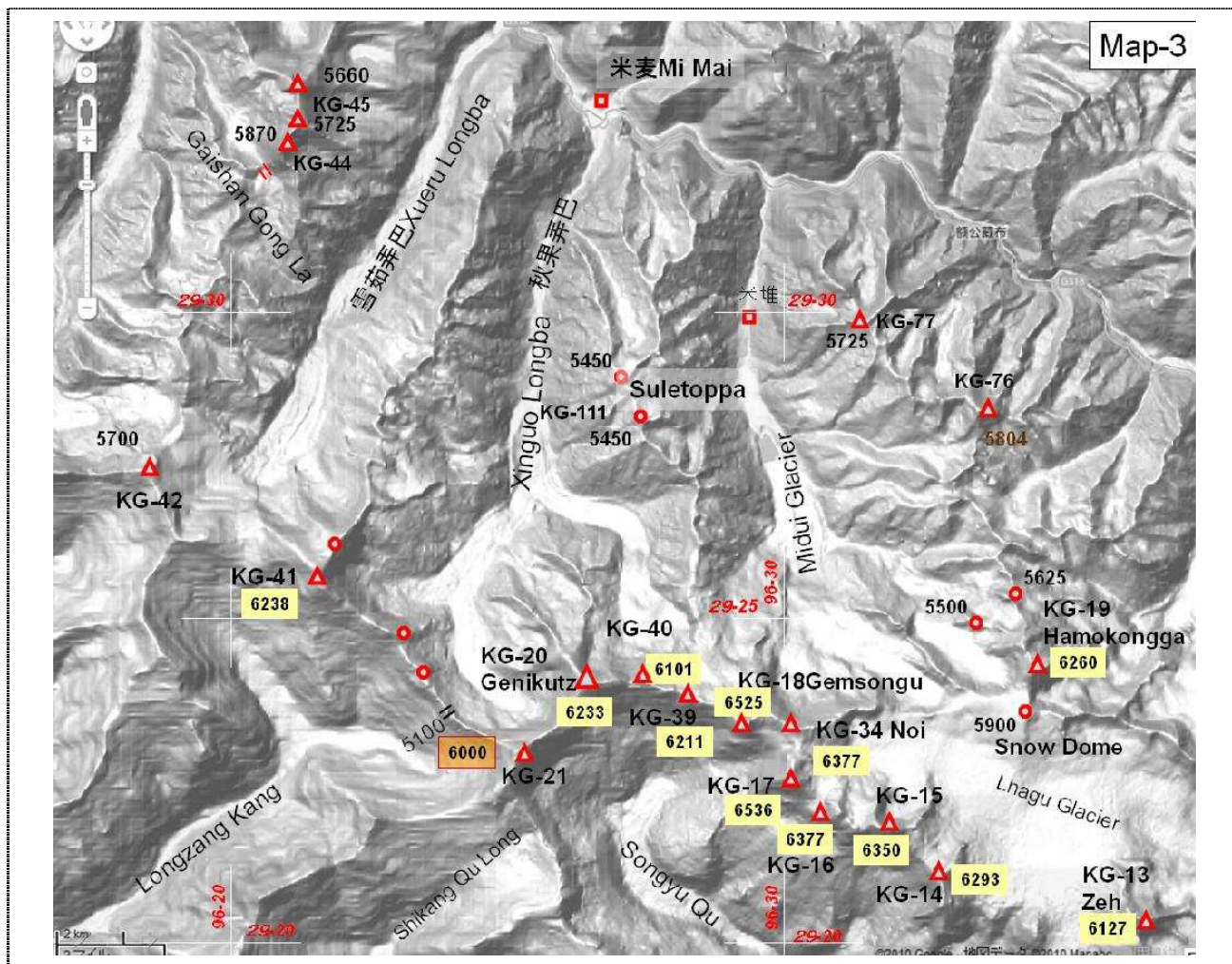




KG-44(5870m) can be seen from Yupu town. The steep slope of the south-west flank comes down to Gaishan Gong La where an old trail was passing through. Between KG-50(6040m) and KG-41(6238m), the main ridge of Kangri Garpo lowers its elevation and no six-thousanders could be found.

(2) Genikutz - Gemsongu Range (Map-3)

The main ridge of Kangri Garpo meets the Lhagu Glacier at KG-34(Noi 6377m) and KG-17 (6536m). Xueru Longba, Xinguo Longba and Midui Longba are flowing north from the divide of Kangri Garpo. There are 8 six-thousanders, KG-18(Gemsongu 6233m), KG-19(Hamokongga, 6260m), KG-20(Genikutz 6233m), KG-21(6000m), KG-34(Noi 6377m), KG-39(6211m), KG-40(6101m) and KG-41(6238m).



◆ KG41 (6238m) recognition

Tom Nakamura provided me a picture of a peak (Fig. 5) taken at the confluence in the deep valley near the snout of the west Xinguo Longba Glacier in the autumn 2009 where the tributaries of the west and the east Xinguo Longba Glacier merge.



Fig. 5 KG-41(6238m) from Xinguo Longba

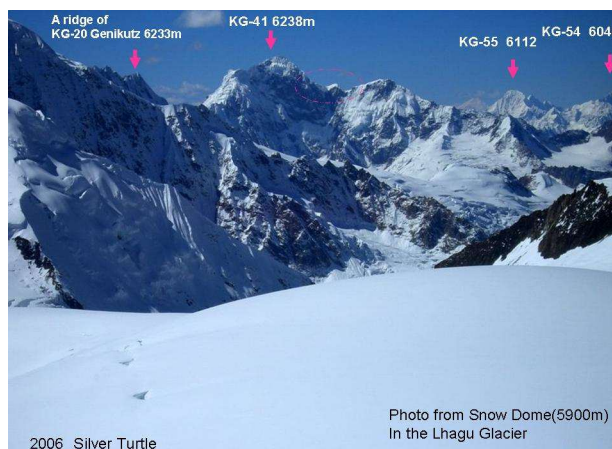


Fig. 6 KG-41(6238m) from Snow Dome

One more important picture was provided by Haruhisa Kato, a member of the Silver Turtle trekking party in 2006, who took it on the

top of Snow Dome (5900m) in the Lhagu Glacier (Fig. 6). These pictures have a figure-point that is clearly recognized. I had identified the peak as KG-41 (6238m).

◆ Where is Genikutz?

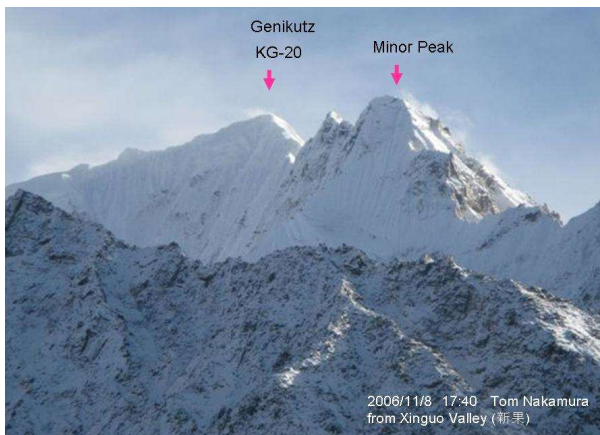


Fig. 7 KG-20 (Genikutz? 6233m)



Fig. 8 Twin peaks of KG-40(6101m)

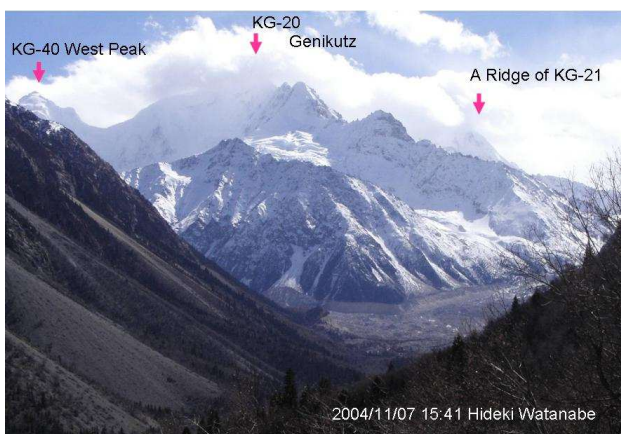


Fig. 9 Mysterious KG-21

Identification of the peak named Genikutz is still open to debate. As an assumption, I put the name Genikutz on KG-20 (6233m) after having gotten opinions from Hideki Watanabe and Takeru Nakayama. Watanabe put the name on the peaks of KG-39, 40, 20 and 21 as a group name (Fig. 7, 8 and 9). Nakayama put the name on the East peak of KG-40 because of his hearing from a local person of Midui village (Fig. 11). The twin peaks of KG-39 and the east peak of KG-40 can be seen from Midui valley. The west peak of KG-40 is not visible from Midui valley. KG-39 and KG-40 are both twin peaks. Hideki Watanabe tried to take a picture of KG-21 (6000m) at the confluence of the East and West Xinguo Longba Glacier. The ridge to the top of KG-21 is appeared in his picture, but unfortunately the summit is covered with cloud. KG-21 is a missing peak to date (Fig. 9).



Fig. 10 KG-18(Gensongu 6525m) & KG-34(Noi 6377m)

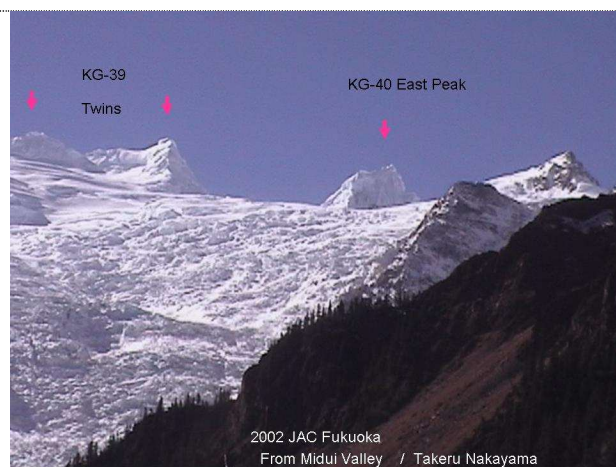


Fig. 11 KG-39(6211m) and East Peak of KG-40(6101m)

◆ Gemsongu and Noi

Gemsongu (KG-18 6525m) looks standing on the far end ridge in the Lhagu Glacier viewing from Lhagu village overlooking the wide and long Lhagu Glacier, but it belongs to the range of Genikutz - Gemsongu. People in Midui village call the peak KG-34 Noi. Noi looks two heads from Lhagu village, but it is obvious that Noi looks single head from Midui village. KG-18 (Gemsongu) may or may not be the 4th highest peak in Kangri Garpo competing with KG-17 and KG-37.

◆ Hamokongga / Dojizandoi (KG-19 6260m)

It is not funny that a mountain has two different names. KG-19 (6260m) is such a case. We can enjoy the spectacular scenery of the Lhagu Glacier and surrounding six-thousanders at the square of Lhagu village (Fig. 12). Hamokongga stands on the right end of the scenery appealing pyramidal rock tower. From Midui village, on the opposite side, Hamokongga looks similar as of Lhagu side appearance. Hamokongga is visible from the river side hill along the Road G318, 100m higher altitude of the right bank of Parlung Zangbo, near the end of Rawu Lake where Hideki Watanabe tried to take a picture of it. The Silver Turtle party approached KG-19 from the Lhagu Glacier in 2006, and stepped on the top of Snow Dome (5900m) that is a minor peak of Hamokongga.

(3) Lhagu Glacier Range (Map-4)

16 Six-thousanders stand on the divide of the Lhagu Glacier and one peak (KG-19, Hamokongga) stands on the offset ridge of the Lhagu Glacier. The Lhagu Glacier (approximate 30km length) and the Ata Glacier (approximate 27km length) are the largest ones in the South-east Tibet. The higher Six-thousanders are mostly located in these two glacier areas. The best location to watch the peaks on the main ridge of Kangri Garpo is on the road to Dema La in the southern hill of Shugden Gumpa. Spectacular scene of six-thousanders is unforgettable. Snow covered characteristic appearances of peaks from KG-1(Ruoni) to KG-18(Gemsongu) chaining in the cobalt blue sky are overwhelmingly shining. Many peaks surrounding the Lhagu Glacier are visible from the village of Lhagu, too.

The record of an exploration in 2006 in the Lhagu Glacier organized by Silver Turtle party is published in the Japanese Alpine News Vol.8; Page 66-72 "Ski Expedition to Lhagu Glacier by Kaneshige Ikeda". Comparing to my map-4, 5 and 6, there are many unmatched points such as configuration of ridges, peak names and elevation on the map of page 68 in their article. These conflicts will not be solved because we cannot get formal or authorized peak identification unless Chinese authority allows us to get topography that is kept strictly confidential, on the presumption that those maps are reasonably reliable.



Fig.12 The most popular scenery of Kangri Garpo, view from Lhagu village



Fig.13 Snow dome in the Lhagu Glacier is a fine lookout point of the range

In 2006, Haruhisa Kato reached the top of Snow Dome (5900m) close to Hamokongga (KG-19) and took many pictures of the peaks surrounding the Lhagu Glacier. There are beautiful rock towers covered with snow and ice.



Fig.14 The head of a large Lhagu Glacier cirque on the divide of Kangri Garpo

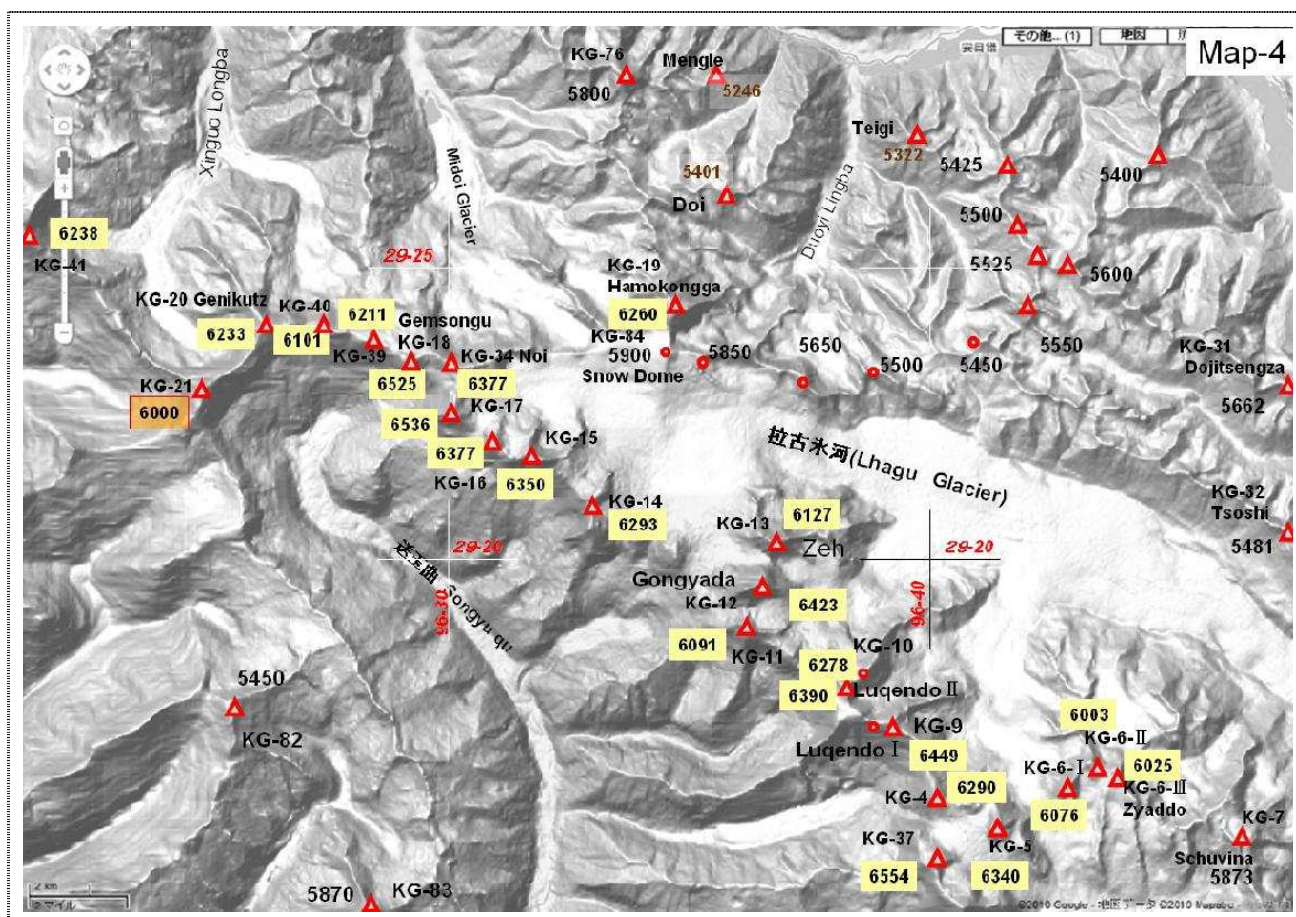
tolerance of ASTER measurement. (Fig. 14)

◆The highest peak in the Lhagu Glacier

Which is the highest peak in the Lhagu Glacier? The answer is probably KG-17. The old Soviet Union map has an altitude of 6606m on KG-17. The sketch map charted by Yukio Matsumoto chose this elevation. I have put 6536m on my sketch map that I extracted from ASTER GDEM. Comparing with several pictures taken from different points such as the road to Dema La, the left bank of the Lhagu Glacier and Snow Dome near KG-19, I could estimate KG-17 as close as 6600m. One more question is, which is higher KG-17 or KG-18(Gemsongu)? According to ASTER data, the difference between these two peaks is only 11 meters. This difference is within the



Fig.15 The snow covered upper Lhagu glacier provides a chance to ski partly.



◆ Gongyada /Hiqen group

Silver Turtle party named KG-11(6091m), 12(6422m) and 13(6127m) as Hiqen III, I and II respectively. Yukio Matsumoto named Gongyada on KG-12 and Zeh on KG-13 (Fig. 16). Basically, Matsumoto selected names relying upon his hearing from Tibet Monks. Silver Turtle mainly picked up names from hearing the local people. On the west side of Gongyada group, the large ice field of the Lhagu Glacier covers the main ridge of Kangri Garpo and forms a plateau.

The main ridge looks cut off by this ice field. Two separated hanging glaciers flow down to the south-westward from the ice field.

A small pyramidal snow-covered peak is appeared between Luqendo II(KG-10 -1 6390m) and Hiqen III(KG-11 6091m). This peak may or may not be a six-thousander.

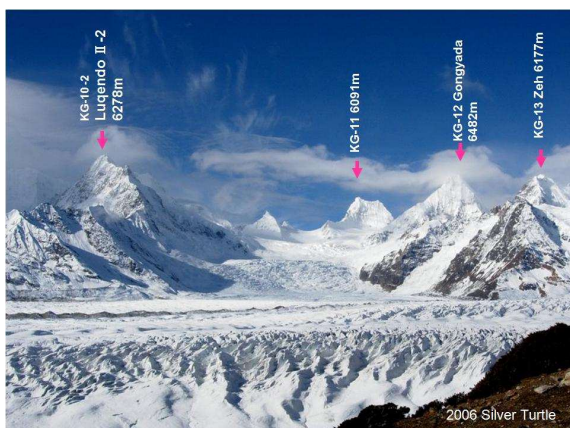


Fig.16 KG-15 Gongyada and Luqendo

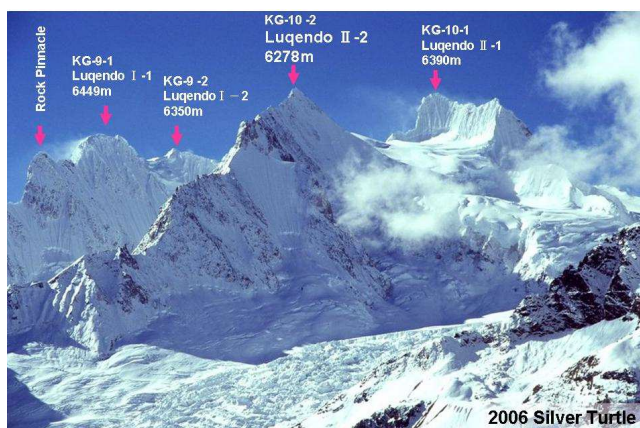


Fig.17 Luqendo group has 5 peaks. KG-9 I – III is invisible

◆ Luqendo Group

The Luqendo group has complex arrangement of 5 peaks and ridges. The main peak Luqendo I (6449m) has a needle rock pinnacle on the north-west ridge. It is a typical feature of this mountain. When I had started to pay attention on this group, I had recognized three peaks. After getting some pictures, I found a minor peak of KG-9-3. In the picture Fig.17, I finally found KG-9-2 which was hidden behind the main peak of KG-9-1. The peaks and ridges of this group have been shaved by heavy snow fall and formed thin saw-toothed ridges. The Silver Turtle party in 2006 revealed the detail feature.

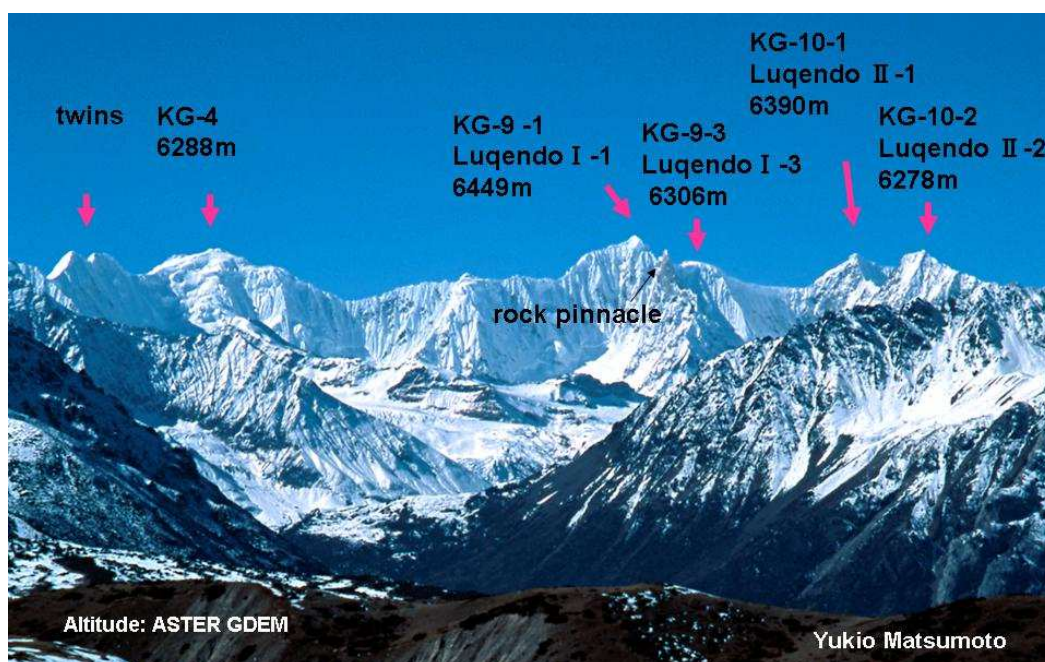


Fig.18 Kangri Garpo means “white mountains”. Heavy snow grows large glaciers and sharply shaped peaks.

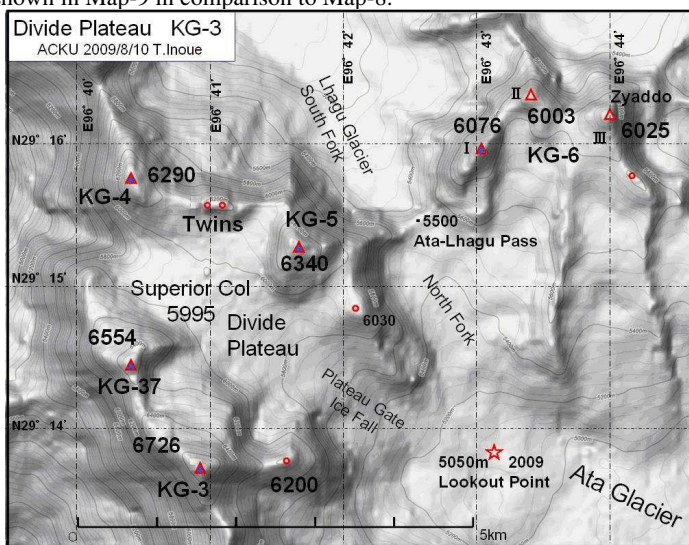
◆ Ridge configuration between the Lhagu Glacier and the Ata Glacier

KG-4(6290m) is the node peak of the main ridge of Kangri Garpo and the branch ridge to KG-5, 6 and 7 that is the divide between the Lhagu Glacier and the Ata Glacier. The branch ridge will be referred to as the Zyaddo ridge in this article.

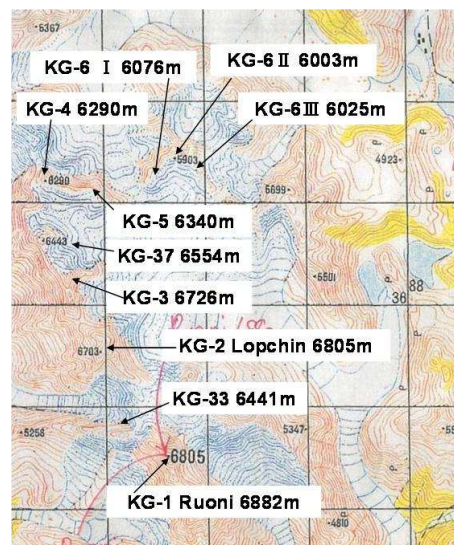
The Zyaddo ridge including in peaks from KG-4 to KG-7(Schuvina) was especially confusing because of complex topography. During our review process of peaks and glaciers surrounding the Ata Glacier for the purpose of selecting a peak to be climbed, I assumed that the analysis of the Zyaddo ridge configuration done by Yukio Matsumoto was incorrect. He charted in his book that the Zyaddo ridge was branched off from the top of KG-4 and directly joined to Zyaddo. My opinion was that the Zyaddo ridge starts from KG-4 and continues to Twins and KG-5(6340m). Then It lowers to Ata-Lhagu pass(5500m) and joined KG-6- I .

The argument about the Zyaddo ridge configuration around the watershed of the Ata Glacier was heated among members of the Hengduan Mountains Club, Japan chaired by Tom Nakamura. I think the confusion was induced by two sources, one was the picture taken by Yukio Matsumoto team from the road to Dema La (Fig. 20) and another was the Soviet Union Map (Map-9).

A picture of the north-east face of the Zyaddo ridge (Fig.20) gave us the first confusion because of overlapping peaks; KG-37, KG-4, KG-6- I , KG-6- II respectively. Secondly, the Soviet Union map has no KG-5 and has KG-6 as only one peak. In reality, however, KG-6 has three peaks. Identification of peaks and ridges around the divide of the Ata Glacier and the Lhagu Glacier was one of the most interesting discussions in the research party. This controversy was raised at the annually meeting of Hengduan Mountains Club in 2007. Finally the ACKU Lopchin Expedition 2009 entered in to the Ata Glacier and clearly solved this issue. This episode suggested us the Kangri Garpo Mountains is still an unknown area on the globe. The conclusion was charted on Map-8. The Soviet Union map is shown in Map-9 in comparison to Map-8.



Map-8 Divide Plateau



Map-9 Divide Plateau (Soviet Map)



Fig.19

The Ata-Lhagu Pass (5500m) was a mysterious point before Kobe University party visited the upper Ata Glacier. A picture taken from the Lhagu Glacier provided by Mr. Haruhisa Kato confirmed its existence



Fig.20 North-East face of the Kangri Garpo Ridge .Many peaks look overlapped.

peaks.

The north-east flank of KG-6 is a steep rock wall and the Ata Glacier side is covered with gentle slopes of glacier fingers. Ata-Lhagu Glacier Pass (5500m) is located between KG-5 and KG-6- I .

In 2000, Silver Turtle party had a plan to explore the Ata Glacier and the Lhagu Glacier via Ata-Lhagu Pass, but they could not execute it. No one has passed through the Ata-Lhagu Pass to date. Takeru Yamada and I stepped on the Ata Glacier toward the pass and reached 5050m just at the confluence of a tributary glacier to the pass. It seems to be able to trek from the Ata Glacier to the Lhagu Glacier.

◆ Zyaddo and KG-6

In the Yukio Matsumoto map, the position of Zyaddo was put on the 5903m altitude printed position of the old Soviet Union map. According to my analysis, KG-6 has 3 peaks, I (6076m), II (6003m) and III (6025m). The position of KG-6 III is matching to Zyaddo in the Matsumoto map. KG-6 II (6003m) locates the same position as of 5903m in the old Soviet Union map. Those 3 peaks are six-thousanders according to the data from ASTER GDEM. ACKU 2007 reconnaissance party confirmed KG-6 as three



Fig.21

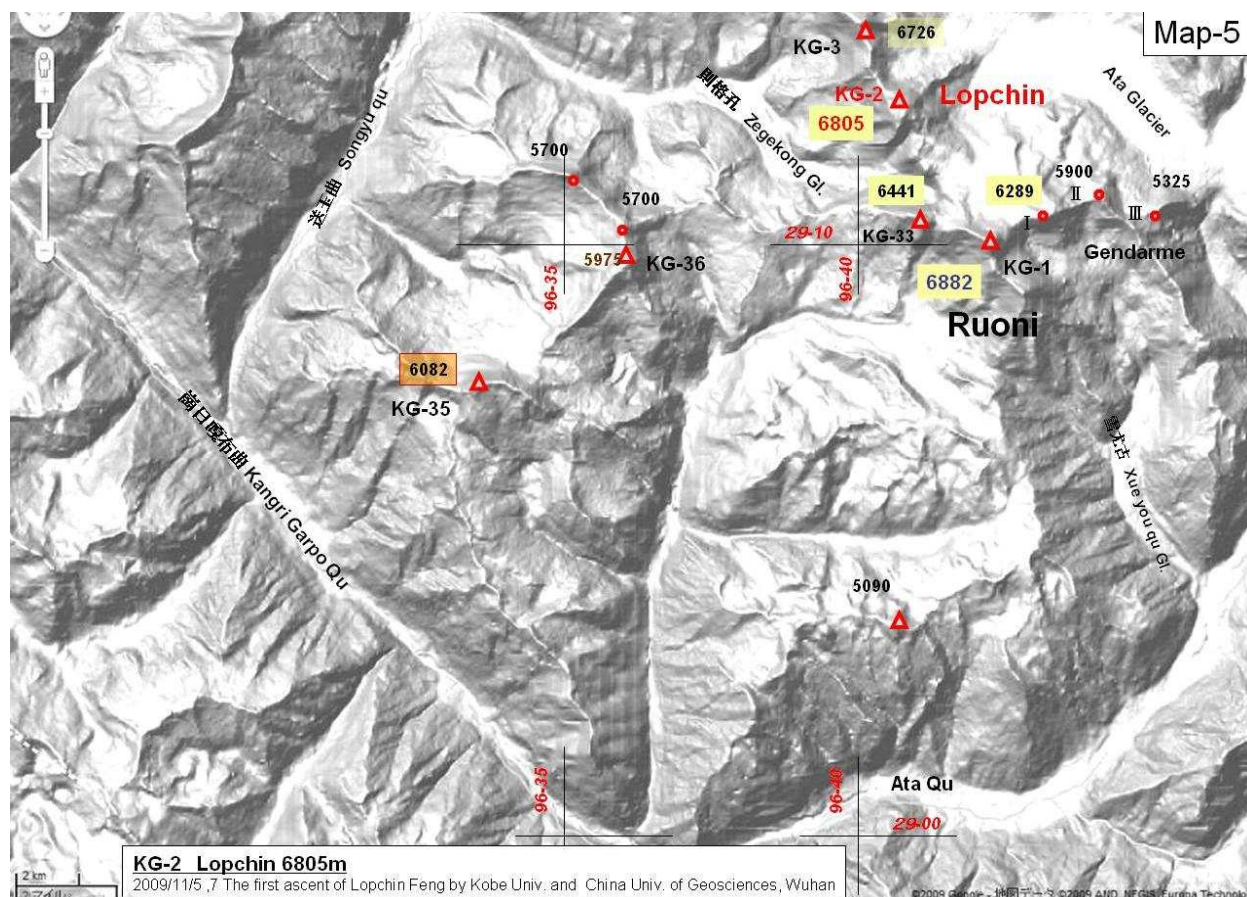
The North Fork of the Ata Glacier gently comes up to Ata-Lhagu Pass. View from Camp-3(5910m, 2009 ACKU Expedition)

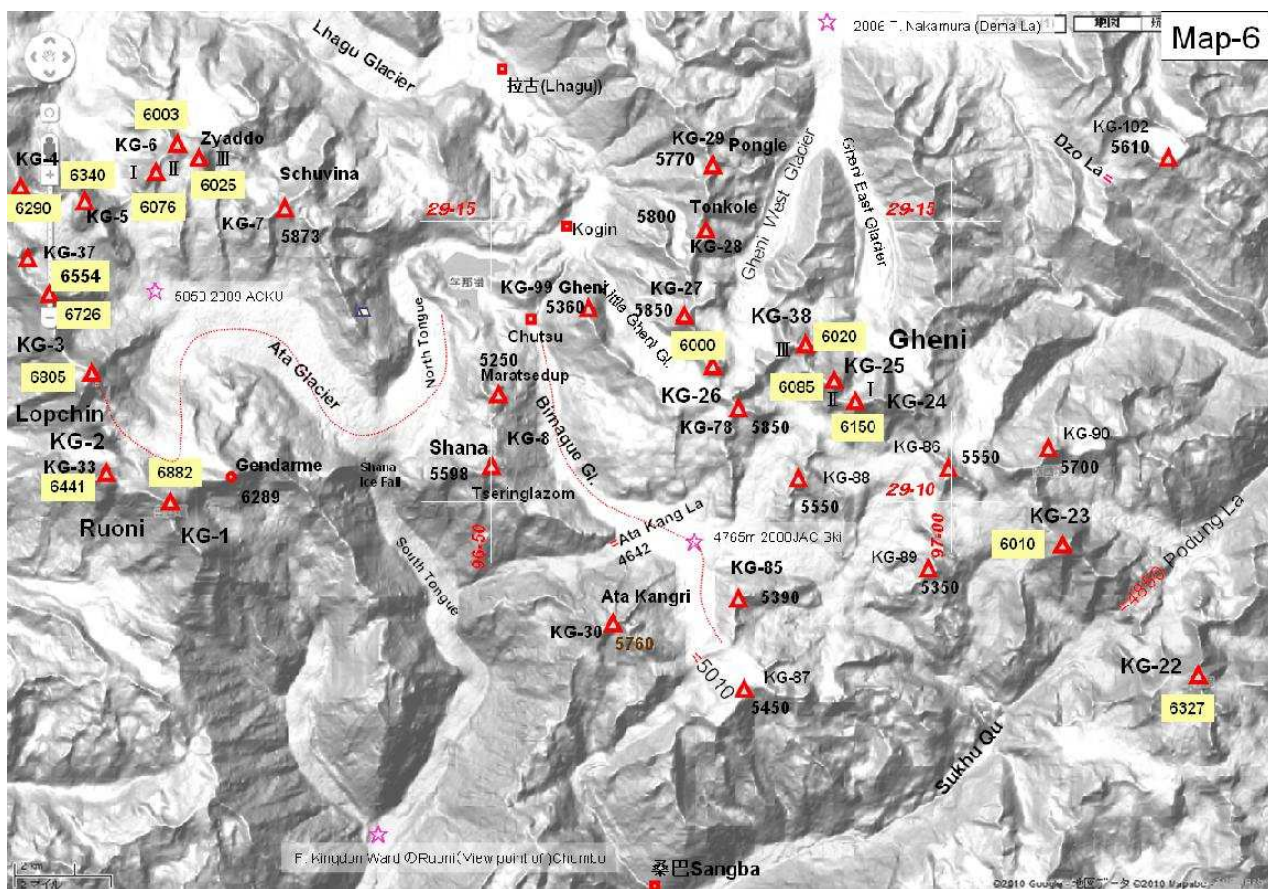
(4) Ata Glacier Range (Map-5 and 6)

The words “un-known”, “hidden” and “un-explored” are most valuable keywords for mountaineers those who are orienting to be pioneers. ACKU has been keeping this pioneer spirit to choose peaks to be climbed. Kangri Garpo is the

best world to achieve our goal in 21st century.

Since the reconnaissance party from ACKU in 2002 had no certain picture of Ruoni, they had struggled to find the possible route to the summit. In 2003, they tried to climb Ruoni from the Ata Glacier. They failed because of bad weather and dangerous condition of the ridge to the summit, but discovered many unknown peaks. In addition to these trial, the 2007 and 2009 expedition had newly discovered KG-2 (Lopchin Feng 6805m, the second highest peak of Kangri Garpo climbed in 2009), KG-3 (6726m), KG-37 (6554m), KG-33(6441m), KG-6 I (6076m), KG-6 II (6003m), KG-26(6000m) and KG-38 (6020m).





◆ **KG-35, a possible six-thousander**

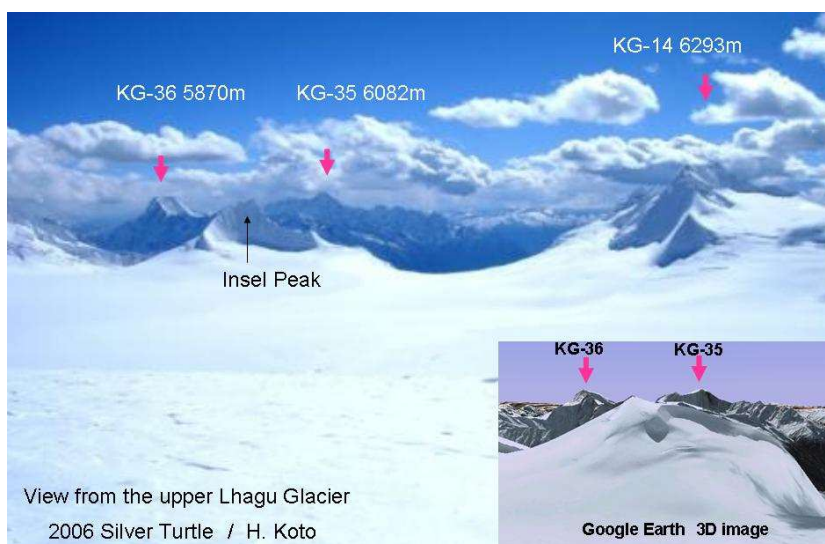


Fig 22 Unknown south-west slope of Kangri Garpo

KG-35 (6082m) stands on the end of the west ridge of KG-1(Ruoni Feng). A picture taken from the top of Snow Dome captured KG-35 and KG36, but it is too small and unclear to grasp the whole figure of those peaks.

The current maps have 6082m on KG-35 but I got 5991m altitude from ASTER. I assume KG-35 is one of six-thousander, but the elevation may be around 6000m.

In 1935, Ronald Kaulback had travelled through Kangri Garpo Qu and passed over Kangri Garpo La. A steep slope of 3900m elevation gap within 6 km horizontal distance goes up to the top of KG-35(6082m) from the bottom of Kangri Garpo Qu gorge (2200m) near Buzong Cun. I suspect he could not see any six-thousanders on the main ridge of Kangri Garpo. The south-west face of Kangri Garpo is mysterious for us and expected to be unveiled.

◆ **Three Ata Sisters; KG-1(Ruoni) , KG-2(Lopchin) and KG-3**



Fig.23 Ata Glacier great cirque; We refer to Ruoni, Lopchin and KG-3 as Three Ata Sisters.



Fig 24 The highest peak Ruoni in Kangri Garpo and KG-2(Lopchin)

Even though the expedition members of ACKU in 2003 saw KG-2(Lopchin) standing next to KG-1(Ruoni), no one paid attention to KG-2. We could identify KG-2 in the picture taken from the road to Dema La. She looks same height as Ruoni. In 2007, Takeru Yamada who was the leader of 3rd visit by ACKU confirmed KG-2 as the best target for the first ascent of the whole Kangri Garpo. The old Soviet Union map printed 6805m on KG-1(Ruoni), 6703m on KG-2(Lopchin) and 6443m on KG-37 but no altitude number on KG-3. The latest Chinese map has 6882m on KG-1(Bairiga) and no information about KG-2, KG-3 and KG-37.

To our astonishment, Koichiro Kondo watched his GPS indicated 6805m on the summit of Lopchin Feng when he reached the top. It was about 100 meters higher than that of our expectation. This fact led us to review existing maps and reports again. We cannot get any Chinese topography map which may have detail information about peaks today. We have accessed Google Earth, NASA World Wind and ASTER GDEM. Since I do not know which geoid model the old Soviet map had, the accuracy may not be good enough. About 100 meter difference is too large to use it for climbing that I doubt current altitudes of peaks in Kangri Garpo. I made a comparison of the altitudes of peaks surrounding the Ata Glacier (List-2). Approximately 80 to 110m differences are shown on the list. I hope we will be able to access the official Chinese topography based on the latest survey technology.

List-2 The altitudes of peaks in comparison with different sources

NO	KG-#	Peak Name	This report	On site***	Soviet	Chinese	ASTER
1	KG-1	Ruoni	6882	6859	6805	6882	6841
2	KG-2	Lopchin	6805*	6814	6703		6791
3	KG-3		6726	6740	-		6698
4	KG-5		6340	6373	-		5340
5	KG-6 III	Zyaddo	6025	6018	5903**		5999
6	KG-7	Schuvina	5873	5890	5699		5873
7	KG-8	Shana	5614	5614	5593		5571

Note: * GPS data on the summit ** data position at KG-6 II ***Transit and GPS data at the Ata Glacier survey in2009

As a conclusion based on this comparison, the order of altitude between KG-1, KG-2 and KG-3 is KG-1 > KG-2 > KG-3.

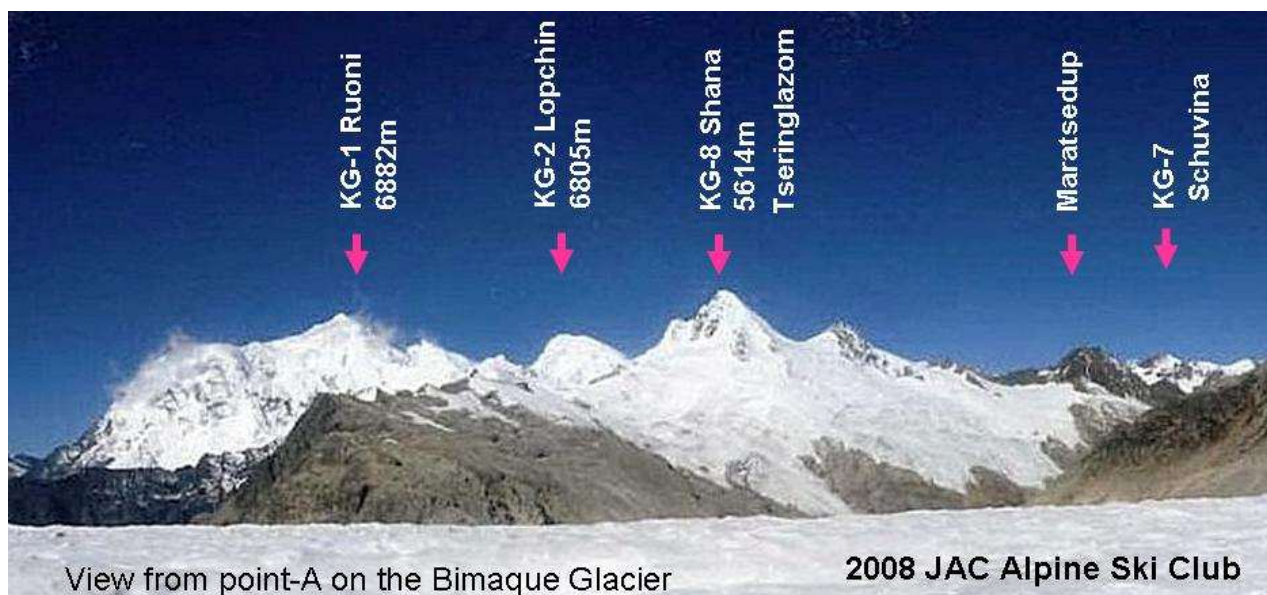


Fig 25 View from Bimaque Glacier near Ata Kang La provides another appearance of Ruoni and Lopchin

Osamu Matsuo took a picture of KG-1 and KG-2 from Bimaque Glacier; 4765m point “A” in the sketch map of this article (Map-6). It captured KG-1 and KG-2 beyond the ridge of KG-8 (Tseringlazom of Shana group).

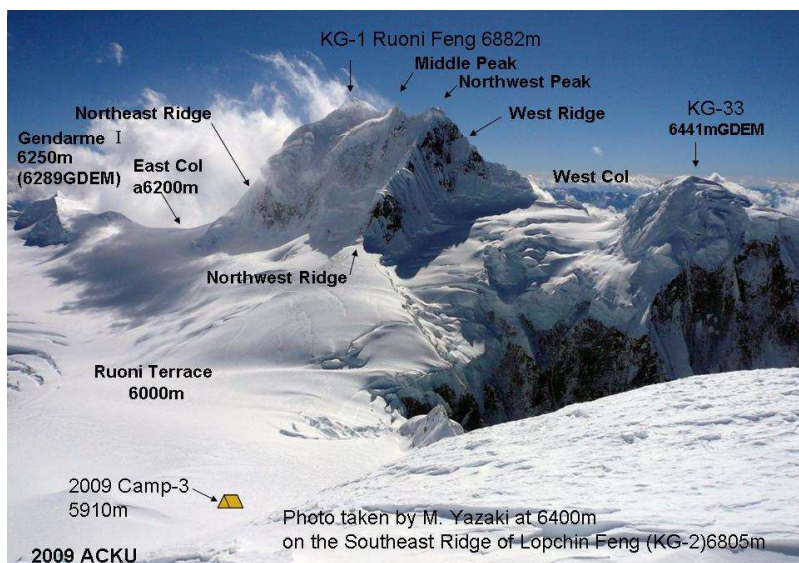


Fig 26 Ruoni the highest peak in Kangri Garpo

but we did not get any information about this attempt from the Chinese Tibet Mountaineering Association. They said they gave a permit only to ACKU.

KG-33(6441m) was a hidden six-thousander before 2009 ACKU expedition had reached the Ruoni Terrace. They discovered that KG-33 stands on the west ridge of KG-1(Ruoni).

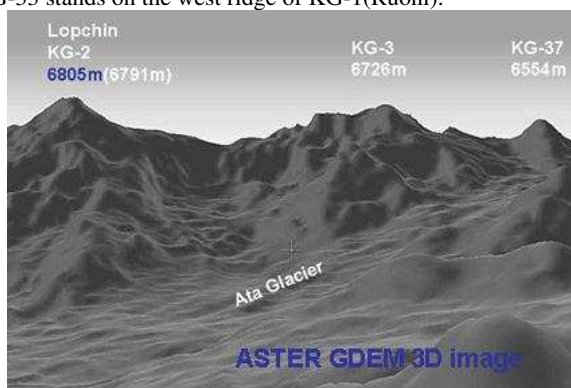


Fig 27 ASTER GDEM gives us good evidence of peak identification.

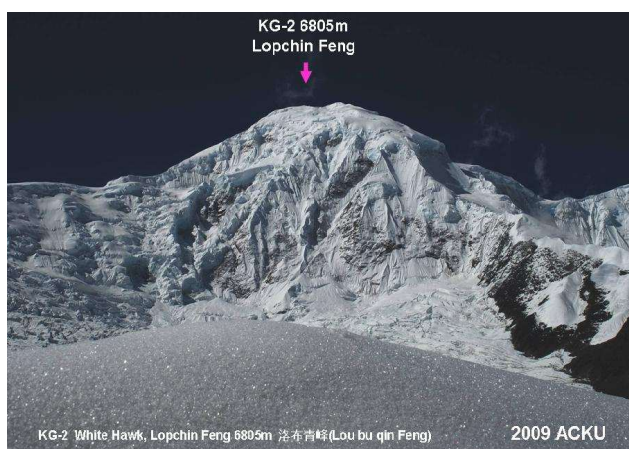


Fig 28 KG-2(Lopchin, 6805m)

KG-1 has 3 names (Choembo, Ruoni, Bairiga) and different heights, 6805m (old Soviet Union map), 6882m (Chinese map), 6610m (“Glacier of Tibet” ,Chinese Academy of Science) and others. The local people call her “Ruoni”, but we suspect the year 2003 ACKU expedition members called her “Ruoni”, and influenced the locals. A recent Chinese map has the name “Bairiga”.

Can anyone climb Ruoni? ACKU 2003 expedition had reached 5900m on Ruoni Terrace just in front of the steep wall. They could not find a safe and passable route to the summit of Ruoni despite twice reconnaissance and once attempt over the past several years. There are three considerable routes to the top. They were too overwhelmed by hanging seracs and steep saw-tooth rocks and snow ridges.

We heard news from a student of Tibet Mountaineering School that a Swiss party accessed 3 different routes to Ruoni in 2005,

KG-3 was a missing peak in the Ata Glacier before ACKU identified it in 2003. Since KG-3, KG-37 and KG-5 are obstructed and overlapped by the Zyaddo ridge when viewing them from the road to Dema La because it was difficult to distinguish them individually. Only P-6443m (KG-37) is printed on the Soviet Union map. ASTER GDEM data and its three-dimensional image helped me to identify and distinguish those peaks.

Since the peak KG-2(6805m) had no name, we expected to get the local name. We asked Lhagu village people and got several answers. One person said, “White bird’s peak” but it was not confirmed. After consultation with the village leader of nearby Lhagu, we agreed to name KG-2 “Lopchin Feng” (Chinese “Lou bu qin”) which means male hawk, brave, intelligence and university.

◆KG-4, KG-5 and KG-37

The main ridge of Kangri Garpo runs from KG-4(6290m) to KG-5 (6340m) via Twins (This is not an official naming, but just a nickname for identification.). The upper plateau cut the main ridge off near KG-5. The main ridge starts again from KG-37(6554mm) and continues to KG-3, KG-2 and KG-1. KG-4 stands on the edge of the upper plateau and is visible from Ruoni Terrace.

KG-5 is visible from the point on the road to Dema La, but many observers could not distinguish it because KG-5, KG-37 (P6443m on the old Soviet map), KG-6- I and II have overlapped on a line. A small top part of KG-37 is visible over the summit ridge of KG-5 (Refer to Fig.20 again).



Fig 29 Divide plateau of the Ata Glacier

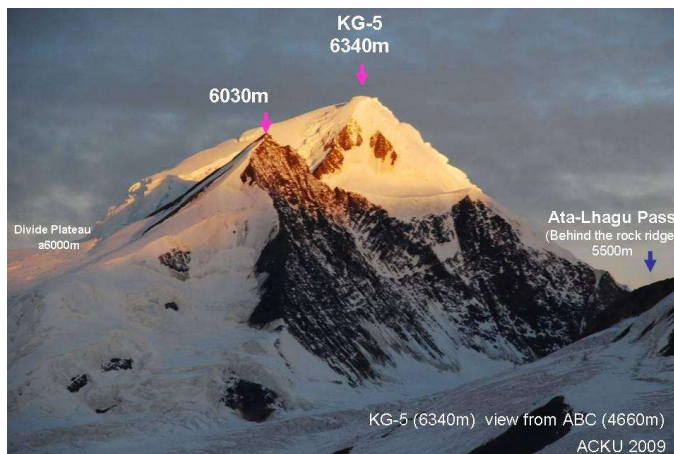


Fig 30 KG-5 was discovered as one of six-thousanders.



Fig 31 KG-37 was identified in the old Soviet Union map as 6443m, but is estimated as 6554m.

(5) Gheni Feng Range (Map-6 and 7)

◆KG-22, the highest peak in the south-east end range, and hidden KG-23

The old Soviet Union map has 6327m peak (KG-22). Many researchers of Kangri Garpo tried to unveil this peak. In 1911, F. M. Bailey travelled east side of Kangri Garpo and passed Dzo La. According to my analysis by using a picture taken by Tom Nakamura who aimed southern view from the road to Dema La, KG-22 is captured on the left side of it (Fig.32). It means F. M. Bailey might see KG-22 if the weather permitted. Dema La area is a good place

to observe Gheni range.

Wide open view of KG-24(Gheni I 6150m), KG-25(Gheni II ,6050m) and KG-26 (6000m) can be enjoyed from Dema La area. Only one opportunity made by 2009 Expedition allowed us to get the south-west slope view of the range (Fig.36).

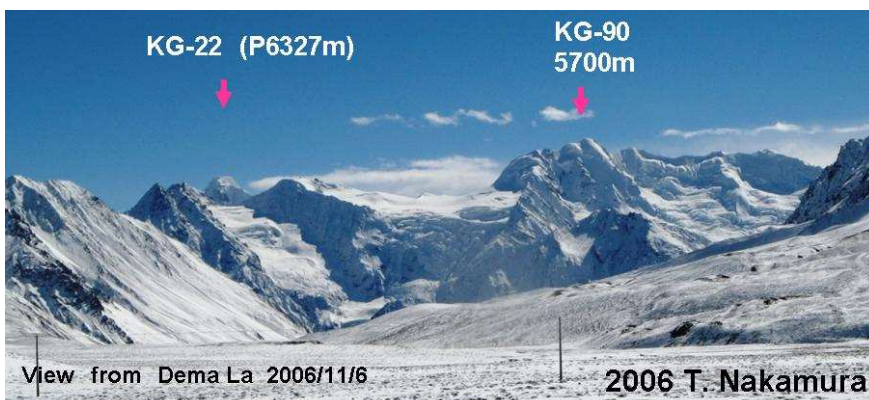
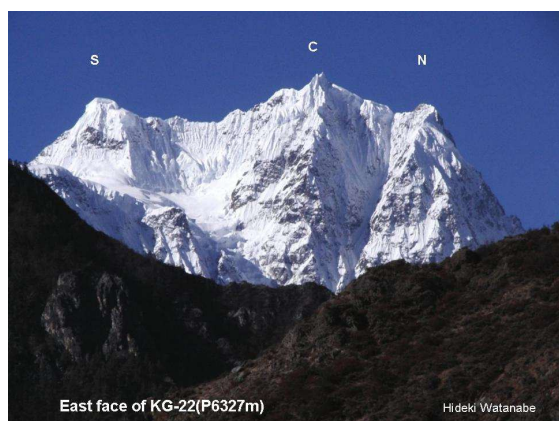
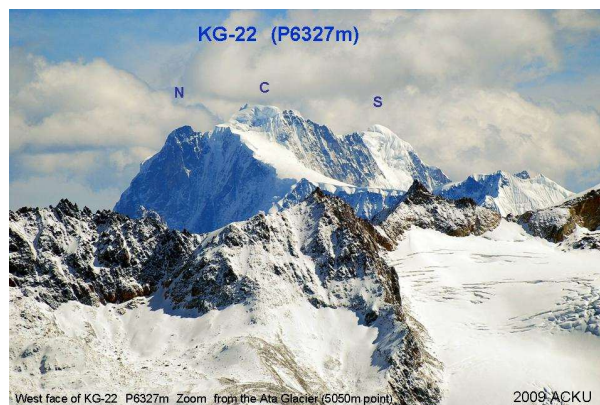


Fig 32 KG-22 can be seen from Dema La area (North face of KG-22)



**Fig 33 East face of KG-22(6327m)
View from the road to Zayul
Hideki Watanabe**



**Fig 34 West face of KG-22
View from 5050m point in the Ata Glacier**



**Fig 35
KG-23(6010m) view from 5050m point in the Ata Glacier**

The black rocky head of KG-22 North Peak is clearly identified in three directional pictures (north, west and east; Fig.32, 33 and 34). KG-23 (6010m) is a conical snow covered peak which I saw from the Ata Glacier in 2009. Another remote picture of KG-23 was taken from 4765m point in the Bimaque Glacier (Point "A" in Map-7) in 2008 by Osamu Matsuo .It is too small to find good figure from this picture.

KG-23 is not visible from Dema La area.

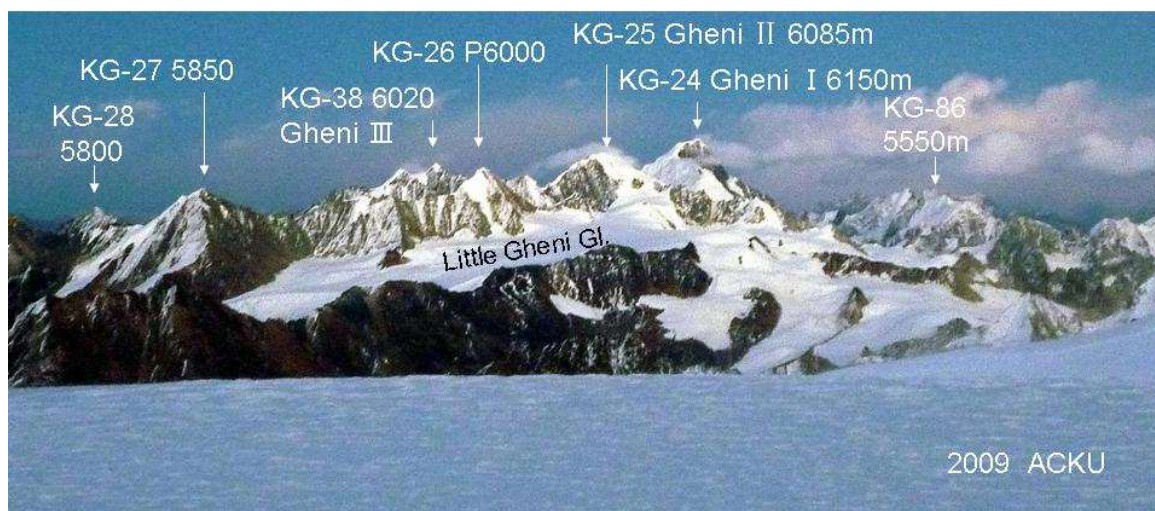
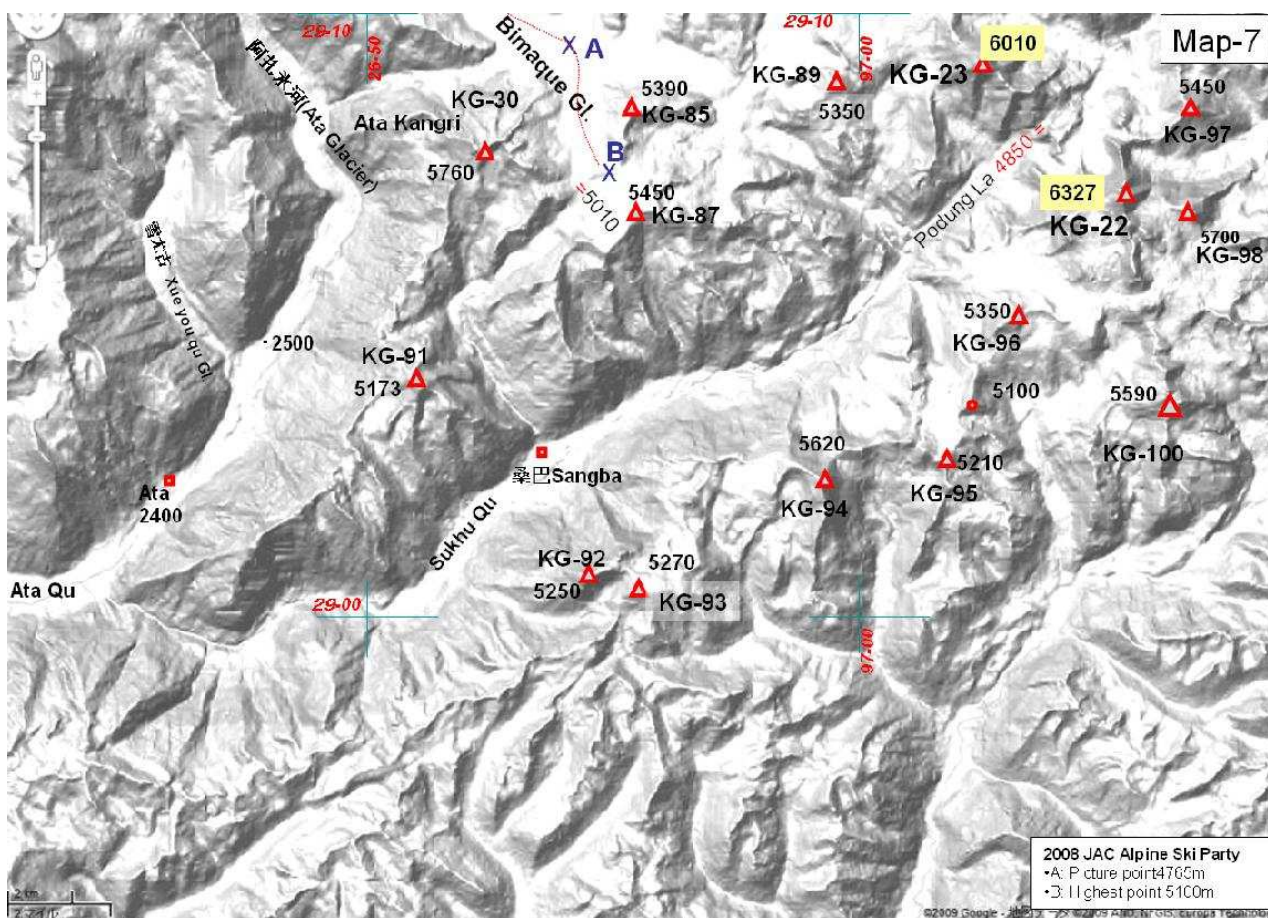


Fig 36 KG-38(GheniIII,6020m) was newly found.



◆ Discovery of KG-38(Gheni-III) and KG-26

Currently KG-24 (6150m) and KG-25 (6085m) were recognized as Gheni I and Gheni II. A picture taken by ACKU in 2009 from Camp-3 (5910m) on the Ruoni Terrace revealed the existence of twin peaks of KG-38(6020m) as Gheni III(Fig.36). Subsequently to this discovery, reviewing a picture taken by Hideki Watanabe from Dema La area, KG-38 is clearly identified (Fig.37).

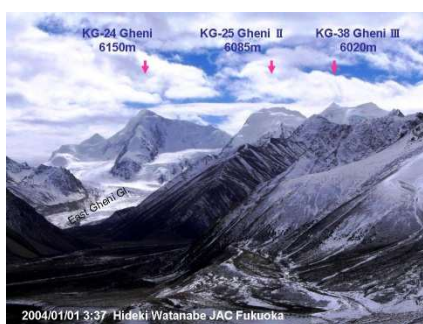


Fig 37 Three peaks of Gheni Feng group Fig 38 KG-26(6000m) was found from 5050m point in the Ata Glacier.

KG-26 (6000m) was a hidden peak before a picture had been taken from the Ata Glacier. KG-26 stands on the deep Valley of the Little Gheni Glacier near the watershed of the Gheni Glacier (I did not find name on this glacier. These are temporary names.) where a snow pass reaches the origin of the West Gheni Glacier. KG-78 (5850m) rises just on the pass (Fig.38 and 39).

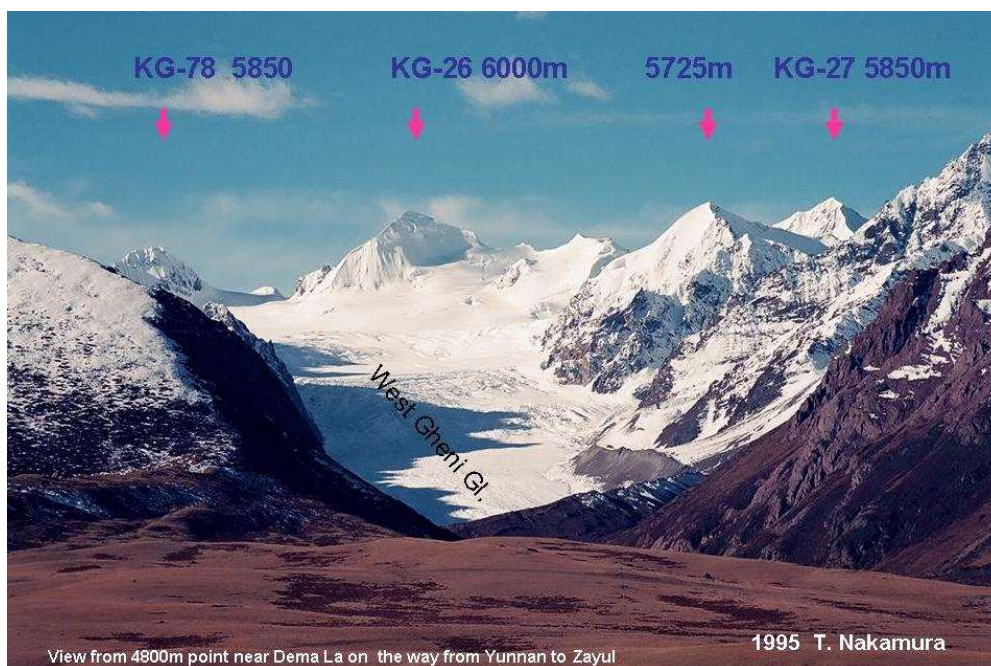
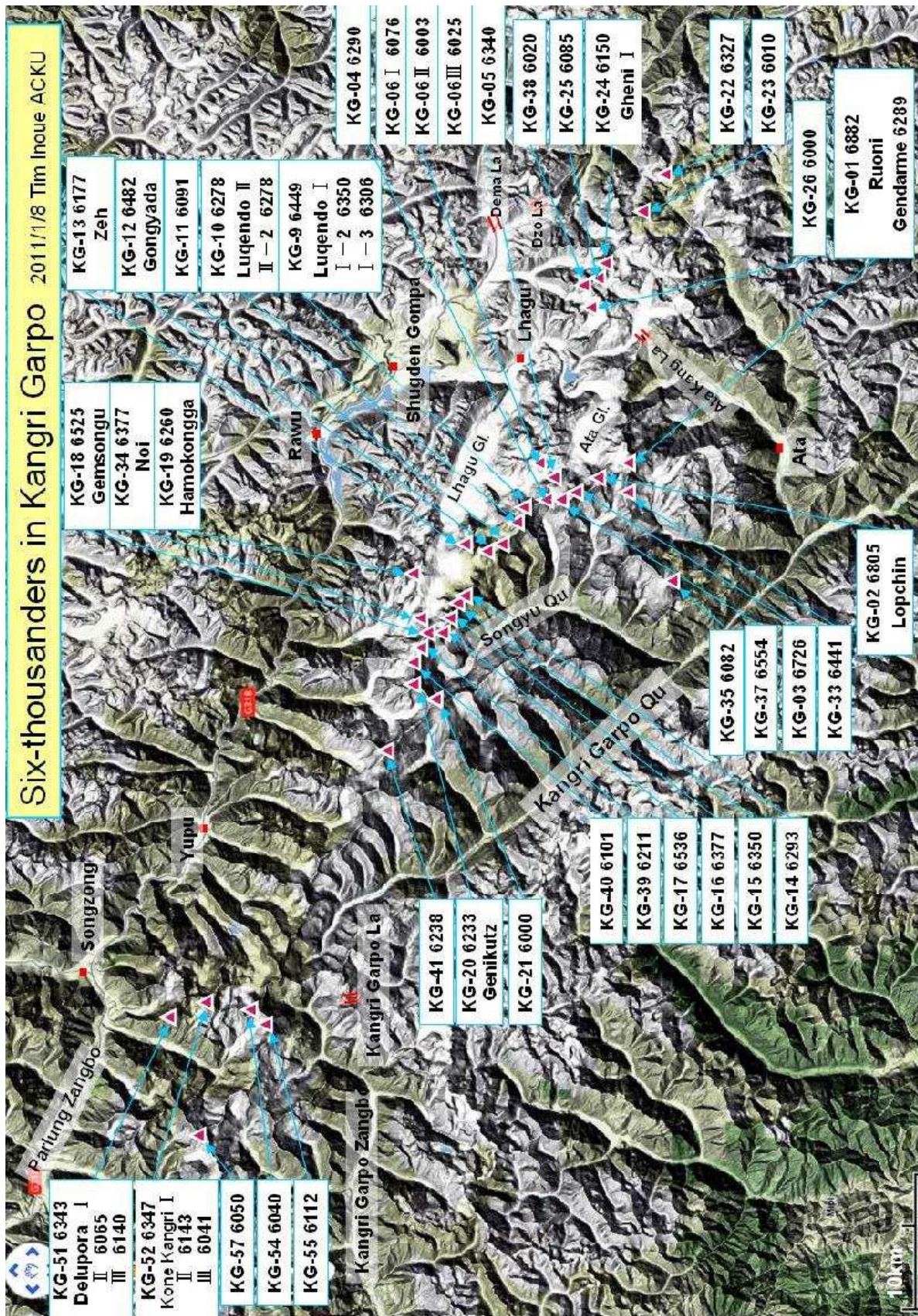


Fig 39 West Ghenni Glacier view from Dema La

Discovery of peaks is the most exciting pleasure for those who are involved in mountaineering. Since there was no map and no satellite sensing technology, a plant hunter F. Kingdon Ward had enjoyed his travel to the Kangri Garpo Mountains with many discoveries in his early 20th century. Today, we are feasible to exploit state-of-the-art technologies to support discovery of mountains such as ASTER, Computerized-Transit, digital Camera with GPS and others. Even though Chinese authority will never allow us to access précised map and data, we can integrate information that climbers and travelers provide and create comprehensive outline of mountains.

I think my study about Kangri Garpo has just started. The range is still remaining unknown and unexplored. I hope my study will be supported by people who are going to visit this range from now on. It is a miracle that we have the large field where no human steps on in 21st century.

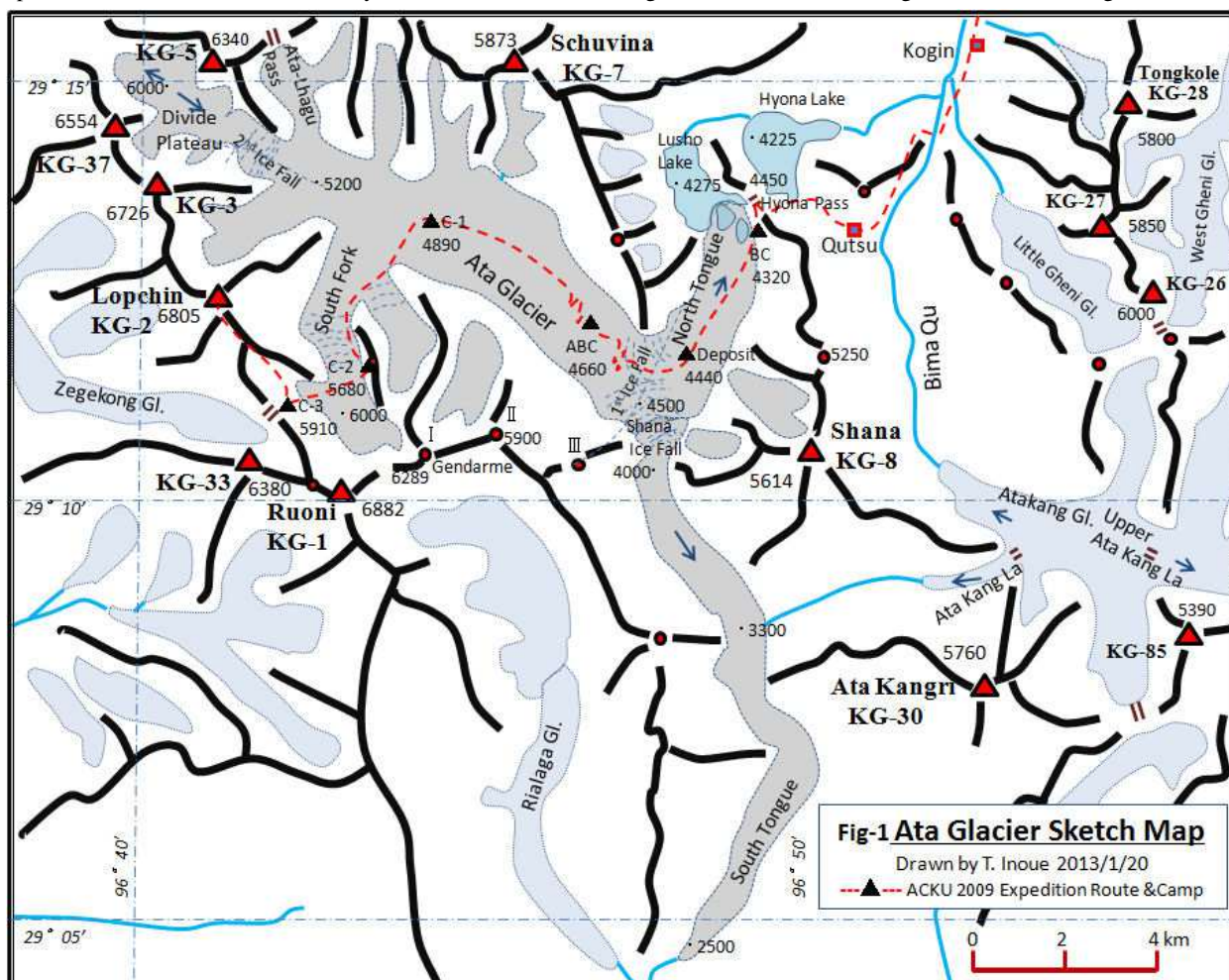


Map-10 Hidden 47 Six-thousanders in the Kangri Garpo mountains

第六章 Glaciers Receding in Kangri Garpo, Eastern Tibet The Climate Change of the Ata Glacier

◆The Ata Glacier

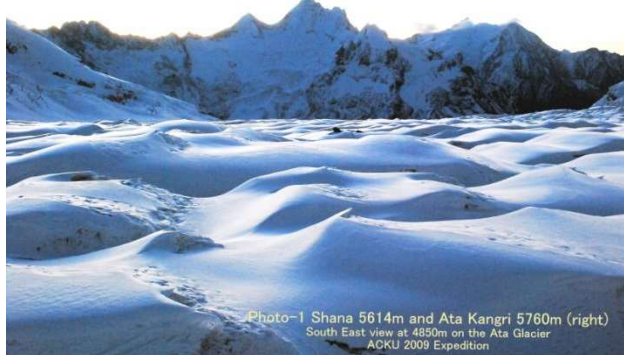
As the Fig-1 shows the two legs of the Ata Glacier, south and north, we can see well developed glaciers in the southeast Kangri Garpo Mountains. The evidence of heavy snow fall is that there are 4 glaciers which have two-legs over the divide ridges in this area.



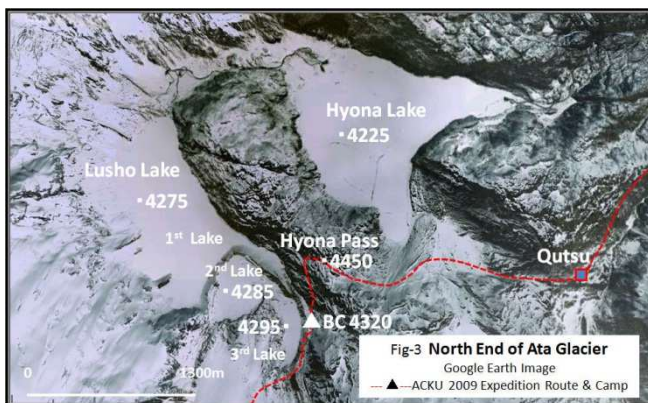
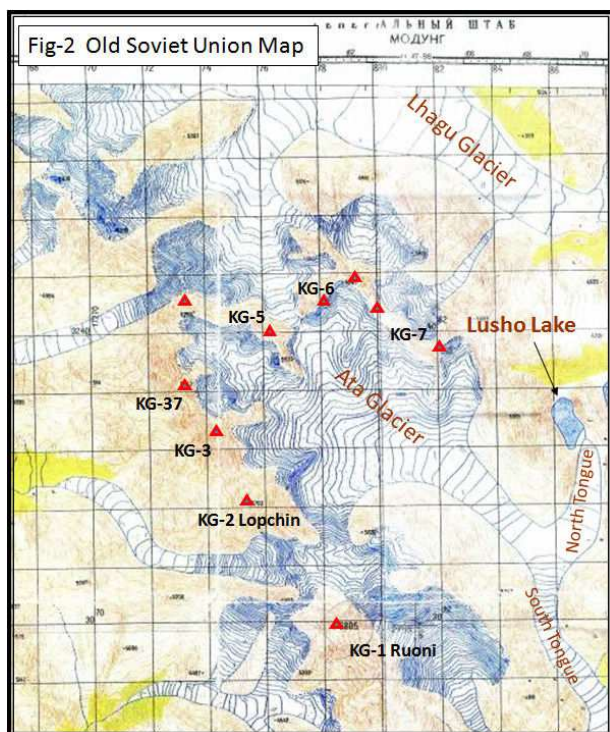
The Lhagu Glacier has about 31 km length and the Ata glacier has about 28 km length, too. The south leg of the Ata Glacier has about 15km length and the north one has about 5 km length. It is remarkable that there are those large glaciers in the Kangri Garpo Mountains. We can see such long glaciers only in the Karakorum Range as those two glaciers.

◆What we saw in the Ata Glacier

It is said that the influence of global warming also began to affect Himalaya mountain climbing. On the other hand, glacial growth is observed in Scandinavian Peninsula. Moreover, although warming in winter is accepted in the high altitude in Himalaya, it is said that warming in summer is not observed.



Ata Glacier



The warming climate of winter in the high altitude of not less than 5,000m, where glaciers are existing and the temperature is far under freezing point, cannot melt ice. Then, what on earth has occurred? It will become an aid of a true elucidation that we, the mountaineers, release the objective information observed there, and get a specialist's concern.

Through our 4 visits to the Ata Glacier area in 2002, 2003, 2007 and 2009, we experienced climate change. One change is the Shrinkage of the Ata Glacier. Another change was snowfall. We had predicted heavy snowfall in 2002, 2003 and 2007. The results were as expected. In the case of 2009, we did not experience such heavy snowfall. At DPC (Deposit Camp: 4,440m), we had daily snowfall, but no cumulative snow on the glacier. We put tents on the bare ice. At ABC (Advance Base Camp: 4,660m), we measured 130 cm snow pile up on the glacier ice. It has a unique climate condition around ABC. The south branch of the Ata Glacier flows in to the lower valley of 2,500m altitude. When the warm damp wind pressures upwards from the south branch of the glacier, clouds are exactly generated near ABC and snowfall is seen. But, At Camp 1 (4,890m), we met the same conditions as at DPC. We could get water on the glacier ice.

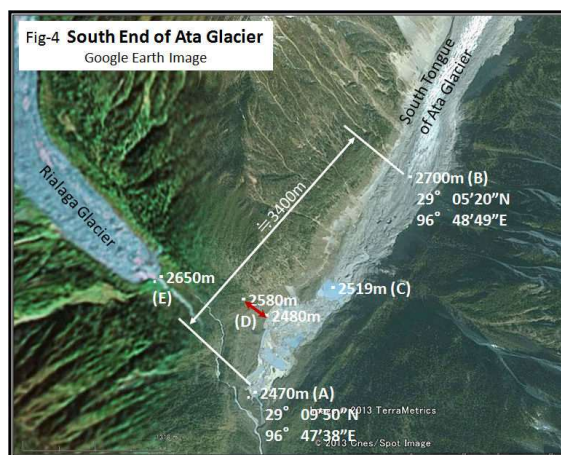
We felt hanging ice cornices on the flanks of the 3-Sisters (KG-1(Ruoni), KG-2(Lopchin) and KG-3) had shrunk compared with the past years when we compared pictures of each year. We suppose a drier climate is increasing in southeast Tibet recently.

I read a report of a ski party they went to Ata Kang La area in autumn 2008. They took a ski tour to the same area in autumn 2006 from Lhagu village, too. They enjoyed a good condition of the glacier surface with smooth downhill on the glacier in 2006. They said they had experienced surprisingly and badly surging condition of the glacier in 2008. They could not ski on the glacier in 2008.

We abandoned the usage of ski on the Ata glacier in 2009 as a result of the reconnaissance in 2007.

Fig-2 is a part of old Soviet Union map that shows the Lusho Lake. Fig-3 is a current image of Google Earth where we can see three lakes of Lusho. Two additional lakes were created in the past a half century.

What happens on the end of South Tongue of the Ata Glacier?



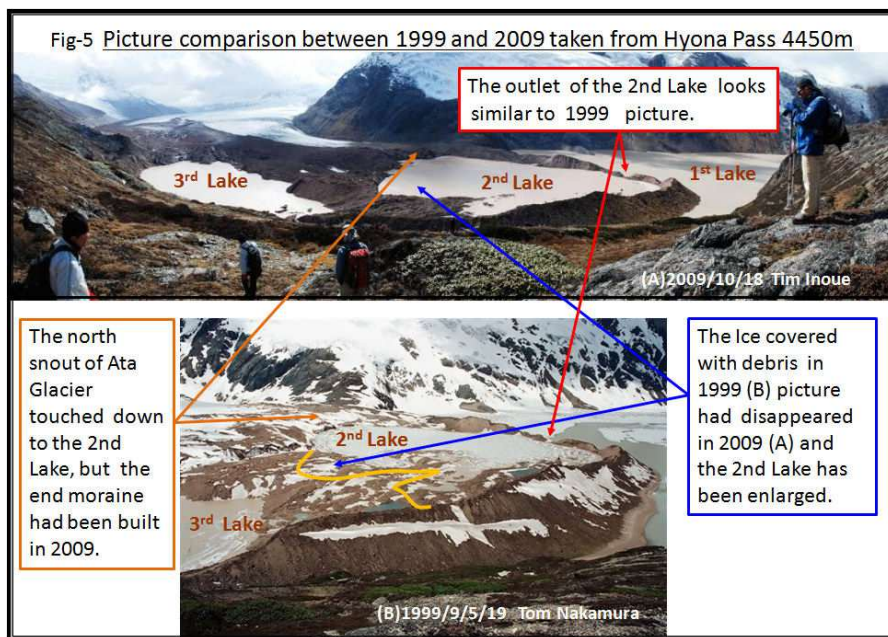
Since we did not visit Ata Qu, we cannot affirm any conclusion about receding. Fig-4 is a Google Earth image of the snout of south tongue of Ata Glacier. It seems that the dead ice or debris and small lakes lie down in the valley and about 100m

depth of sinking glacier is visible. Approximately 3400m length of the tongue had been disappeared already.

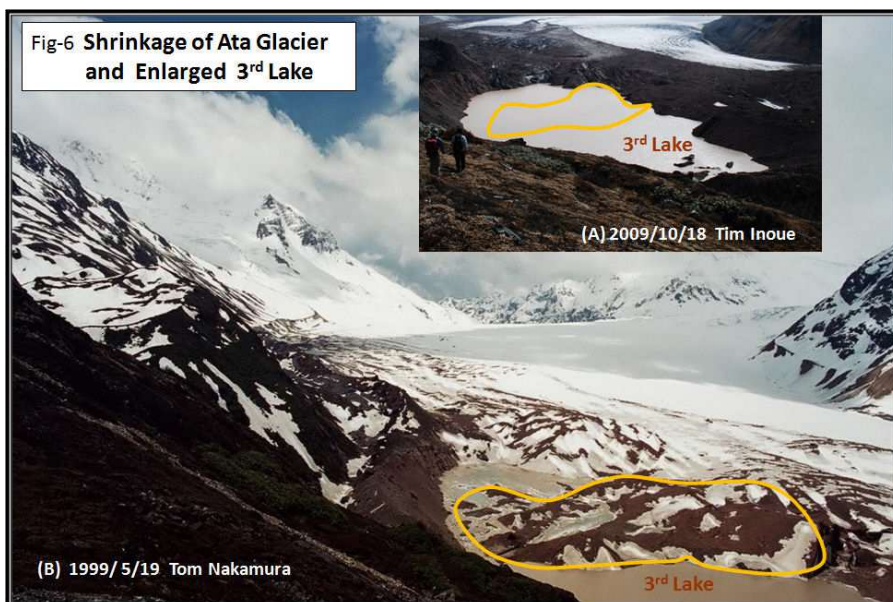
◆ Evidence of 10 years change of the Ata Glacier

Mr. Tamotsu (Tom) Nakamura provided a few pictures taken from the Hyona pass (4,450m) in 1999. I have pictures taken from the same Hyona pass in 2009. Fig-5 and Fig-6 are the comparison of a decade change of the glacier.

In 1999, three lakes of Lusho were already created, but the 2nd and 3rd lakes were smaller than those in 2009. The north snout of Ata Glacier touched down to the second lake in 1999, but the end moraine of the glacier snout had been built in 2009. A part of the ice in the 2nd lake and 3rd lake shown in 1999 were melted away in 2009. The depth of the Ata Glacier Tongue had become thin in 2009. I suspect the 4th lake may be born in the future on the right (southern side moraine) bank of the glacier.



The Kangri Garpo Mountains is under the front between the wet/warm air zone (Bengal) and dry/cold air zone (the southeast Tibet). It is surely obvious that the wet/warm air has been dominating in this region recently. We suppose the front had become unstable because of the climate change.





第七章 ピークリスト(75座) 75-peaks in the Kangri Garpo Mtns

NO	Peak ID	Name		Elevation (m)		Location N			Location E			Comment
				Map	Current	°	'	"	°	'	"	
1	KG-1	Ruoni	若尼峰	6882		29	9	60	96	43	24	
2	KG-2	Lopchin	洛布青峰	6805		29	11	59	96	41	39	1st Ascent by ACKU , 2009
3	KG-3			6726		29	13	45	96	40	52	
4	KG-4			6290		29	15	45	96	40	19	
5	KG-5			6340		29	15	18	96	41	28	
6	KG-6	I		6076		29	15	56	96	43	3	
7	KG-6	II		6003		29	16	19	96	43	28	
8	KG-6	III	Zyaddo	6025		29	16	10	96	44	3	
9	KG-7	Schuvina		5873		29	15	18	96	45	46	
10	KG-8	Shana		5614		29	10	42	96	50	3	2009/11/9 Measured / Syana
11	KG-9	Luqendo I-1		6449		29	17	1	96	39	27	
12	KG-9	Luqendo I-2		6350		29	17	2	96	39	15	
13	KG-9	Luqendo I-3		6306		29	17	10	96	38	48	
14	KG-10	Luqendo II-1		6278		29	17	41	96	38	29	
15	KG-10	Luqendo II-2		6390		29	17	58	96	38	54	
16	KG-11			6091		29	18	40	96	36	34	Hiqen-3
17	KG-12	Gongyada		6482		29	19	24	96	36	29	Hiqen-1
18	KG-13	Zeh		6177		29	20	16	96	36	57	Hiqen-3
19	KG-14			6293		29	20	60	96	33	13	
20	KG-15			6350		29	21	47	96	32	5	
21	KG-16			6377		29	21	60	96	31	24	
22	KG-17			6536		29	22	35	96	30	28	
23	KG-18	Gemsongu		6525		29	23	26	96	29	41	
24	KG-19	Hamokongga		6260		29	24	18	96	36	3	Dojizandai
25	KG-20	Genikutz		6233		29	24	6	96	26	41	
26	KG-21			6000		29	22	59	96	25	25	Xinguo Longba Divide (South of Mimai)
27	KG-22	Yuhe Kangri		6327		29	6	52	97	4	39	P6327m
28	KG-23			6010		29	9	21	97	1	59	
29	KG-24	Gheni	I	6150		29	11	51	96	58	10	
30	KG-25	Gheni	II	6085		29	12	9	96	57	3	
31	KG-26			6000		29	12	27	96	54	40	
32	KG-27			5850		29	13	15	96	54	3	
33	KG-28	Tongkole		5800		29	14	44	96	54	25	



34	KG-29	Pongle		5770		29	15	34	96	54	32	
35	KG-30	Ata Kangri		5760		29	7	55	96	52	46	
36	KG-31	Dojitsengza		5662		29	22	59	96	47	41	
37	KG-32	Tsoshi		5298		29	20	18	96	47	42	
38	KG-33			6441		29	10	24	96	42	7	Satellite Peak of Ruoni
39	KG-34	Noi		6377		29	23	20	96	30	37	Lhagu Glacier Origin
40	KG-35			6082		29	7	31	26	33	21	West Ridge of Ruoni
41	KG-36			5975		29	9	42	96	36	21	West Ridge of Ruoni
42	KG-37			6554		29	14	28	96	40	18	KG-3 II Soviet U P6443m
43	KG-38	Gheni	III	6020		29	12	49	96	56	29	
44	KG-39			6211		29	23	48	96	28	43	Midui Glacier Divide
45	KG-40			6101		29	24	6	96	27	49	Midui Glacier Divide
46	KG-41			6238		29	25	54	96	21	42	
47	KG-42			5700		29	27	32	96	18	24	
48	KG-43			5670		29	27	30	96	16	40	
49	KG-44			5870		29	32	48	96	21	1	
50	KG-45	Gaisyan Konla		5725		29	33	44	96	21	20	Kepa Longba
51	KG-46			5520		29	28	17	96	15	12	Bo Gong La
52	KG-47			5641		29	31	16	96	11	49	
53	KG-48			5432		29	30	49	96	10	26	
54	KG-49			5640		29	32	15	96	8	3	
55	KG-50			5788		29	32	53	96	6	2	Gone Glacier
56	KG-51	Kone Kangri	I	6347		29	37	7	96	3	18	
57	KG-51	Kone Kangri	II	6143		29	36	25	96	4	44	
58	KG-51	Kone Kangri	III	6041		29	36	32	96	5	26	
59	KG-52	Delupola	I	6343		29	39	18	96	2	25	
60	KG-52	Delupola	II	6065		29	38	46	96	3	31	
61	KG-52	Delupola	III	6140		29	38	58	96	4	19	
62	KG-53	Riga		5860		29	40	3	96	5	41	
63	KG-54			6040		29	34	14	96	3	2	
64	KG-55			6077		29	33	15	96	0	54	
65	KG-56	Kangri Karpo		5442		29	34	57	95	56	37	
66	KG-57	Kangxiao Kangri	I	6050		29	37	36	95	53	39	Dong Chu Zangbo
67	KG-57		II	5700		29	38	44	95	54	33	
68	KG-57		III	5700		29	39	0	95	55	14	
69	KG-58	Shingi Kanlha		5688		29	44	44	95	48	5	



70	KG-59	Dupoalimona		5620		29	45	30	95	44	55	
71	KG-60			5700		29	41	38	95	44	37	
72	KG-61			5510		29	44	24	95	44	5	
73	KG-62	Kanjanaripa		5490		29	46	34	95	39	7	Gari
74	KG-63			5700		29	48	11	95	40	14	
75	KG-64			4850		29	48	21	95	30	13	



第二部 念青唐古拉西山群・山座同定

Peak identification of the Nyainqentanglha West Mountains

(Summary of the Joint Expedition 2015)

山形裕士 Hiroshi Yamagata 井上達男 Tim (Tatsuo) Inoue

はじめに Introduction

井上達男 Tim (Tatsuo) Inoue

青唐古拉西山群は青海西藏鉄道が拉薩を出発、北西に谷筋を遡上し、羊八井にて北東に大きく進路を変え、当雄を経てさらに北上するあたりの北東から南西に全長約 280km の独立山群を形成している。山群の北には世界で一番標高の高い塩湖であるナムツォ（納木措 Nam Tso 4729m）を配している。比較的開かれた山群でニエンチェンタンラ山（念青唐古拉 Nyainqentanglha 7162m）及びチュンモ・カンリ（窮母崗日 Qungmo Kangri 7048m）の 2 つの 7000 メートル峰がすでに登頂されている。

しかし、6000m 峰に着目すると独立した目立つピークとしてゴールデン・ドラゴン（金龍峰 Golden Dragon 6614m）やサムダイン・カンサン（桑丹康桑峰 Samdain Kangsang 6590m）などの既登峰をはじめ Google earth や ASTER などの衛星観測によると 200 内外のピークが認められる。6500m 以上の未踏独立峰は 2016 年 1 月現在バダリ峰（巴達日 Bada Ri or Pata Kangri 6516m）のみで 2015 年 10 月、神戸大学と中国地質大学（武漢）の合同隊が試登した。既登峰は調査した範囲で約 30 座であり、未踏の 6000m 峰が多数眠っている山群である。未知のピークも多くあり、特に山群の中南部域は全く謎に包まれていた。

山群の未踏峰登山と並行して未知の山々を探ることを目的に 2014 年～2015 年の 2 年間に調査行を実施した。Map-1 に山群の主たるピークとピーク観察のために訪れた地点“View Point”を図示した。

Starting from Lhasa on G109 to the north-west through a narrow valley, turning to the north-east at Yangbajain where a large dale opens and passing Dangxiong, you can see a massive mountain range on the left side. The Nyainqentanglha West Mountains runs from the north-east to the south-west with about 280km length. The highest elevation salty lake in the world, Nam Tso (4729m) lies on the northern sides of the mountains. The mountain range is relatively popular in Tibet. Two of 7000m-peaks, Nyainqentanglha Shan (7162m) and Qungmo Kangri (7048m), were already climbed.

However, about 200 peaks captured by Google earth and ASTER GDEM which are over 6000m-peaks are located in the range and most of peaks are unclimbed. Golden Dragon (6614m) and Samdain Kangsang (6590m) are well known and already climbed. There is only one unclimbed over 6500m peak, Bada Ri (6516m). In October 2015, the joint expedition by the Alpine Club of Kobe University (ACKU) and Chinese University of Geosciences –Wuhan (CUGW) tried to climb this mountain and reached a shoulder peak named Ta Ri (6330m). According to our research, about 30 peaks were already climbed and many unclimbed peaks are sleeping in the range.

The authors are going to study peaks and have identified peaks from the “View Point-1 to 6” (Map-1) through our research tour in 2014 and 2015.

◆View Point-1 羊八井とその北東近郊 Yangbajain & North-east outside city

拉薩から羊八井への街道は溪谷を北上する。前方に視界が開けると広々とした谷が東西に延びて高原の街、羊八井に入り、前方に念青唐古拉西山群の前山であるドーム型の雪峰キチ（キーツまたはキズ Kyizi 6150m）と三本槍型の岩峰ルチ（ルーツまたはルーズ Luzi 6206m）が左右に並んで迫りくる。また、町の西はずれに出ると山群第二の高峰、チュンモ・カンリ（チョモ・カンリ Qungmo Kangri 7048m）が遠くに輝いている。

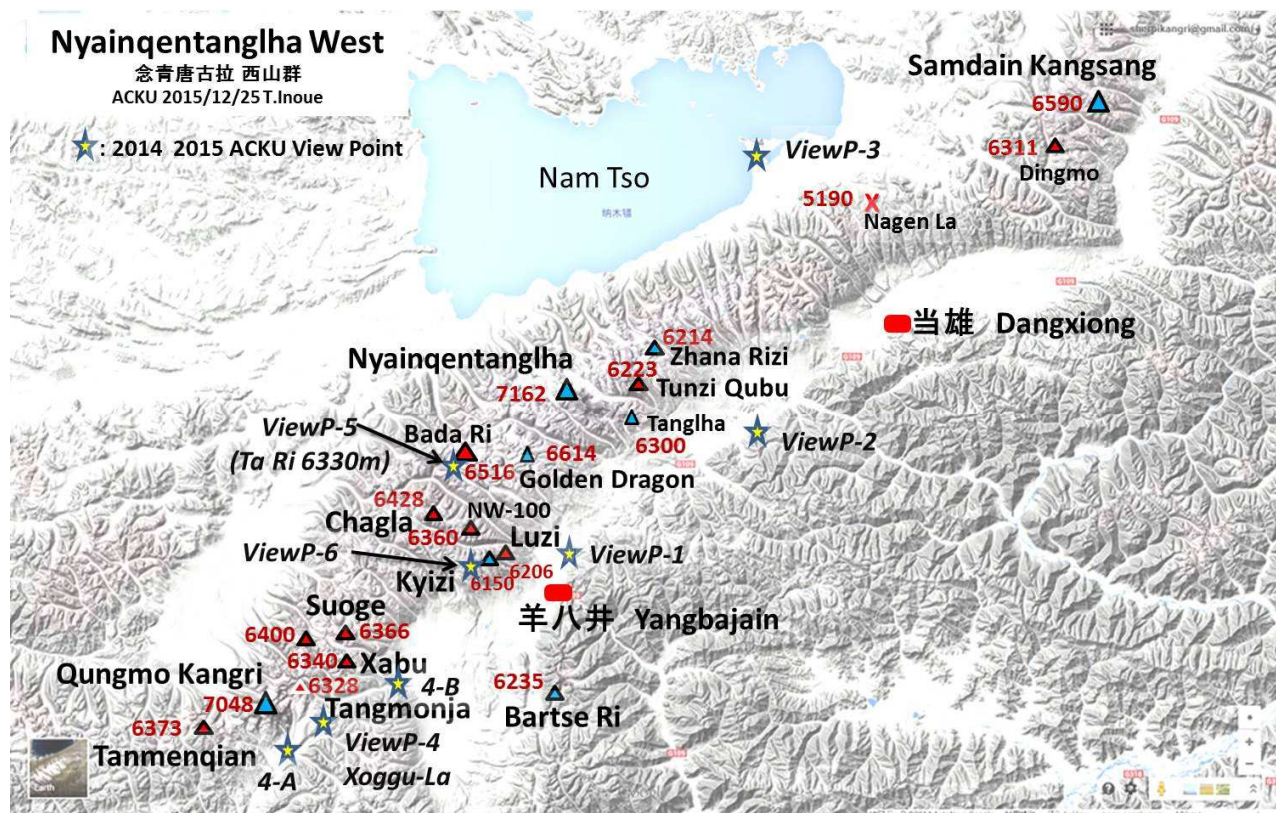
さらに町の北東に国道を進むと山群の主峰をはじめゴールデン・ドラゴン（Golden Dragon 6614m; 金龍峰）、チャガール・リ（Chaggar Ri 6432m）及び謎の鋭峰 NW-100（6360m）などがなだらかな放牧地の丘陵越に白銀と漆黒の山肌を紺碧の天空に突き上げている。しかし、このあたりから谷奥に眠る多くの山々は見る事ができない。

Looking forward to the north at Yangbajain over the open field of the dale, a white dome Kyizi (6150m) on the left and a rocky 3-spears type pinnacles Luzi (6206m) on the right stand in front of the Nyainqentanglha Mountains. Turning eyes to the left, Qungmo Kangri (7048m) stands on the far west hill in the blue sky.

Going to the outside of the town to the north-east on G109, Golden Dragon, Chaggar Ri (6432m) and mysterious pyramidal peak NW-100 (6360m) are spectacular. However, many sleeping peaks in the deep valleys cannot be seen.

◆View Point-2 (30-19-40.77 N 90-53-45.60 E , 4664m)

2014年、偵察隊が山群の奥を観察するために南側の丘陵に登った。北東にはサムダイン・カンサン山塊の南面を遠望、対岸にジャナリツ山塊、ニエンチェンタンラ主峰山塊そしてキチ・ルチ山塊などを遠望できた。



Map-1 念青唐古拉西山群と山座観察点

Nyainqentanglha West & View Point

The research party in 2014 climbed up to the View Point-2 on the south hill of the dale. They could get pictures of Samdain Kangsang Group in the far north-eastern view, ZhanaRizi –Tunzi Qubu Group and Nyainqentanglha Main-peak group on the opposite side of the valley. Furthermore, Kyizi-Luzi Group was visible and they took good pictures of peaks in the back-right side of Luzi.

◆View Point-3 ナムツォ Nam Tso

山群の北にナムツォが広がっている。2015年11月に訪れた時は水位が2m程下がっていた。近年降水量が減少したのが原因か、それとも季節的なものか、気になるところであった。南岸の半島部にチベット仏教の聖地があり、現在は観光地となっている。この辺り一帯から念青唐古拉西山群東半分の北西面が展望できる。山群の主峰、ニエンチェンタンラ山の切り立った北壁が印象的である。特に新しい発見はないが、2014年の偵察隊がサムダイン・カンサン山塊の山々を鮮明に捉えている。

When we visited Nam Tso in November 2015, the water surface looked 2 meters lower than its normal level. As far as I am concerned, recent dried up climate affected the environment or the seasonal change simply made it.

The sacred Buddhism place at a small peninsula on the south-east shore of the lake was a good view point for our research of the northern part of the mountains. The scenery of peaks from the View Point-3 is the most popular in the Nyainqentanglha West Mountains. It was cloudy when we visited there and could not see any peaks in the Samdain Kangsang Group, but in 2014, we had gotten good pictures.

◆View Point-4, 4A, 4B ショグラ(雪格拉 Xoggu La 5290m およびショグラ峰(5800m)

Xoggu La (5290m) and Xoggula Peak (5800m)

峠の西にチュンモ・カンリの堂々たる姿とその周辺の山々が遮るものなく観察できる。また、北にはNW-140峰(6400m)、



ソゲ峰(Suoge 6366m)及びシャブ峰(Xabu 6340m)など、情報の少ない峰々の姿を捉えることができた。

View Point-4 (Xoggu La (5290m) and Xoggula Peak (5800m)) is the best place to watch Qungmo Kangri and other northern peaks such as NW-140 (6400m), Suoge (6366m) and Xabu (6340m).

◆View Point-5 タリ峰(Ta Ri 6330m)頂上

2015年、バダリ峰試登時、初登頂されたタリ峰 (Ta Ri 達日峰 6330m)山頂からの360度パノラマ写真が中南部域の隠された山々を数多くとらえている。バダリの5つのピークはもとよりグリーン谷(Gurin Qu)を隔てて、ボーリン峰(Boring 6384m)、チャグラ峰(Chagla 6428m)は今まで明らかにされていない幻のピークであった。また、NW-100 (6360m; ASTER GDEM データ)は Google earth では 6256m で、タリ峰山頂からの写真が ASTER GDEM のデータ高度がより実際に近いことを示している。

The 360 degree panorama picture taken on the top of Ta Ri (6330m), View Point-5, where ACKU 2015 expedition party climbed, provides good profiles of many hidden peak in the middle area of Nyainqentanglha West Mountains. Five peaks of Bada Ri were unveiled. NW-100 (6360m), Boring (6384m) and Chagla (6428m) on the ridge of Gurin Qu / Gilha Qu divide opened their faces to us.

NW-100 has 6428m elevation in Google earth. We thought it was suspicious because a few pictures taken from the View Point-1 and 2 shows that the peak looks much higher than the nearest two peaks, NW-101 and NW-102. The ASTER GDEM data provided us 6360m. The height of 6360m is likely close to the real elevation of it.

◆View Point-6 Kyizi ridge

もう一つ View Point-6 と言うべきはキチ峰である。チベット登山学校がヒマラヤ登山のトレーニングに何度も登頂しているが、その西稜線からの展望はギラ谷(Gilha Qu)北東稜線のチャグラ峰、NW-100 峰に加えて分水嶺の無名峰 NW-103 (6285m)、NW-104 (6244m)などギラ氷河源頭域の観察点となっている。

One more good place is the View Point-6 where is on the ridge between NW-108 and NW-160 just west of Kyizi. Tibet Mountaineering School (TMS) has often held their training on Kyizi. Mr. Deqing Ouzhu who is our expedition member, a graduated school boy of TMS and a student of CUGW took pictures from the View Point-6. NW-100, NW-103 (6285m) and NW-104 (6244m) in the deep valley of Gilha Qu are captured. Both pictures from Ta Ri and the View Point-6 give us clear identification of the peaks.

念青唐古拉西山群は比較的に開かれた場所にあり、幹線道路と並走してチンハイ・チベット鉄道が山群の南東から東に開設され、数多くの見えるピークが明らかになっている。また、いくつかの登山隊の写真も存在し、今回の調査結果を合わせると山群主要ピークの全貌がほぼ解明されたと考えられる。しかし、未探検地域も多く、6000m 峰が全て明らかになったわけではない。

以上の観察点からの写真を解読し、ピーク同定を行ったので本稿ではそれらの結果を示す。登山隊の活動は報告書本文に日本語で報告するのでここでは概要を英文にて記載する。

山群には多くの無名峰や未知のピークが存在するので、識別番号をつけて区別した。Nyainqentanglha West の頭文字を採って NW-#### とした。主たるピーク(本稿に記述したピークなど)の一覧を表-1 に示す。

Nyainqentanglha West Mountains lies in the open area to tourist. The Qinghai-Tibet Railway and National Road G109 run together along the south-east front hill of the mountains. Many visible peaks from the road and railway are already identified. Many mountaineering expedition parties took good pictures. Including our research pictures, the outline of the mountains can be identified. But, there are still so many unexplored areas that more hard works will be required to unveil whole mountains.

We have identified peaks listed on the Table-1 by using those pictures taken from the View Point- 1 to 6. Since there are many un-named and unknown peaks, we put ID-numbers such as NW-## (Nyainqentanglha West).



表-1 Table-1 Peaks of Nyainqentanglha West 主要ピークリスト(念青唐古拉西山群)

NO	ID-NO	Peak Name	中国語	ピーク記述	TimMap	東経E	北緯N	登頂	初登頂国
1	NW-1	Nyainqentanglha Main	念青唐古拉山	山脈主峰	7162	90° 33'33.37"E	30° 23'21.21"N	Climbed	東北大学
2	NW-2	Nyainqentanglha Middle		II	7111	90° 33'53.17"E	30° 23'14.29"N		
3	NW-3	Nyainqentanglha Central		III	7117	90° 34'26.26"E	30° 23'1.85"N	Climbed	Austria
4	NW-4	Nyainqentanglha South-East		IV	7046	90° 36'2.15"E	30° 22'4.05"N	Climbed	Japan
5	NW-5	Qungmo Kangri	究母崗日		7048	90° 1'28.18"E	29° 54'12.16"N	Climbed	China-Korea
6	NW-11	Samdain Kangsang		Samdain Kangsang Group	6590	91° 29'22.34"E	30° 50'12.64"N	Climbed	
7	NW-12	Dingmo		Samdain Kangsang Group	6311	91° 25'39.03"E	30° 47'25.71"N		
8	NW-21	Zhana Rizhi Main	扎那日字		6214	90° 41'47.79"E	30° 27'8.31"N	Climbed	Japan (JAC福井)
9	NW-22	Zhana Rizhi II	扎那日字		6034	90° 41'44.63"E	30° 26'16.76"N		
10	NW-23	Zhana Rizhi III	扎那日字	チュガチユチン	6174	90° 41'37.73"E	30° 25'52.09"N	Climbed	Japan
11	NW-24	Zhana Rizhi IV	扎那日字		6067	90° 40'46.04"E	30° 27'30.54"N		
12	NW-25	Zhana Rizhi V	扎那日字	チュング ローズ 峰	6122	90° 43'17.21"E	30° 25'57.42"N	Climbed	Japan
13	NW-32	Tunzi Qubu Main	登子曲布	Tunzi Qubu Group	6223	90° 39'36.18"E	30° 23'46.55"N		
14	NW-33	Tunzi Qubu VI	登子曲布	Tunzi Qubu Group	6212	90° 39'6.31"E	30° 24'35.34"N		
15	NW-37	Tunzi Qubu VII	登子曲布	Tunzi Qubu Group	6193	90° 36'55.45"E	30° 24'59.37"N		
16	NW-38	Tunzi Qubu VIII	登子曲布	Tunzi Qubu Group	6146	90° 35'35.71"E	30° 25'17.82"N		
17	NW-41	Tanglha		Nyainqentanglha main group	6330	90° 39'4.59"E	30° 21'32.01"N	Climbed	
18	NW-42	No-Name		Nyainqentanglha main group	6394	90° 37'54.20"E	30° 21'41.47"N		
19	NW-43	Pulpit		Nyainqentanglha main group	6771	90° 36'30.09"E	30° 22'1.38"N		
20	NW-44	No-Name		Nyainqentanglha main group	6317	90° 36'35.44"E	30° 20'29.14"N		
21	NW-47	Sha Mo Karpo Ri		Gompa Garpo Group	6261	90° 30'47.57"E	30° 22'13.92"N	Climbed	Austria
22	NW-50	Gompa Garpo Ri		Gompa Garpo Group	6277	90° 31'48.42"E	30° 20'48.40"N	Climbed	Austria
23	NW-51	Pajan Zhari	坡尖扎日	Gompa Garpo Group	6271	90° 33'14.63"E	30° 19'39.71"N	Climbed	Austria
24	NW-52	Golden Dragon	金龍	Jin Long / Sir Duk(Tibet)	6614	90° 28'48.00"E	30° 18'17.76"N	Climbed	Austria
25	NW-53	Chorten Garpo (White Pagoda)		Golden Dragon Group	6415	90° 29'44.92"E	30° 17'44.13"N	Climbed	Austria
26	NW-54	Chaggar Kangri (Chaggar Ri)		Golden Dragon Group	6432	90° 30'43.78"E	30° 16'53.03"N		
27	NW-55	Yarlung Ri Main			6370	90° 28'28.99"E	30° 16'46.52"N		
28	NW-56	Yarlung Ri II			6256	90° 28'20.74"E	30° 17'9.15"N	Climbed	Austria
29	NW-62	No-Name		W. Bilanz Glacier	6222	90° 25'41.44"E	30° 19'22.38"N		
30	NW-65	No-Name			6286	90° 24'17.54"E	30° 19'2.61"N	Climbed	UK
31	NW-66	No-Name			6382	90° 24'23.27"E	30° 17'23.55"N	Climbed	UK
32	NW-68	No-Name			6214	90° 25'59.82"E	30° 15'6.67"N		
33	NW-71	Bada Ri V	巴達日		6396	90° 20'44.37"E	30° 16'3.96"N		
34	NW-72	Bada Ri IV	巴達日		6389	90° 20'54.56"E	30° 16'41.25"N		
35	NW-73	Bada Ri III	巴達日		6409	90° 21'33.85"E	30° 17'6.73"N		
36	NW-74	Bada Ri II	巴達日		6410	90° 21'57.79"E	30° 16'53.77"N		
37	NW-75	Bada Ri I	巴達日	Main Peak, Bada Group	6516	90° 22'29.26"E	30° 16'35.51"N		
38	NW-78	No-Name		West Bada Glacier	6221	90° 19'55.25"E	30° 18'14.31"N		
39	NW-83	No-Name		Bada Qu	6196	90° 24'13.32"E	30° 13'19.28"N		
40	NW-88	No-Name		1st 2nd Bada Gacier	6218	90° 23'29.17"E	30° 15'59.24"N		
41	NW-97	Boring		Boring Massive	6384	90° 17'52.38"E	30° 13'26.81"N		
42	NW-98	Chagla			6428	90° 19'24.32"E	30° 12'11.96"N		
43	NW-100	No-Name		Gilha Qu	6360	90° 22'0.21"E	30° 10'55.98"N		
44	NW-101	No-Name		Gilha Qu	6251	90° 22'0.21"E	30° 10'54.68"N		
45	NW-102	No-Name		Gilha Qu	6144	90° 23'23.76"E	30° 10'14.13"N		
46	NW-103	No-Name		Boring Massive	6285	90° 16'2.41"E	30° 12'45.19"N		
47	NW-104	No-Name		Gilha Qu Divide	6189	90° 14'29.33"E	30° 12'10.34"N		
48	NW-105	No-Name		Gilha Qu Divide	6125	90° 15'34.28"E	30° 11'23.23"N		
49	NW-106	No-Name		Gilha Glacier	6175	90° 17'12.99"E	30° 9'58.99"N		
50	NW-109	Kyizi		Gilha Qu	6150	90° 24'46.44"E	30° 8'4.82"N	Climbed	
51	NW-113	Gogangmon Chire		Lingsgen La	6160	90° 13'49.90"E	30° 8'1.29"N		
52	NW-119	No-Name			6246	90° 10'35.76"E	30° 5'21.41"N		
53	NW-126	No-Name			6344	90° 7'27.43"E	30° 3'10.61"N		
54	NW-135	Suoge	索格	Main Peak, Suoge Massive	6366	90° 8'51.24"E	30° 0'47.57"N		
55	NW-139	Garbu (Saka)		Xabu Massive	6248	90° 4'59.23"E	30° 1'11.74"N		
56	NW-141	No-Name			6224	90° 3'4.35"E	30° 0'24.27"N		
57	NW-144	Xabu		Main peak, Xabu Massive	6340	90° 9'18.00"E	29° 59'1.20"N		
58	NW-148	Bai Gangrakung		Qungmo Kangri Massive	6328	90° 1'51.12"E	29° 58'19.72"N		
59	NW-149	Gangrawo		Qungmo Kangri Massive	6316	90° 3'20.47"E	29° 57'43.78"N		
60	NW-150	Pogolha		Qungmo Kangri Massive	6270	90° 4'18.42"E	29° 57'14.47"N		
61	NW-151	Tangmonja		Qungmo Kangri Massive	6328	90° 4'54.39"E	29° 56'47.19"N		
62	NW-152	Kenggo		Qungmo Kangri Massive	6150	90° 0'26.83"E	29° 56'52.10"N		
63	NW-153	Gangrakung		Qungmo Kangri Massive	6260	90° 2'45.57"E	29° 56'37.72"N		
64	NW-154	Kyama Ri		Qungmo Kangri Massive	6318	90° 2'23.22"E	29° 56'7.89"N		
65	NW-155	Zhabulha		Minor peak of Qungmo Kangri	6564	89° 59'57.55"E	29° 53'55.97"N	Climbed	Austria
66	NW-156	Lazha Ri		Qungmo Kangri Massive	6138	89° 56'5.19"E	29° 52'0.74"N		
67	NW-157	Tanmengian	譚門干	Qungmo Kangri Massive	6373	89° 54'39.45"E	29° 52'25.35"N		
68	NW-158	Kumalugpa Kangri			6192	90° 12'58.53"E	29° 51'21.23"N		
69	NW-159	Luzi		West of Kyizi	6206	90° 25'7.49"E	30° 8'24.12"N		
70	NW-176	Bartsee Ri (Beu Tse)		South 羊八井鎮	6235	90° 32'17.88"E	29° 57'8.60"N	Climbed	UK
71	NW-184	Ta Ri		Bada Group	6330	90° 22'14.26"E	30° 16'24.60"N	Climbed	ACKU



Summary of the Joint Expedition 2015

Tim (Tatsuo) Inoue

☆Kobe University and Chinese University of Geosciences, Wuhan October 2015

◆Attempt; Bada Ri (Pata Kangri 6516m)

◆First Ascent; Ta Ri (6330m)

Bada Ri is the last unclimbed mountain over 6,500m in the western Nyainqentanglha (Nyanchen Tanglha). It lies in the middle of the range, northwest of Yangbajain and is hidden by other peaks. Our expedition to attempt this peak, celebrating the 100th anniversary of the Kobe University Alpine Club (established in 1915), was jointly organized between Kobe University and the Chinese University of Geosciences, Wuhan. It is believed that no climbers had entered the Bada Qu valley prior to us. Que-er Shan 6168m (Sichuan) in 1988 and Lopchin Feng6805m (Kangri Garpo) in 2009 were successfully done as the first ascents.

The name Bada Ri comes from Tibetan Pa and Ta, which mean boar and tiger or snow leopard. Pa Ta translates into Chinese Pinyin as Bada. While Ri means mountain, the Tibetans call a snow and ice peak Kangri, so in our opinion this mountain is better named Pata Kangri. Back in base camp local people named our shoulder peak Ta Ri (later ratified by Chinese authorities). Ours was the only expedition to Tibet during the autumn, the CTMA having canceled all others after the Nepal earthquake. CTMA said, it will be open in the next spring.

On October 23, we established base camp (BC; 5250m) on the brown meadow near the confluence of two glacier valleys in the Bada Qu and 7 Japanese (2 students) led by chief leader Tim Inoue and climbing leader Takeru Yamada, 2 Tibetan climbers and 7 Chinese(5 students) led by co-leader Prof. Dong Fan were assembled. It took 3 days to carry stuff to BC by yak from temporary base camp (TBC; 4800m) at the road end in the Bada Qu upper valley of Natsu Village.

On October 27, after 3 days route finding and ferrying loads to camp-1 (5700m on the South-west Bada Glacier), 6 members tried summit push. At 4:18 AM, they started in the dark and went up on the left flank of the glacier to the south-west ridge of Bada Ri. The steep slope of the route was covered by hard ice. 30m and 100m ropes were fixed on the wall.

At 9:02, They reached a snow covered shoulder peak on the south-west ridge of Bada Ri. The GPS indicated 6330m.

From the shoulder peak, sharp snow covered ridge goes down 10 to 20 meters to a col and again rises to the summit. 3 of attack members tried to climb the ridge, but they could not make the summit because of piled loose rocks on the summit ridge caused by resent dry climate of the mountains. Packed thin snow evaporated by the sun shine was breakable and made unstable stacked rocks. The icy steep slopes of the both side of the ridge were avalanche washed. They understood that climbing to the summit means suicide.

The weather was perfect during our expedition, blue sky every day, a few times small snow fall, but no pile up snow.

On October 29, we returned Lhasa and the Chinese Tibet Mountaineering Association invited us to a cerebation dinner party. The first ascent of Ta Ri was officially certified by CTMA.

第一章 北東部および中央部の山々

Samdain Kangsang Group, Zhan Rizi Group and Nyainqentanglha Main Group

井上達男 Tim (Tatsuo) Inoue

ダムション (当雄 Dang Xiong)の街から北に観光道路がナゲン峠(那根拉 Nagen La 5190m)を越えてナムツォへと続いている。峠の東西に6000mを超えるピークは見当たらない。道路の東に離れてサムダイン・カンサン山塊が存在する。また、念青唐古拉西山群の中央部には山群の主峰とその周辺に多数の6000m峰が林立している。

From Dang Xiong to the north, a paved road is heading to Nam Tso via Nagen La (5190m). There is no 6000m-peaks around the pass. Samdain Kangsang Group stands on the Far East area from the pass.

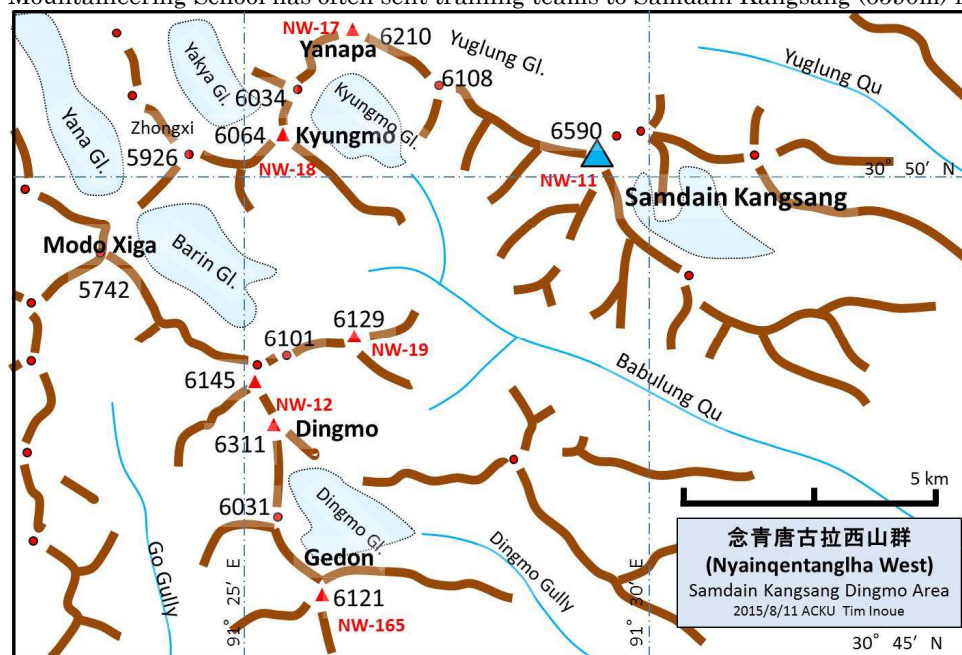
On the other hand, there are many 6000m-peaks including Nyainqentanglha Main Group in the middle area of the Nyainqentanglha West Mountains.

(1) サムダイン・カンサン山塊 Samdain Kangsang Group

ナムツォ(View Point-3)から東方にサムダイン・カンサン峰(桑丹康桑峰 Samdain Kangsang 6590m)山塊の主たるピークを遠望できる。この山塊は街道から良く見えるので良く知られている山々でもある。ヤナパ峰(Yanapa 6210m)、ディンモ峰(Dingmo 6311m)及びゲドン峰(Gedon 6121m)などが顕著なピークである。サムダイン・カンサン峰は近年、チベット登山学校の訓練登山の対象として何度も登られるようになってきている。

2014年11月、居谷千春偵察隊隊長、牛中国側隊長たちは当雄近辺の南に広がる丘陵地帯(View Point-2)より念青唐古拉西山群の観察を行った。その折にサムダイン・カンサン山塊の南西面も明らかにしている。

Remote view from the View Point-3 (Nam Tso) provides us good shape of Samdain Kangsang Group. Tibet Mountaineering School has often sent training teams to Samdain Kangsang (6590m) recently.



Map-2 サムダイン・カンサン山塊
Samdain Kangsang Group

ACKU and CUGW Joint research party visited the View Point-2 in November 2014 in order to watch the north-eastern part of Nyainqentanglha West Mountains. They took a picture of the south-west face of Samdain Kangsang Group.

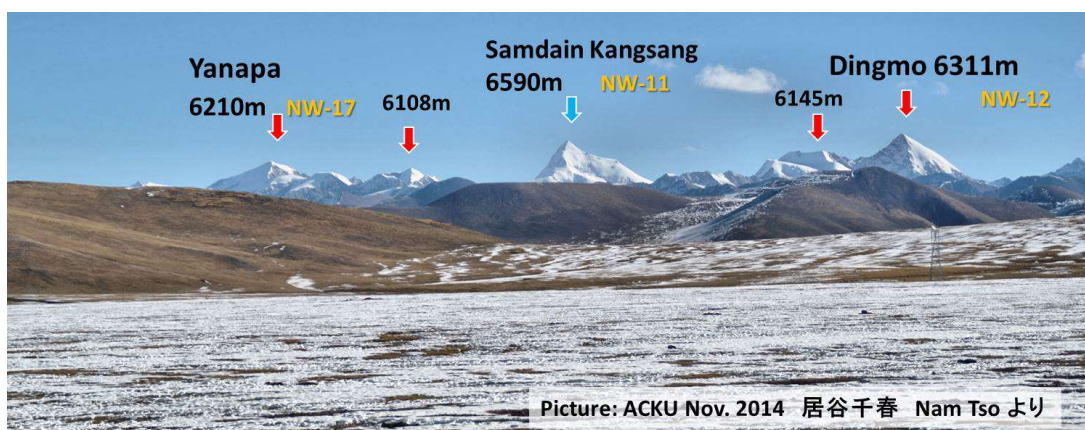


Fig-1)-1 サムダイン・カンサン山塊 (ナムツォから)
Samdain Kangsang Group from Nam Tso

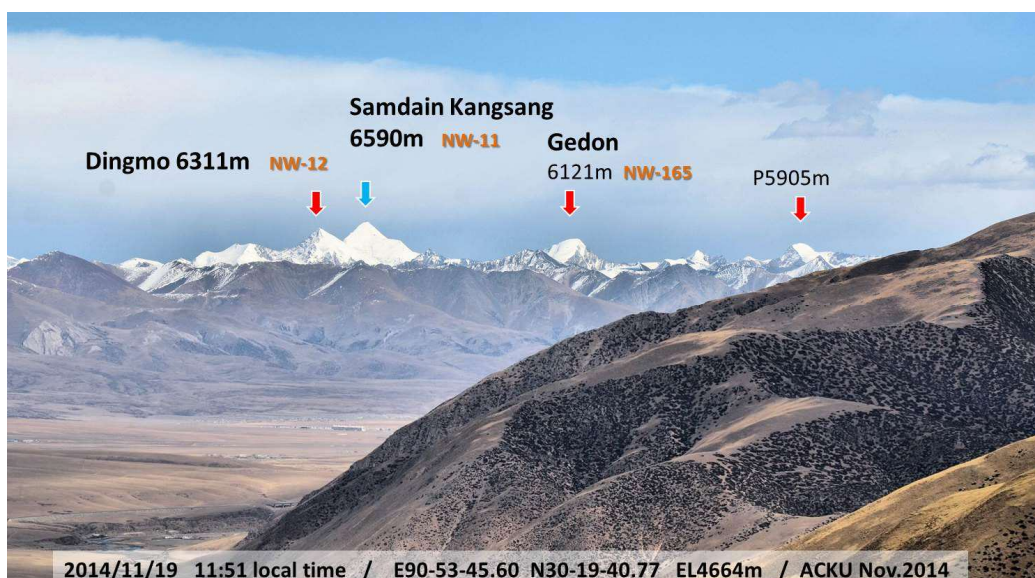


Fig-1)-2 サムダイン・カンサン山塊 (View Point-2 より)
Samdain Kangsang Group (from View Point-2)

(2) 念青唐古拉西山群中央部(主峰群およびその周辺)

Nyainqentanglha Main-peak Group and its satellite peaks

念青唐古拉西山群の 7000m 峰二座(Nyainqentanglha Main 7216m、Qungmo Kangri 7048m)は衛星峰も含めて既に登頂されている。本稿では未知の 6000m 峰に焦点を合わせているが、中央部の主峰と周辺については今日までその詳細が明らかにされている。

ここではおさらいの意味で主たるピークを紹介する。

念青唐古拉山は主峰(I 7216m、中央峰(III 7117m)、南東峰(IV 7046m)が登頂されている。中間峰(II 7111m)が未踏のまま残されているが、顕著なピークではない。衛星峰ではタングラ峰(Tanglha 6330m)が登頂されている。NW-42 (6394m)、NW-44 (6317m)があるが、登頂の記録は把握していない。

主峰群の南東にはパヌ谷(Panu Qu)を隔てて、シャモカルポ・リ(Sha Mo Karpo Ri 6261m)、ゴンパガルポ・リ(Gompa Garpo Ri 6271m)、パジャンツァリ峰(Pajan Zhari 坡尖扎日 6300m)などが登頂されている。シャモカルポ・リとゴンパガルポ・リは谷の奥深くに存在し、今回の調査ではその姿を見ることが出来なかった。

ビラン谷(Bilang Qu)とランプ谷(Langbu Qu)に挟まれた山塊にある鋭鋒ゴールデン・ドラゴン(Golden Dragon, Jin Long Feng 金龍峰 6614m)とチョルテン・ガルポ(Chorten Garpo または White Pagoda 6415m)がすでに登頂されている。

Two of 7000m-peaks, Nyainqentanglha Shan (7216m) and Qungmo Kangri, were already climbed including those

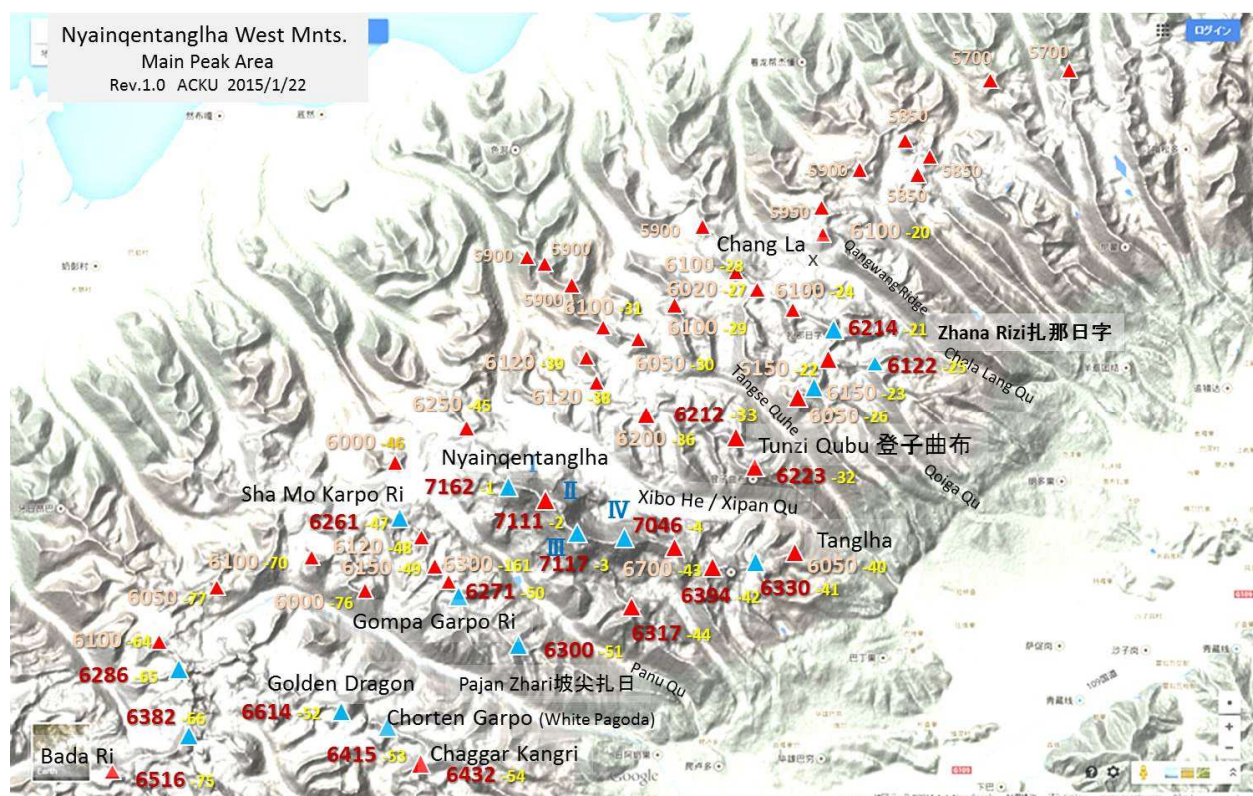
satellite 6000m-peaks. The detail profiles of those peaks are well-known. The purpose of this article is to study unknown 6000m-peaks. We will introduce those 7000m-peaks briefly as a reminder. Nyainqentanglha Shan has four peaks, Main (I 7216m climbed), Middle (II 7111m, unclimbed), Central (III 7117m climbed) and South-east (IV 7046m). The middle peak is not climbed but has low profile.

There are three satellite peaks, Tanglha (6330m, climbed), NW-42 (6394m) and NW-44 (6317m). We have no climbing record of NW-42 and NW-44 so far.

Sha Mo Karpo Ri (6261m, climbed), Gompa Garpo Ri (6271m, climbed) and Pajan Zhari 6300m, climbed) makes a line of ridge separated by Panu Qu from the Main-peak Group.

We could not see Sha Mo Karpo Ri and Gompa Garpo Ri during our survey because those peaks are hidden in the deep end of the valley.

On the divide of Bilang Qu and Langbu Qu, there are sharp and rocky Golden Dragon (Jin Long Feng 6614m) and Chorten Garpo (6415m). These two peaks are already climbed.



Map-3 Nyainqentanglha Main Area

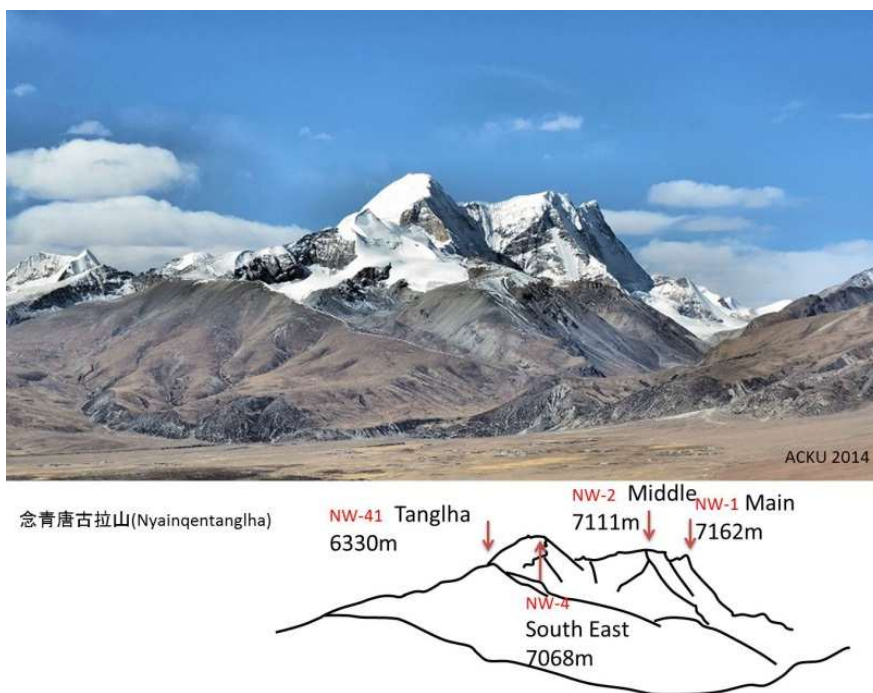


Fig-1)-6 念青唐古拉山(Nyainqentanglha)



Fig-1)-7 金龍峰山塊 (チャガール・リ、チョルテン・ガルポ、ゴールデン・ドラゴン)
From left: Chaggar Ri, Chorten Garpo, Golden Dragon



Fig-1)-8 Chaggar Ri 6432 m
another name: Chaggar Kangri



Fig-1)-9 Golden Dragon 6614m
Climbed



Fig-1)-10 Pajan Zhari 6221m
Climbed

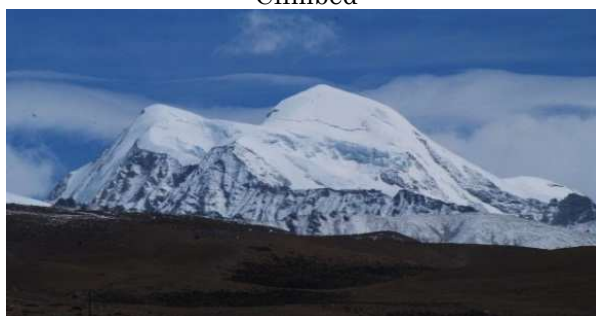


Fig-1)-11 Tanglha 6330m
Climbed



Fig-1)-12 NW-42 6394m



Fig-1)-13 NW-44 6317m

チャガール・リ(Chaggar Ri または Chaggar Kangri 6432m)は二つのドーム型の美しく堂々たるピークで街道筋からも良く見える。他の尖峰と比較して登りやすいように見えるのですすでに登頂されているのではないかと記録を探しているが、見つかっていない。

Chaggar Ri (Chaggar Kangri 6432m) has two beautiful white domes on top and visible from the road G109. It looks easier to climb than other pyramidal Golden Dragon and Chorten Garpo. Someone might climb already, but we have not found any record so far.

(3) ジャナリツ、ツンチ・チュプ山塊

Zhana Rizi、Tunzi Qubu Group

View Point-2 およびその周辺からの写真ではニエンチンタングラ主峰グループは勿論サムダイン・カンサン(Samdain

Kangsang (6590m)山塊、ジャナリツ(Zhana Rizi 6214m 扎那日字)山塊、ツンチ・チュブ(6223m 登子曲布)などの姿を捉えている。

In the pictures taken from the View Point-2, we can recognize Nyainqentanglha main peaks, Samdain Kangsang (6590m) Group, Zhana Rizi (6214m) Group and Tunzi Qubu (6223m) Group.



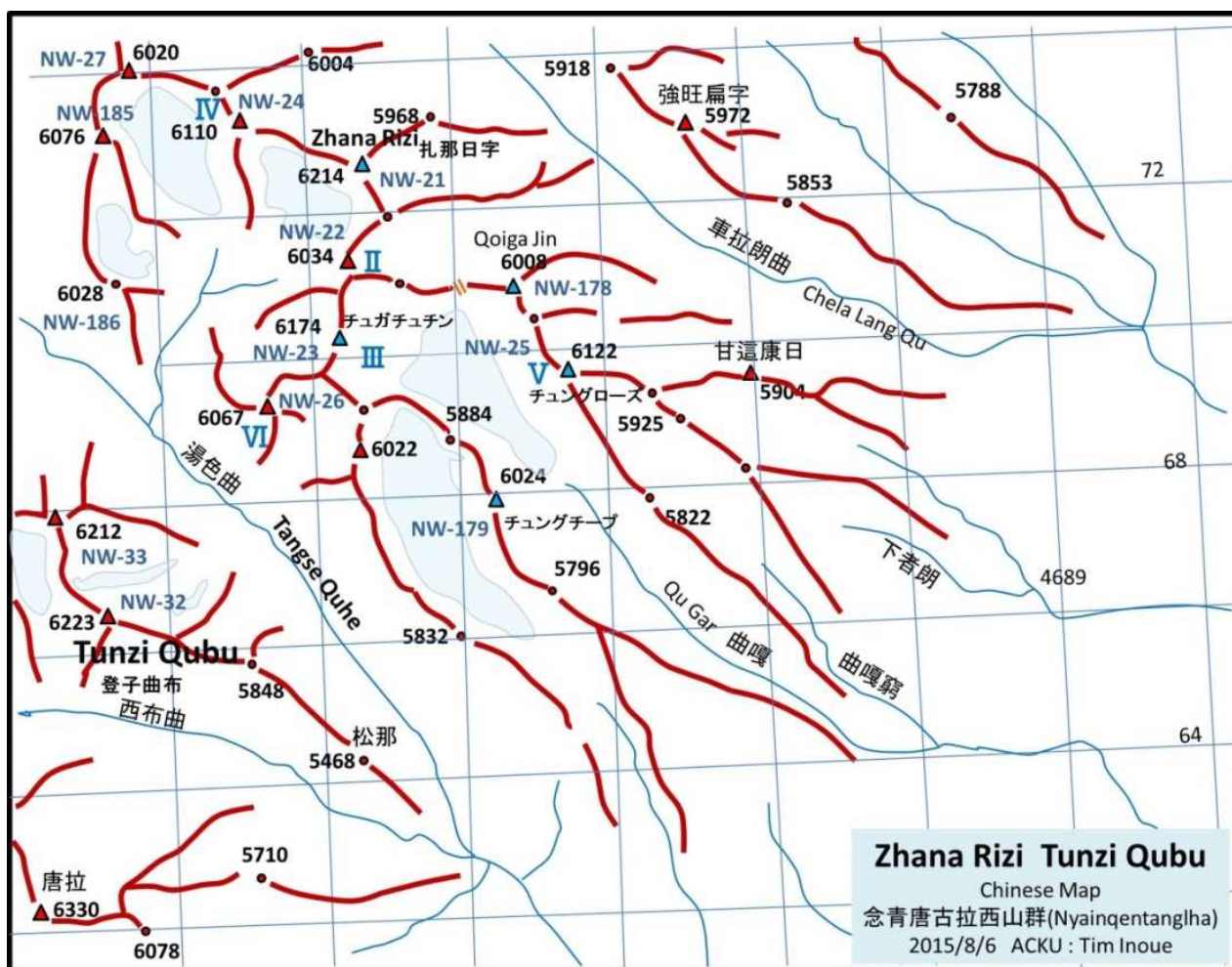
Fig-1)-3 ジャナリツ峰 6214m(右、既登峰)
Zhana Rizi 扎那日字 (Climbed)



Fig-1)-4 ツンチ・チュブ峰(6223m)
Tunzi Qubu 登子曲布



Fig-1)-5 Tunzi Qubu(6221m)



Map-4 ジャナリツ、ツンチ・チュプ山塊
ZhanaRizi & Tunzi Qubu Group

ジャナリツ山塊は主峰ジャナリツ(NW-21 6214m)、三峰チュガチュチン(NW-23 6174m)、五峰(チュングローズNW-25 6122m)およびマイナーピークのチュガチン山(NW-178 6008m)とチュングチーブ(NW-179 6024m)が日本未踏峰倶楽部により登頂されている。これらの登山隊はチベット登山協会を通じた正式許可を得た登山隊ではない。2014年11月の神戸大学偵察隊は、チベット登山協会が未踏峰であると推薦したのでそれを受け入れて主峰を5700m地点まで偵察した。その後上記のとおり、多くの登山隊情報を得た。他国の未踏峰に登るにはその国の規則を尊重すべきである。チベットには政府直轄のチベット登山協会が登山についての規制と許可の権限を有している。6000m級の未踏峰には未踏峰登山料を支払う義務もある。

Zhana Rizi (NW-21 6214m), NW-23 (6174m), NW-25 (6122m) and minor peak NW-178 (6008m) were climbed by Japanese party (Japan Unclimbed Peak Club). This club had not gotten permission from Chinese Tibet Mountaineering Association (CTMA).

November 2014, ACKU sent a reconnaissance party to Zhana Rizi and reached 5700m according to CTMA recommendation that the peak was unclimbed. After our reconnaissance, we found many climbing records noted above. Compliance spirit is very important when we send expeditions to foreign country if they have official regulation. CTMA is the only official agency to control foreign expedition to Tibet. We must get permission and pay royalty for both climbed and unclimbed 6000m-peak under the regulation of CTMA.

第二章 バダリ峰周辺の山々(2015年バダリ峰登山隊による)

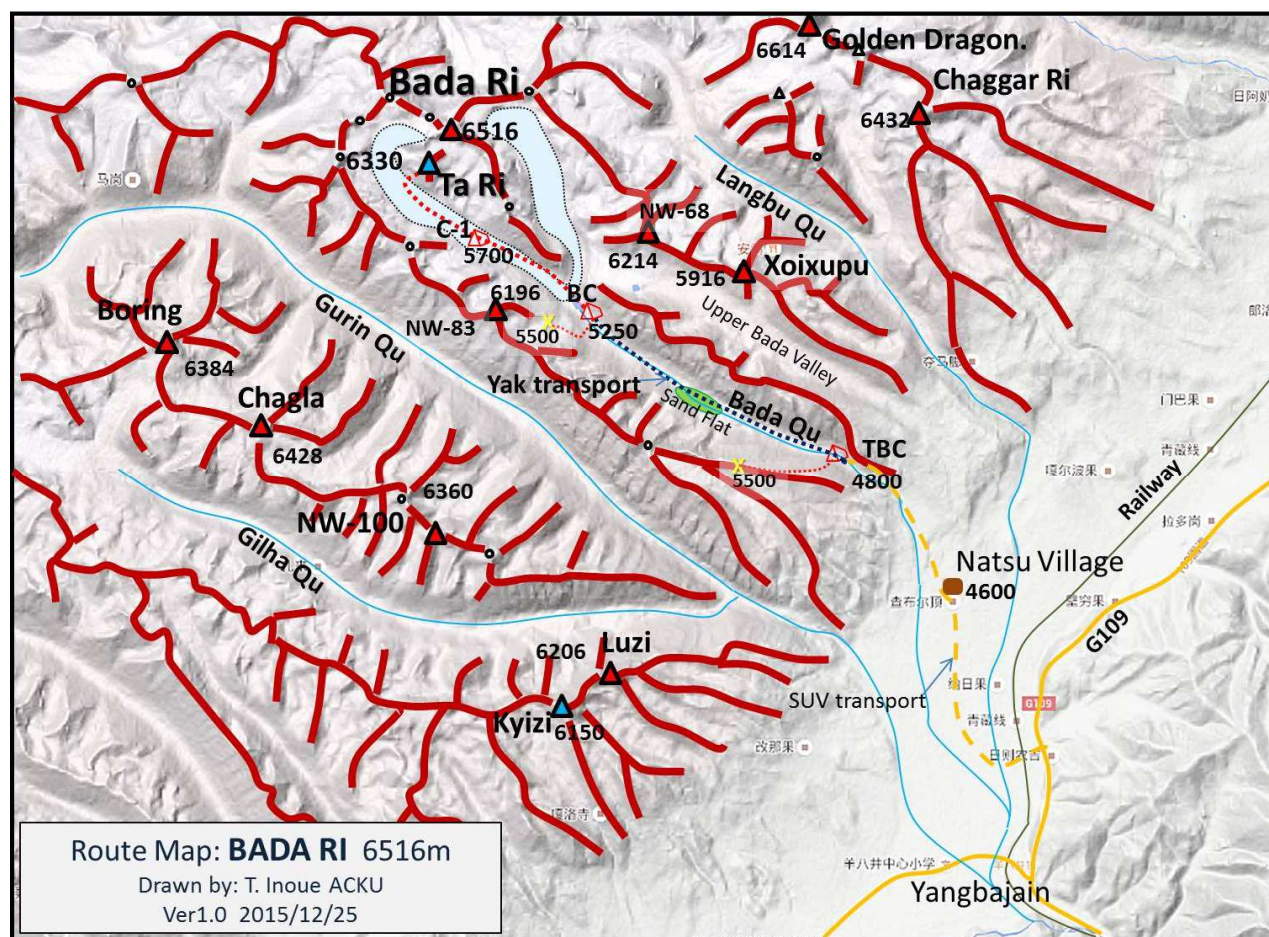
Bada Ri Group, Chagla Group and Kyizi-Luzi Group

井上達男 Tim (Tatsuo) Inoue

2015年10月27日、登山隊が初登頂したタリ峰(Ta Ri 6330m)頂上より360度のパノラマ写真撮影に成功している。バダリ峰グループの5つのピークをはじめ、今までその姿が未知であったボーリン峰(Boring 6384m)、チャグラ峰(Chagla 6428m)、無名のNW-100 (ASTER GDEM 高度 6360m)などの鮮明な写真をものにした。

このエリアを(1)バダリ山塊(Bada Ri Group)、(2)チャグラ山塊(Chagla Group)、(3)キチ・ルチ山塊(Kyizi Luzi Group)に分類して主要なピークについて同定を進める。

ACKU had succeeded to get a 360 degree panorama picture of surrounding mountains on the top of Ta Ri 6330m in October 2015. Five peaks of Bada Ri Group and Chagla Group (Boring(6384m), Chagla(6428m) and NW-100 (6360m)) are captured in the scene. We classified 3 groups in this section; (1) Bada Ri Group, (2) Chagla Group and (3) Kyizi-Luzi Group.



Map-5 バダリ、タリ登山ルート図
Route to Bada Ri and Ta Ri

(1)バダリ山塊の山々 Bada Ri Group

Bada Qu を取り巻く山々は South-west Bada Glacier の奥ノ院の Bada Ri I ~ V 峰、East Bada Glacier 源頭にある Bruce Normand 氏等により登頂された NW-66 (6382m) と NW-164 (6197m)、Bada Ri 主峰の南西稜にあるジャンダルム NW-88 (6218m)、Upper Bada Valley の盟主 NW-68 (6214m)、Bada Qu を分かつ稜線上にある NW-83 (6196m)

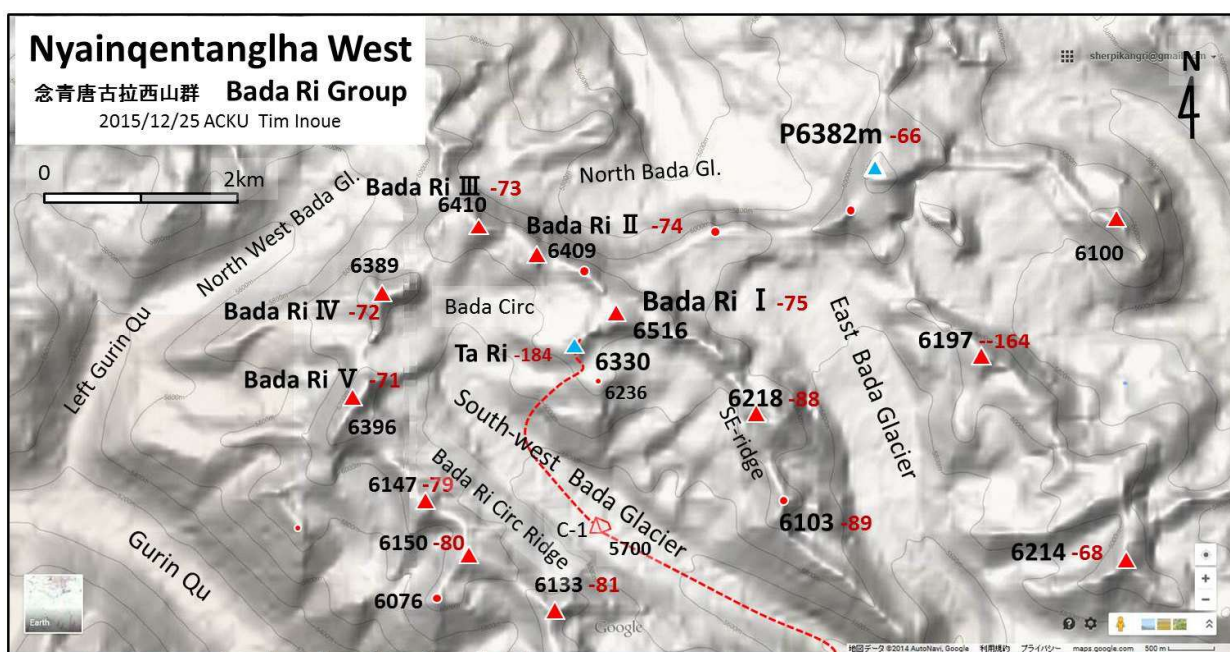
そして Bada Ri 西南西稜のマイナーピークである Ta Ri (6330m 2015 年 ACKU 初登頂) などが顕著なピークとして存在する。Ta Ri および NW-66 以外はすべてが未踏峰である。

In the deep end of Bad Qu, South-west Bada Glacier and East Bada Glacier are raising up to the divide ridge. Bada Ri (I 6516m) and other four peaks stand on the divide Circ of South-west Bada Glacier. NW-66 (6382m, climbed by Bruce Normand team), NW-164 (6197m), NW-88 (6218m, Gendarme of Bada Ri I) and NW-89 (6103m) were identified on the ride of East Bada Glacier. NW-68 (6196m) is the highest peak in the Upper Bada Qu. NW-83 (6196m) near the base camp of ACKU 2015 expedition is remarkable on Bada Ridge.

Ta Ri (6330m) is the only climbed peak in Bada Qu which ACKU expedition climbed in October 2015.

タリ峰山頂から撮影したパノラマ写真によりバダリ山塊の五峰すべての姿を確認できる。I 峰、IV 峰、V 峰は岩と氷の鋭鋒だが、II 峰、III 峰はドーム型の雪峰となっている。(Fig-2)-1)

Five 1peaks of Bada Ri Group are pointed in the picture Fig-2)-1. Bada Ri- I, IV and V are rock and ice peaks, but II and III are white domes.



Map-6 バダリ山塊詳細図
Bada Ri group detail

バダリ峰 I 峰の標高は中国の地図によるが、II ~ V 峰の標高は ASTER GDEM のデータによる。I 峰から III 峰の頂上稜は念青唐古拉西山群の主稜線となっている。

The 6516m elevation of the main peak was found in the Chinese map. The elevation of II, III, IV and V are extracted from ASTER GDEM. The ridge chained on the peaks from I to III of Bada Ri Group forms the main Ridge of Nyainqentanglha West Mountains.

Bada Ri V
6396 NW-71

Bada Ri IV
6389 NW-72

Bada Ri III
6410 NW-73

Bada Ri II
6409 NW-74

Bada Ri I
6516 NW-75



Bada Ri Group 5 peaks from the top of Ta Ri 6330m

Fig-2)-1 バダリ山塊の5峰

タリ峰頂上から東南東にはBada Qu と Upper Bada Valley を俯瞰できる。(Fig-2)-2) NW-68 と 88 のピークが重なって見える。NW-88 はBada Ri の前衛峰でBada Qu を遡ると Bada Ri 主峰の方角に岩山越しに見えてくるので一瞬主峰かと思わせた。

Looking down from the top of Ta Ri to the south-east, frozen lakes in the Upper Bada Valley can be seen. NW-68 and NW-88 are overlapping together in the scene (Fig-2)-2).



Fig-2)-2 NW-68 NW-88

バダリの主峰は鉄道の通っている谷から見ることはできない。バダ谷に入ってしまうと U-字谷の側壁や前衛峰やその稜線上のピークに隠れてますます見えなくなってしまう。2015 年の登山隊はバダ谷(Bada Qu)の入り口付近から西側の稜線を 5500m 地点まで登ってようやくバダ氷河(South-west Bada Glacier)とバダリ主峰(Bada Ri 6516m)、タリ峰(Ta Ri 6330m)、IV峰(Bada Ri IV6389m)およびV峰(Bada Ri V 6396m)の姿を見ることができた。また、ベースキャンプ(5250m)の西側にある氷河支流端のモレーン丘をここでも 5500m まで登ってようやくバダリ主峰からタリ峰への主稜線を見ることができた。Fig-2)-6~Fig-2)-10 のピーク写真は Fig-2)-2 に示した☆印、Bada Ri 主峰撮影ポイント(5500m)にて撮影したものである。

We cannot see the main peak of Bada .Ri from the railway and the National Road G109. When we came into the Bada Qu, it became less and less visible. We could pick up a picture Fig-2)-3 at 5500m on the right bank ridge of Bada Qu near TBC.

One more important view of the main peak (Fig-2)-6) was taken at the 5500m point (☆mark in the picture Fig-2)-2)) on the moraine of a small glacier fork flowing down from NW-83 near the right bank of our base camp (5250m).



Fig-2)-3 West Bada Glacier
Bada Ri V (Left), Bada Ri IV and Main P.



Fig-2)-4 Bada Ri V (left), Tari, NW-88
from Bada Qu 5200m



Fig-2)-5 NW-83 6196m
from Bada Qu 5000m



Fig-2)-6 Bada Ri 6516m & Ta Ri 6330m(Left)

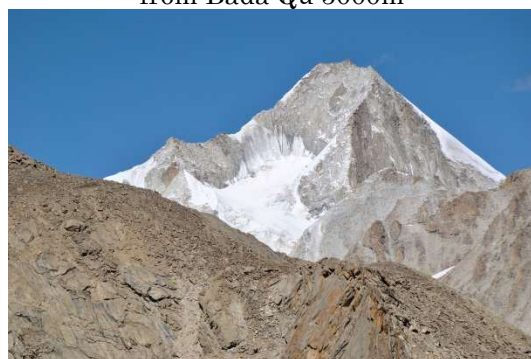


Fig-2)-7 NW-66 6382m
Climed



Fig-2)-8 NW-164 6197m



Fig-2)-9 NW-88 6218m
Gendarme of Bada Ri I



Fig-2)-10 NW-68 6214m
The highest peak of Upper Bada Valley

NW-66 (Fig-2)-7)は Bruce Normand 氏等が右スカイライン背後の氷壁から登頂している。アプローチは、バダ谷(Bada Qu)より一つ東側の谷、ランプ谷(Langbu Qu)からであった。

NW-68 (6382m) was climbed by Mr. Bruce Normand team. They took the line on the icy slope behind right side sky line in the picture Fig-2)-7. Their approach route was in the Langbu Qu.

(2) チャグラ山塊 (ギラ谷、グリーン谷分水嶺の山々)

Chagla Group (Peaks on the divide of Gilha Qu and Gurin Qu)

2015年10月27日、日中合同隊はタリ峰(Ta Ri 6330m)に初登頂し、山頂から360°のパノラマ写真をものにしたが、北東方向にはゴールデン・ドラゴン山塊が展開している。特に南方から西方への視界には今まで未知であった山々が明確となっている。

The panorama picture taken from the top of Ta Ri on 27th October 2015 has unveiled hidden south-western peaks of Nyainqentanglha West Mountains. Chagla and Boring Group stands on the divide between Gurin Qu and Gilha Qu.



Map-7 Chagla Boring Group

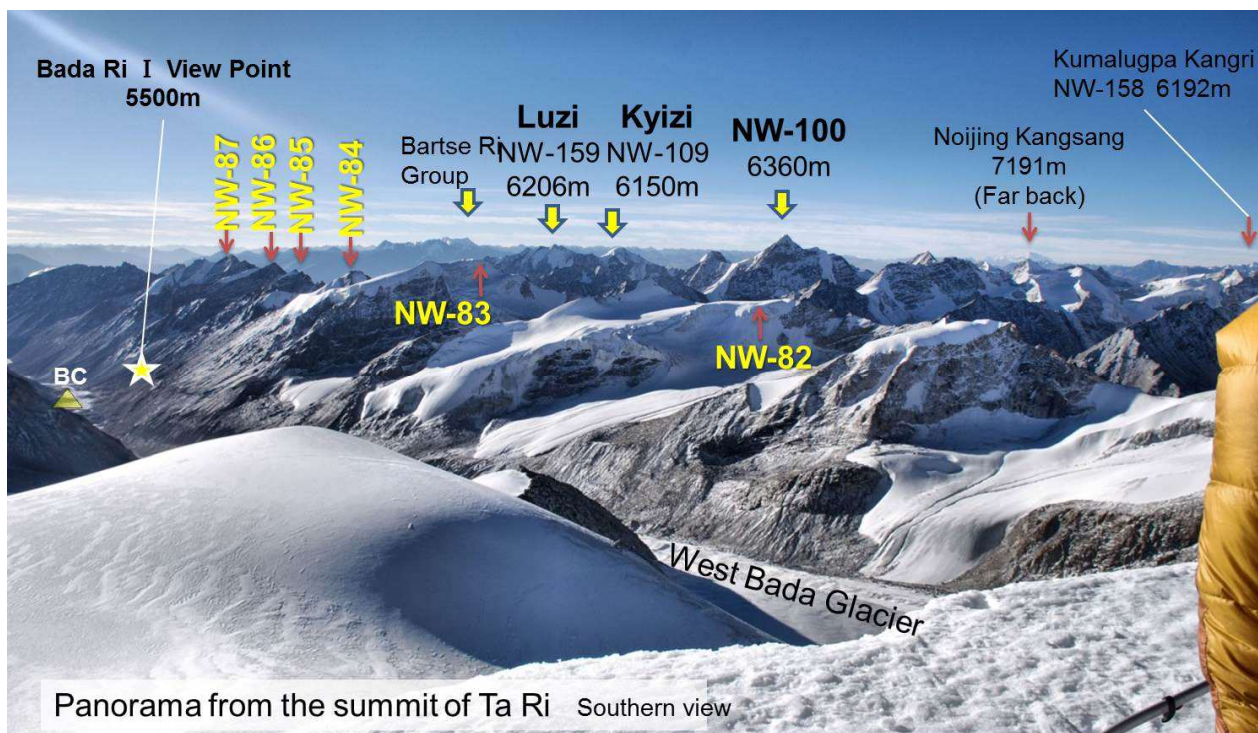


Fig-2)-11 タリ峰頂上から南方の山々～1/2

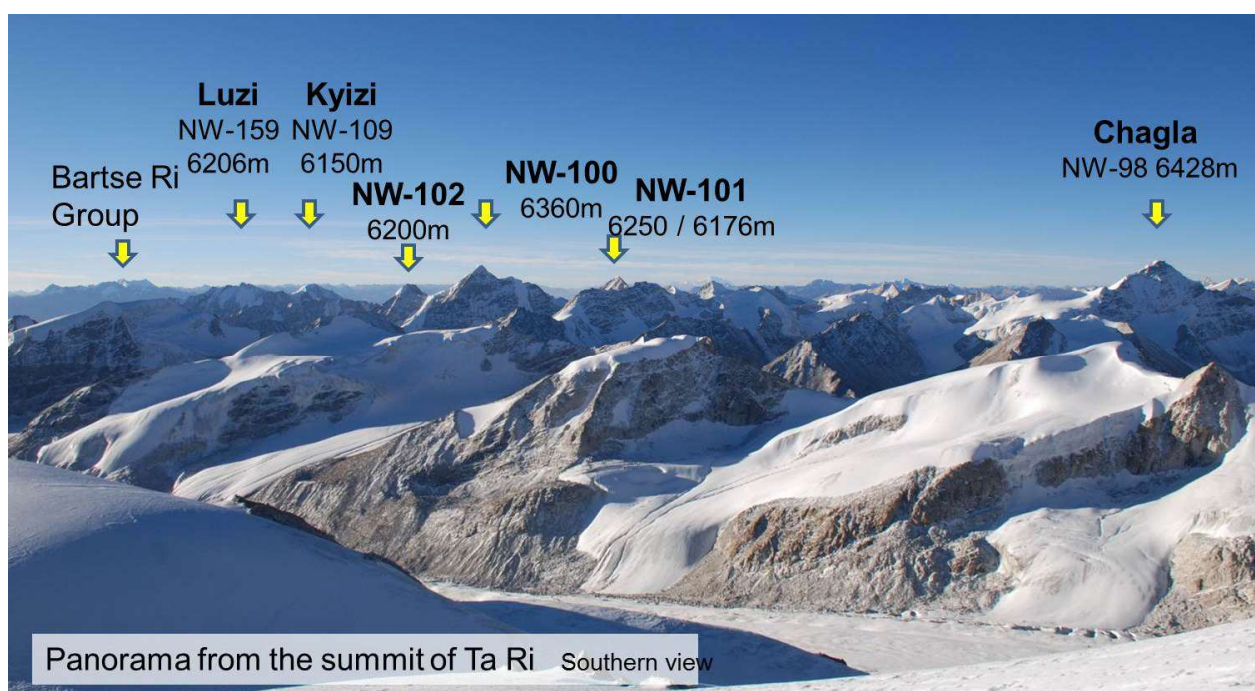


Fig-2)-12 タリ峰頂上から南方の山々～2/2

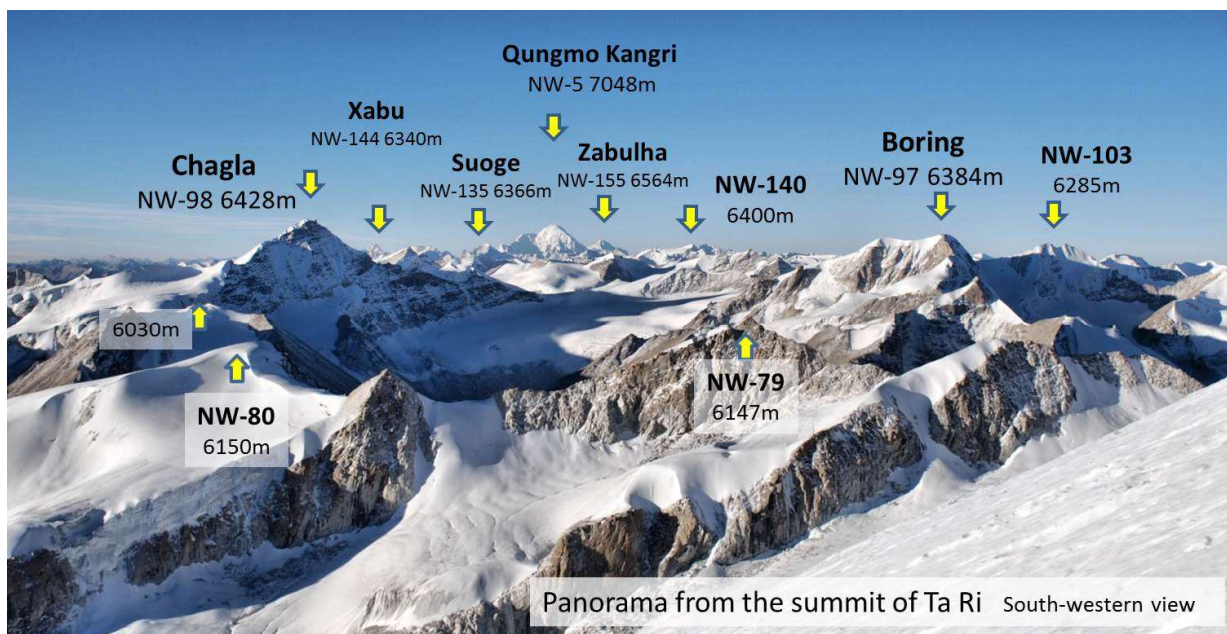


Fig-2)-13 タリ峰頂上から南西方向の山々

また、登山隊に参加したチベット人学生のデチン(徳庆欧珠)が10月初旬に開催された登山フェスティバルで登った、タリ峰から丁度反対の方向であるキチ峰(Kyizi6150m)の西稜線(Map-8 View Point-6)から撮った写真にはNT-100、チャグラ峰などを識別できる。

Our team mate Deqing Ouzhu participated a mountaineering festival held by CTMA in early October 2015, took nice pictures of Chagla and Boring Group from the View Point-6 on the ridge between NW-108 and Kyizi (refer to Map-8).

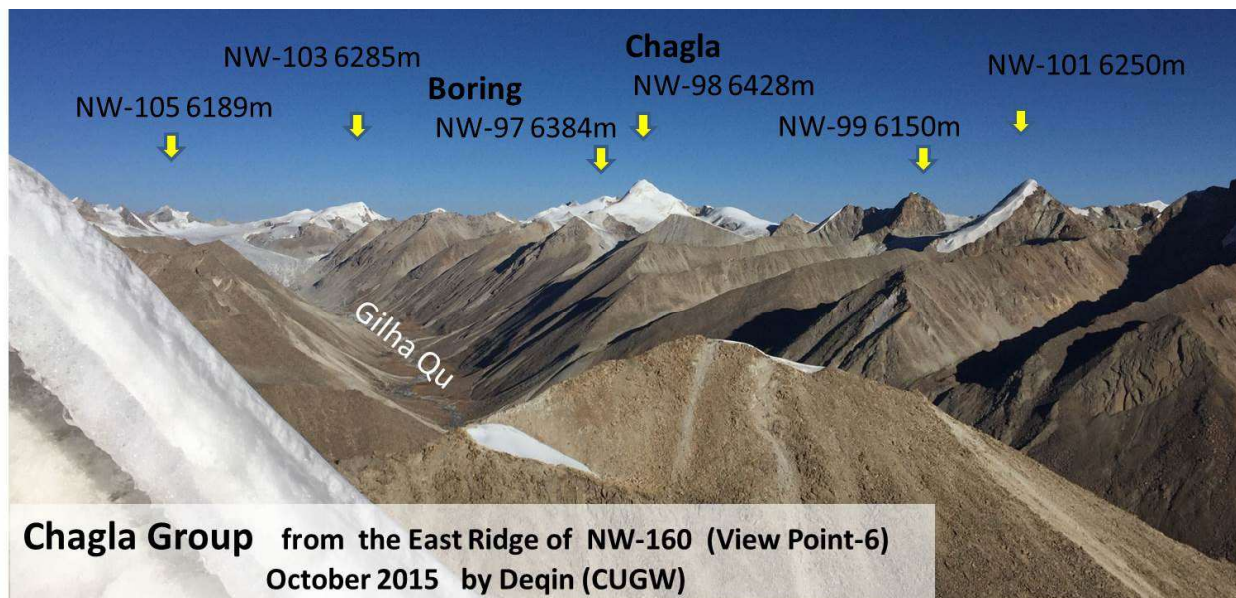


Fig-2)-14 View Point-6 からチャグラ山塊方面
Boring Chagla Group from View Point-6

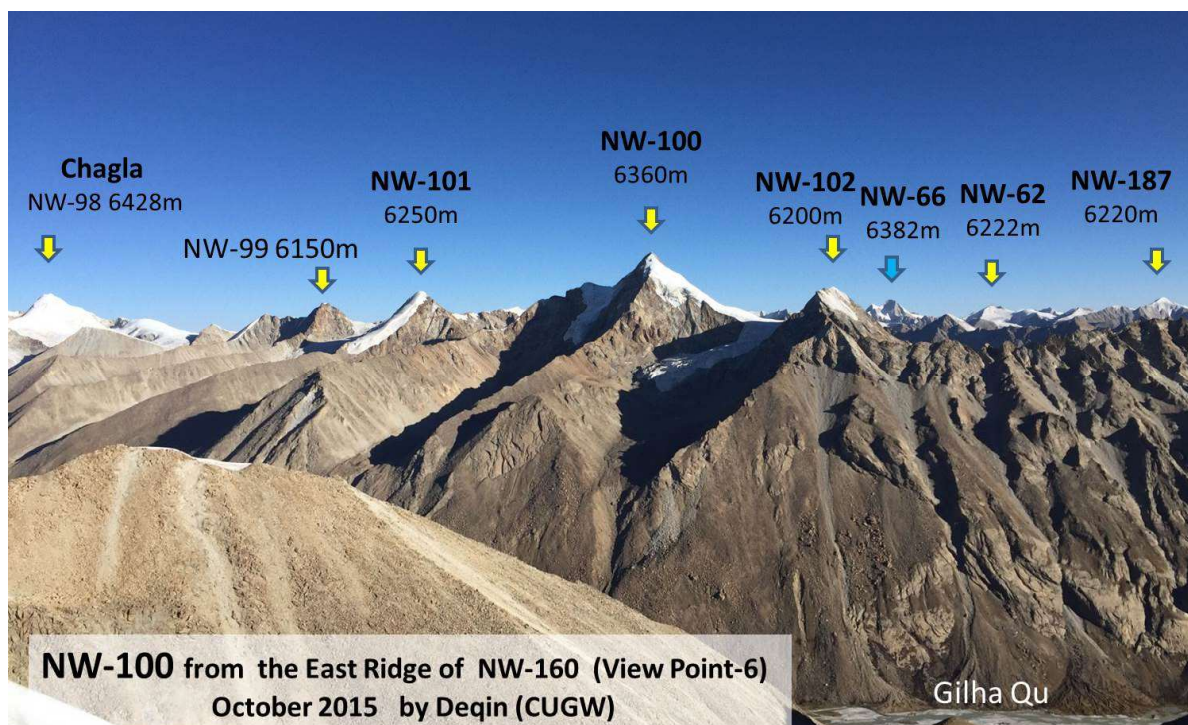


Fig-2)-15 View Point-6 から NW-100
NW-100 and peaks on the Chagla ridge , from View Point-6

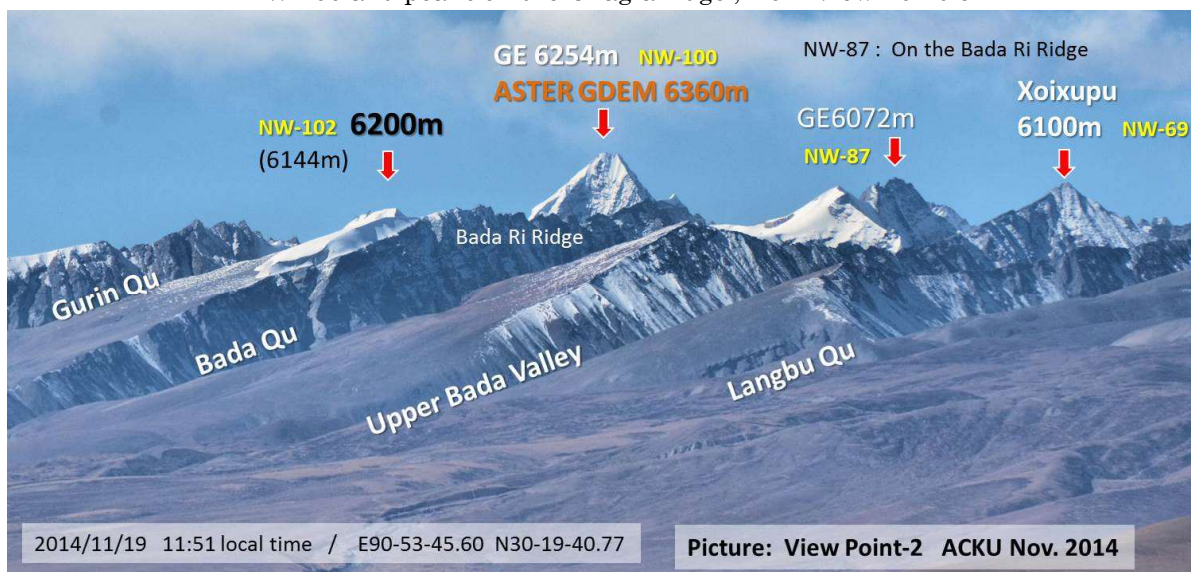


Fig-2)-16 謎のピーク NW-100 (6360m/6254m) : View Point-2 より
NW-100 from View Point-2

Fig-2)-16 に示すようにバダ谷の稜線越にピラミダルなピーク NW-100 が見えている。このピークは念青唐古拉山IV峰登山ルートから撮影された写真(Christian Haas ;From Nyainqentanglha IV)の鋭鋒ゴールデン・ドラゴンの左後方に確認することができる。さらにランプ谷(Langbu Qu)の東稜線から撮影された写真 (Bruce Normand)には両側に NW-101 と NW-102 を従えた一際高い姿が映っている。Google earth の標高は両隣のピークとさほど変わらない 6254m となっている。既存の地図にはこのピークの表示がなく、また Google earth では実際より低く表示されているのでミッシング・ピークとなっていたと思われる。ASTER GDEM で調べると 6360m の標高を得た。実際には 6400m 内外の標高を持っていると推測できる。

The picture Fig-2)-16 shows a typically pyramidal peak NW-100. We can recognize this peak far right back of Golden Dragon in the picture taken by Christian Haas from a high elevation point on the west ridge of

Nyainqentanglha IV. Farther more, we can find NW-100 with NW-101 and 102 in the picture taken by Bruce Normand from a point on the north-east ridge of Langbu Qu. Those two pictures suggest us NW-100 is higher than 6254m that is found in Google earth. We referred to ASTER GDEM data that has 6360m. We think NW-100 is close to 6400m.



Fig-2)-17 NW-100 from Natsu Village
(snow covered pyramidal peak)



Fig-2)-18 NW-100 from View Point-6

(3) キチ(キーツ)、ルチ(ルーツ)山塊 Kyizi- Luzi .Group

この山塊については少し混乱がみられる。まずは山名と位置について。ポーランドの Janusz Majer 氏と Jerzy Wala 氏共著の念青唐古拉西山群研究レポート 2010 年「Nyainqentanglha-West Mountains」によると Map-8 に示す NW-107(6145m)をルチ峰(Luzi)としている。次に 2011 年にルーズ峰(ルチ峰 6202m)に登頂したとインターネットなどに発表している日本未踏峰倶楽部隊によると Map-8 の Luzi 峰(NW-159)の 3 つのピークの東端のピークを主峰として、初登頂したと主張している。初登頂の真偽については後述するとして、チベット登山学校の関係者は毎年のように訓練やフェスティバルで登頂しているドーム型のピーク NW-109(6150m)をキチ峰(Kyizi 6206m)とし、東の三本槍型の尖峰をルチ峰(Luzi)と認識している。また Majer 氏らのレポートでは NW-159 を Kyizi (6206m)としている。

We have brought up a few questions about this mountain group. The first question is names and locations. Mr. Janusz Majer and Mr. Jerzy Wala issued a study report “Nyainqentanglha-West Mountains 2010”. They put the name of Luzi on the peak NW-107 (6145m) in the Map-8 in their report. Mr. Ohta (Japan Unclimbed Peak Club) described in his internet report that he made the first ascent of Luzi (Luzu 6206m) in September 2011. We analyzed his sentences and pictures of climbing and then we concluded that he had reached the third highest peak (East end peak) out of 3 pinnacles. He believes Luzi location is NW-159 position in the Map-8.

CTMA and members of “Tibet Mountaineering School and Team” has often climbed the dome shape peak NW-109 as Kyizi (6150m). They said NW-159 should be Luzi (6206m). Mr. Ciren Danta who is an officer of Tibet Sports Department and a professional climber said that NW-109 is Kyizi (6150m) and NW-159 is Luzi (6206m). We took the identification by Danta in this report.

Mr. Majer and Mr. Wala put the name of Kyizi (6206m) on NW-109.

本稿では合同登山で親交の深いチベット登山学校から中国地質大学(武漢)に進学しチョモランマに複数回登頂経験もある次仁旦塔(ダクタ)氏へ確認をお願いした結果を採用し、東の三本槍を Luzi(6206m)、西のドームを Kyizi(6150m)とした。ダクタ氏自身も 2014 年 5 月、キチ峰に登頂している。

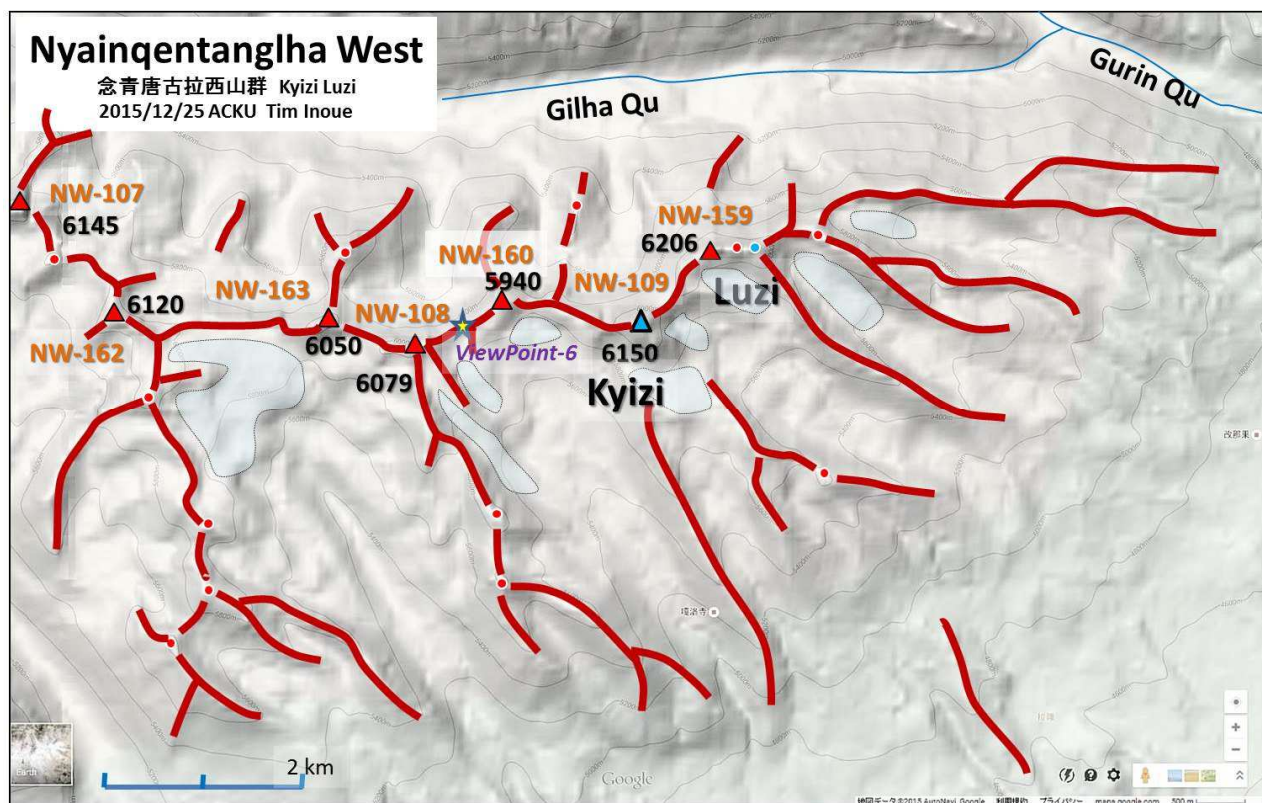
この二つのピークの標高についてはタリ峰から撮った写真、Fig-2)-11、12 によると Luzi の方が明らかに高いので Luzi を 6206m とした。この結論は従来との同定とは異なるので異議がでるやかもしれない。議論の対象となろう。

山名の意味はチベット語で“Zi”は動物を扱う人で発音は「チまたはツ」に近い。“Kyizi”は「キ」または「キー」と延ばすよう聞こえるが、意味は「犬」、”Lu”は「ル」と発音し、意味は「羊」である。したがって Kyizi は「犬使い」、Luzi は「羊飼」を意味する。

念青唐古拉西山群の山には動物の名前がつけられるのが普通だという。例えば Pa は「パ」と聞こえ、ブタか猪を意味する。Ta は「タ」で意味は虎(チベットに虎は居ない、雪豹と解釈すべき。虎と通訳してくれたのは誤訳と思われる)を意味する。

従ってバダ谷は漢字表記で巴達曲、ピンインで Bada Qu となる。「バダ」と読んでしまうが、チベット語からそのまま英語表記する Pata の方が現地語に近い。

The name of Kyizi and Luzi comes from “Ky = dog” and “Lu = sheep” with “Zi = person who controls animal”. Kyizi means “dog trainer” and Luzi means “shepherd”. Tibetan in this district often put animal name on mountain. In case of Bada Ri, basically local people pronounce “Pata Ri”. Chinese put Chinese character and Pinyin “Bada”. “Pa” means “pig or wild boar and “Ta” should mean “snow leopard”. Our interpreter explained “Ta” is “tiger”, but there is no tiger in the mountain. We thought it was a translation mistake. “Ta Ri” means “Snow Leopard Mountain”.



Map-8 キチ(キーツ)、ルチ(ルーズ)山塊と View Point-6
Kyizi, Luzi group and View Point-6

次に二つのピークの登頂に関する疑問である。Kyizi については何度も登られているので既登峰であることは明白だが、初登頂は 1995 年の大阪隊によるものと思われる。確認のためにチベット登山協会にも登山学校にも問い合わせたが不明のままである。1997 年 8 月 16 日、長野県山岳連盟が西藏登山協会と合同でキズ峰(6079m)に登頂している。登頂時に登山ルートとなった東主稜線を見下ろした写真と同等の写真が前述のダント氏が撮影しているのので背後のルーズ峰と合わせてキズ=Kyizi およびルーズ=Luzi であることを確認できた。

Luzi についてはルーズ峰としてインターネットに記録があるが、2011 年 9 月 13 日に日本未踏峰倶楽部隊の太田正秀氏が Fig-2)-19 および 21 に示したルートで三本槍の東端ピークに登頂している。氏はルーズ I 峰 6206m に初登頂したとしているが、確かに南面からの写真 Fig-2)-21 を見る限りは登頂したピークが一番高いように見える。

しかし、写真 Fig-2)-20、22、23 を見ると三本槍の西端ピークが一番高い。実際、Fig-2)-23 を撮影した Bad Ridge の 5500m 地点から観察した結果も高い順に西端ピーク、中央ピーク、東端ピークとなっていた。したがって Luzi 6206m 主峰は未踏のまま残されている。

Question about the first ascent of Kyizi and Luzi

We have no question that Kyizi was climbed many times. But, we could not get any evidence of the first ascent of Kyizi. According to the Table-2, in 1995, Japanese party climbed Kyizi. We asked CTMA and Tibet Mountaineering School, but we did not get any good answer. We have one record that Nagano Prefecture Mountaineering Association had a Joint expedition with CTMA on August 16th, 1997. They had reported they climbed Kizu (Kyizi 6079m). A picture in that report targeted the climbing route from the top down to the East Ridge appears 3-pinnacles of Luzu = Luzi (6206m). We got a very similar picture that Danta took it in May 2010. It is obvious that Nagano team climbed

Kyizi comparing with those two pictures.

Referring to the internet, Mr. Masahide Ohta (Japan Unclimbed Peak Club) described that he made the first ascent of Luzu I (6206m) on September 13th, 2011. According to his climbing explanation, we could follow his climbing line as shown in Fig-2)-19 and Fig-2)-21. From the south foot of this mountain, the East-end peak-III looks the highest peak. We have good pictures, Fig-2)-20, 22 and 23 captured 3-pinnacles clearly. As our conclusion, the West end peak is the highest. Mr. Ohta climbed Luzu III (a6150m).

The main peak of Luzu is still unclimbed.



Fig-2)-19 Kyizi 6150m (left) & Luzu 6206m
The line shows climbing route to the top of Luzu-III
The main Peak of Luzu is still unclimbed.

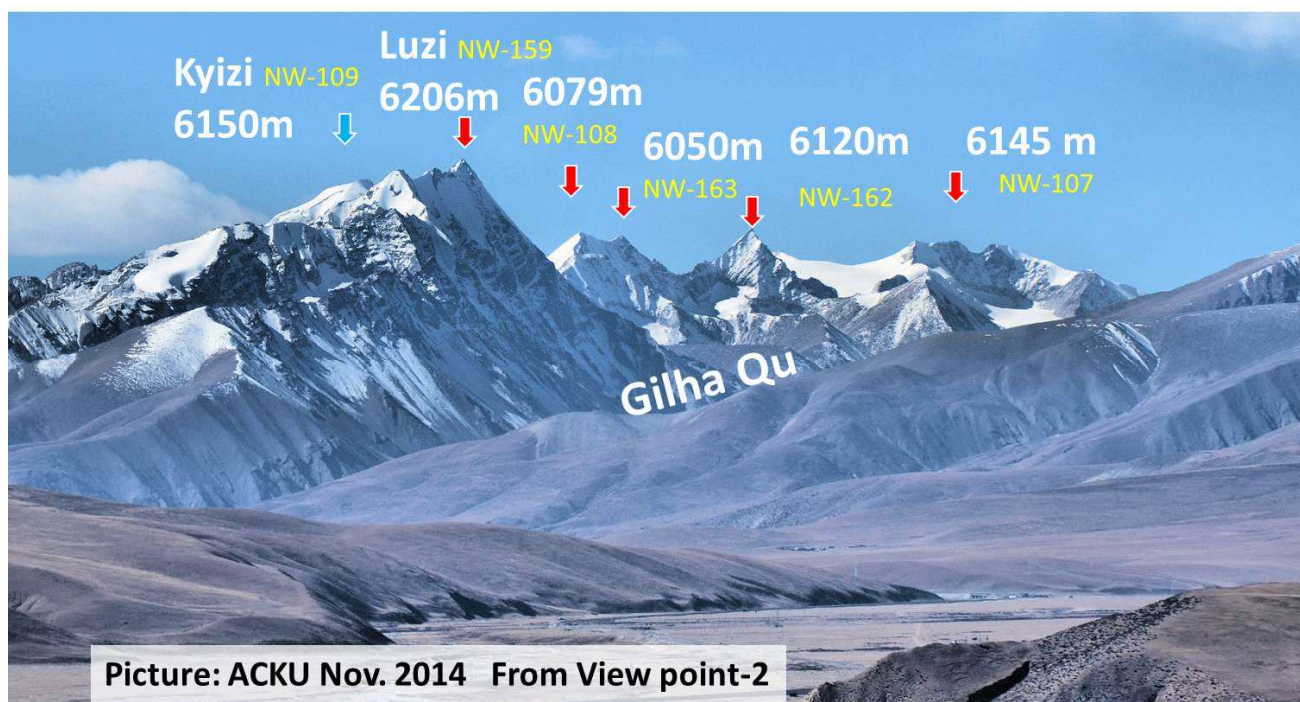


Fig-2)-20 キチ、ルチ山塊; View Point-2 より
Luzu and Kyizi Group from View Point-2

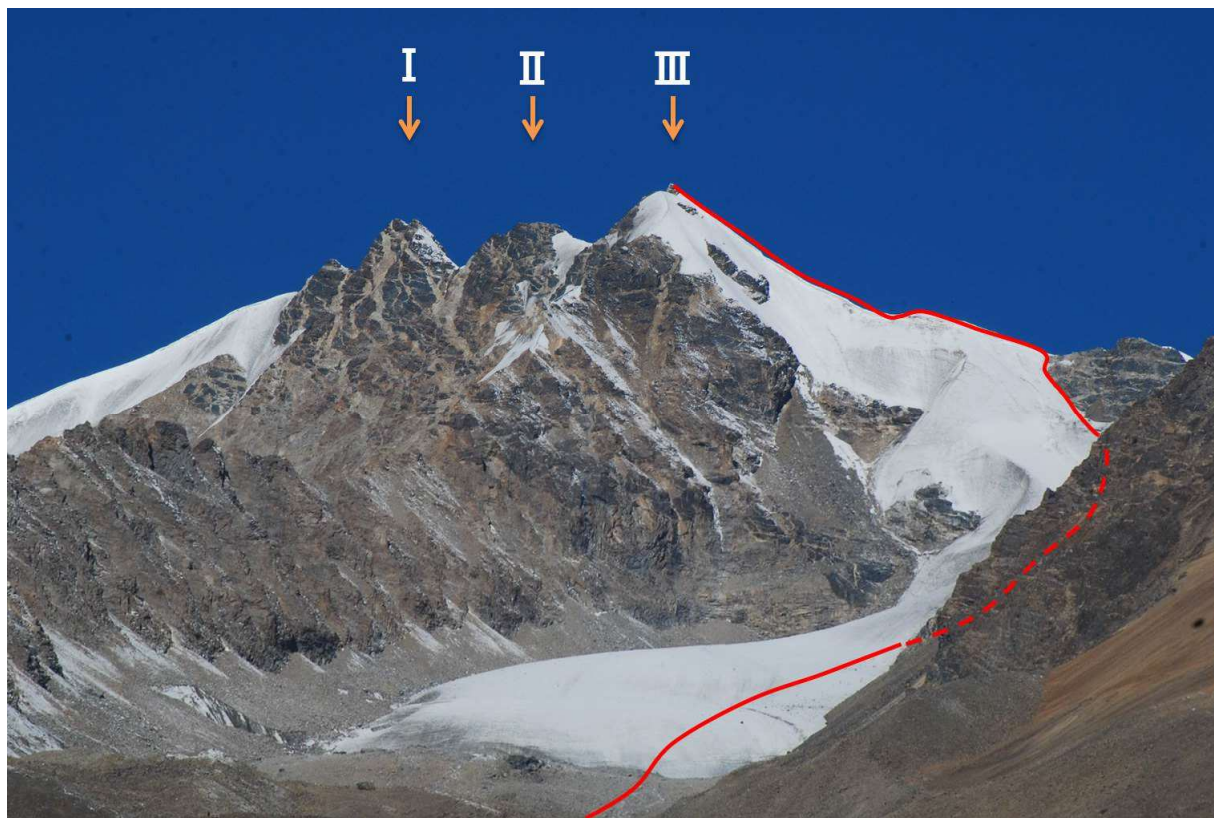


Fig-2)-21 Luzi , Climbed route , in 2011, from Yangbajain (South face)
第三峰: 2011年9月13日、日本未踏峰倶楽部隊が登頂。本峰は未踏
Luzi- I and II are still unclimbed



Fig-2)-22 3-peaks of Luzi
From Natsu village (East face)

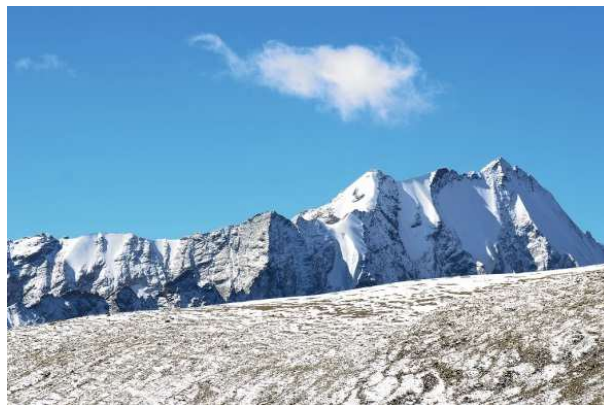


Fig-2)-23 3-peaks of Luzi
From Bada Ridge 5500m
(North-east face)

第三章 ショグラ峰周辺の山々(2015年調査隊による) Xoggu La

North-east area of Qungmo Kangri (7048m): Xoggu La

山形裕士 prof. Hiroshi Yamagata

2015年10月、登山隊と並行して調査隊が山群に残された未知の山々を探りにナム湖および雪格拉(ショグラ)エリアを訪れた。ナム湖では残念ながら雲に阻まれて調査活動は不発であったが、ショグラ(View Point-4,4A,4B)では好天に恵まれて、未知のNW-140峰(6400m)をはじめ、ソゲ峰(Suoge 6366m)やシャブ峰(Xabu 6340m)などを撮影することができた。

Pictures from Xoggu La (5290m) and Xoggula Peak (5800m) by the survey party in October 2015 provide us many images of un-identified peaks around Qungmo Kangri. They had also visited Nam Tso, but cloudy and bad weather prevented them from watching mountains.

In the area of View Point-4,4A and 4B (Xoggu La area), they could get pictures of NW-140 (6400m), Suoge (Soge 6366m), Xabu 6340m) and other 6000m-peaks under blue sky.

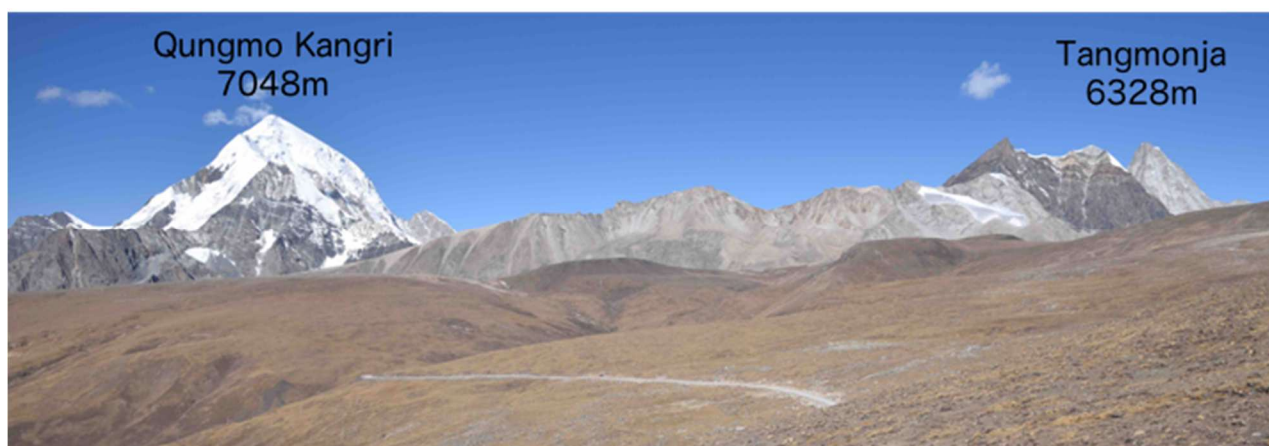


Fig-3)-1 Qungmo Kangri and Tangmonja (from North hill of Xoggu La)

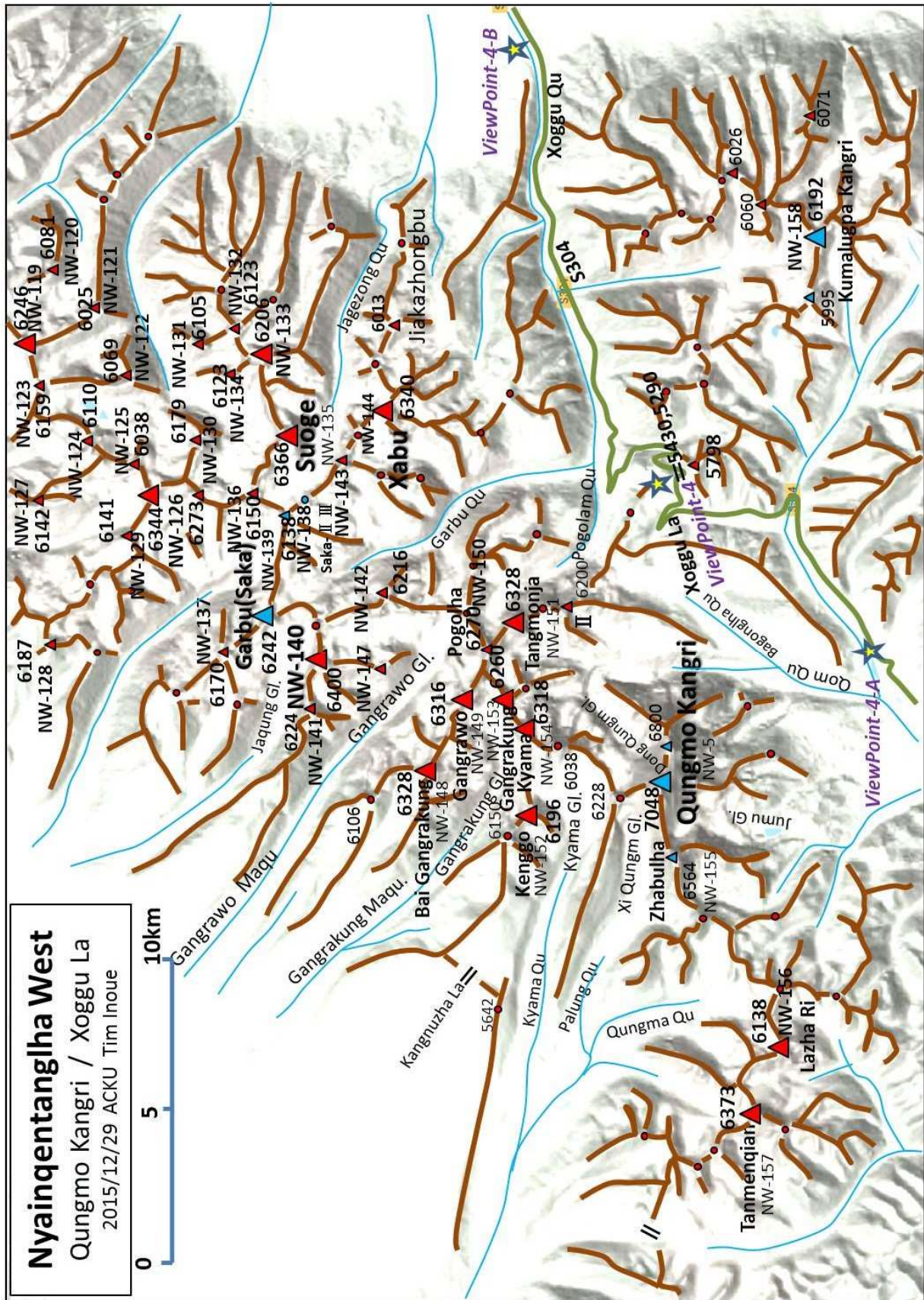
雪格拉 5290m の北の丘(5500m)は、Qungmo Kangri と Tangmonja の絶好の展望台である。



Fig-3)-2 East face of Qungmo Kangri 7048m
(from North hill of Xoggu La)

The north hill (a5500m) of Xoggu La (5300m) is the best lookout point to Qungmo Kangri and Tangmonja.

Qungmo Kangri 7048m は巨大な独立峰で羊八井付近からでも明確に識別できる。1996年に中国・韓国合同隊が南稜から初登頂に成功している。中国登山協会の李豪傑交流部長もこの隊に参加している。Fig-3)-2 の左の稜線が南稜である。その後に登頂した3隊もすべて南稜から登頂している。第2登(1997年)、第3登(1999年)は共に日本隊による。2005年に第4登を果たしたオーストリアのChristian Haasは単独で日帰り登頂に成功した。Tangmonja 岩峰群は雪も寄せ付けず屏風のように屹立している。



Map-9 Qungmo Kangri & Xoggu La area (View Point-4,4A,4B)

Qungmo Kangri (7048m) is an independently massive peak. We can clearly recognize her from Yangbajain area. In 1996, Chinese and Korean joint team made the first ascent of Qungmo Kangri from the south ridge. Mr. Li Haojie (Director of International Relation, China Mountaineering Association) joined the party as an interpreter. The left skyline ridge in Fig3)-2 is the south ridge of Qungmo Kangri.

Japanese two parties succeeded the second (1997) and third (1999) ascent of her. The climbing route was the same as the first ascent, through the south ridge. Austrian climber, Christian Haas made the fourth ascent as solo one-day climb in 2005.

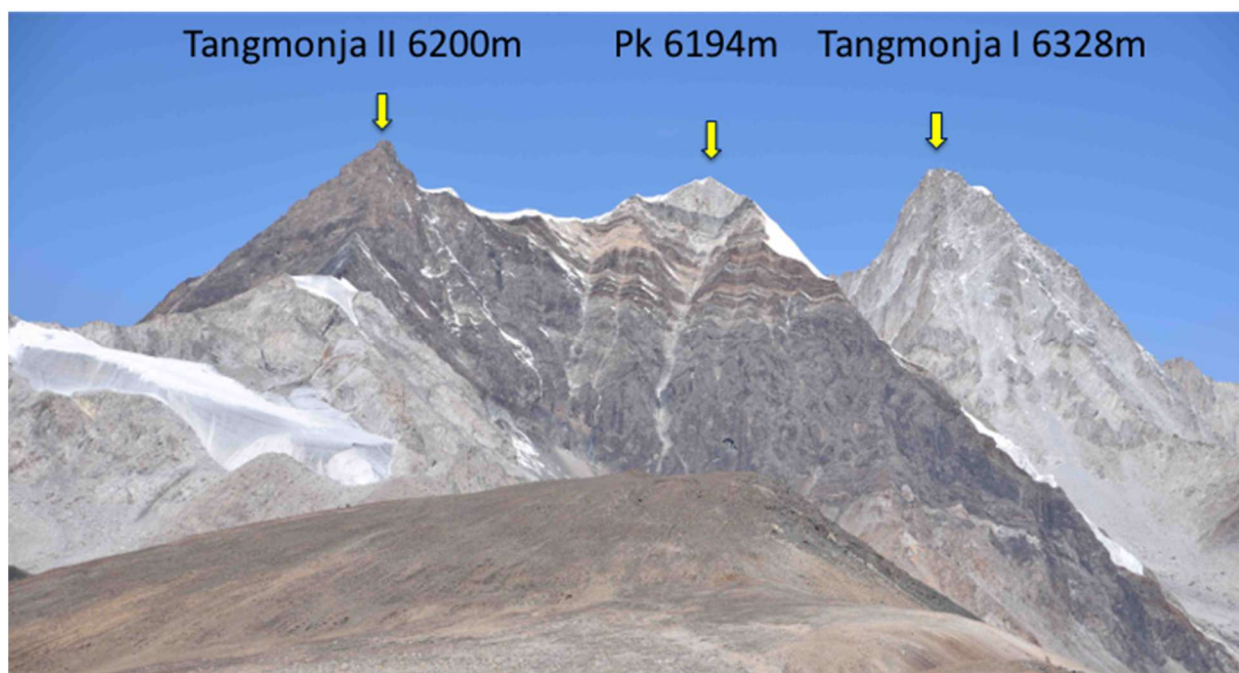


Fig-3)-3 East face of Tangmonja 6328m(NW-151) (from North hill of Xoggu La)

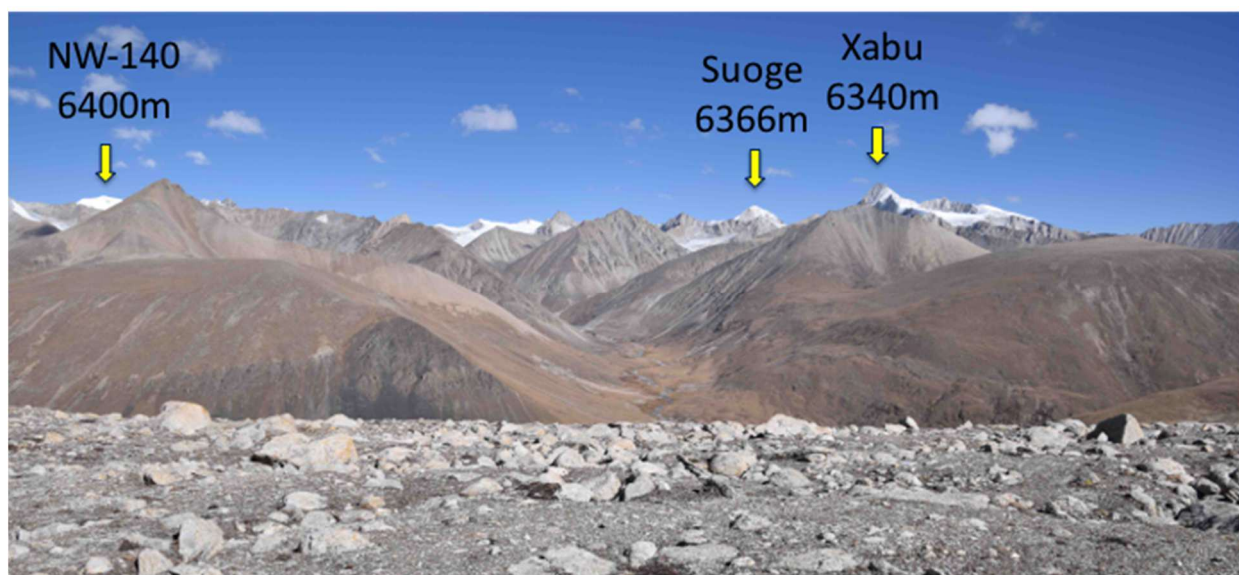


Fig-3)-4 NW-140 6400m, Suoge 6366m and Xabu 6340m
from North hill of Xoggu La

雪格拉の北の丘 (約 5500m) に登ると北方に NW-140 (6400m)、Suoge (6366m)、Xabu (6340m) などの未踏峰を望むことができる。NW-140 はこのあたりでは最も高く、豊富な雪を被り緩やかな稜線をもつ大きな山容が特徴的である。Xabu は頂上付近の南東側に広大な氷河を持っており、東面の道路からは見ることが出来ない。

We could watch NW-140(6400m), Suoge (6366m), Xabu(6340m) and other Six-thousanders in the northern view in front of the north hill (5500m) of Xoggu La. NW-140 (6400m) is the most eye-catching and the highest peak in this area that has gentle skyline and snow covered massive body. Xabu (6340m) has a large high altitude glacier near the south-east face of the summit pinnacle. We could not see the peak from the east road (S304).



Fig-3)-5 NW-140 6400m
from north hill of Xoggu La



Fig-3)-6 Xabu 6340m
from north hill of Xoggu La

SuogeはView-point 4BからJagezong Qu越しに東面も観察した。Suogeには日本未踏峰倶楽部が2013年9月に6100mまで試登している。

We looked the east face of Suoge in the deep valley of Jagezong Qu from the View Point-4B. In September 2013, Japan Unclimbed Peak Club went in to Jagezong Qu and tried to climb Suoge up to 6100m.



Fig-3)-7 South face of Suoge 6366m
from north hill of Xoggu La



Fig-3)-8 East face of Suoge 6366m
from view-point 4B



Fig-3)-9 South face of Zhabulha 6564m
from View Point-4A (NW-156)



Fig-3)-10 East face of Lazha Ri 6138m
from Mt. Xoggu La 5798m

次に、雪格拉からS304道路を南下し、View point 4A (29°51'36.87"N/90°6'16.33"E)からQungmo Kangriの南面を観察した。Qungmo Kangriの南稜越しにZhabulha (NW-155) 6564mが見えた。この山は2005年にChristian Haasによって登頂されている。

We went down to the View Point-4A (29°51'36.87"N/90°6'16.33"E) from Xoggu La and looked up the south face of

Qungmo Kangri. We could see Zhabulha (NW-155 6564m) beyond the south ridge of Qungmo Kangri. Mr. Christian Haas made the first ascent of Zhabulha in 2005.

雪格拉の南の山（雪格拉峰, Mt. Xoggu La）5798m に登ると多くの未踏峰を眺めることができた。西方では Qungmo Kangri の南西に聳える Lazha Ri 6138m が見えたが、Tanmenqian 6373m は Qungmo Kangri に隠れて見えなかった。Qungmo Kangri から北に延びる稜線にいくつかの 6000m 級岩峰が並んでいる。

Zhabulha Ri は 2005 年にクリスチャン・ハース氏が登頂している。

From the top of Xoggu La Peak (or Mt. Xoggu La 5798m, standing on the south ridge of Xoggu La), I could see many unclimbed peaks. I could recognize Lazha Ri (NW-156 6138m) standing on the south-western part of Qungmo Kangri. I could not see Tanmenqian (NW-157 6373m) that was hidden by Qungmo Kangri. Several rocky peaks stand on the north ridge of Qungmo Kangri.

Mr. Cristian Haas climbed Zhabulha Ri in 2005.

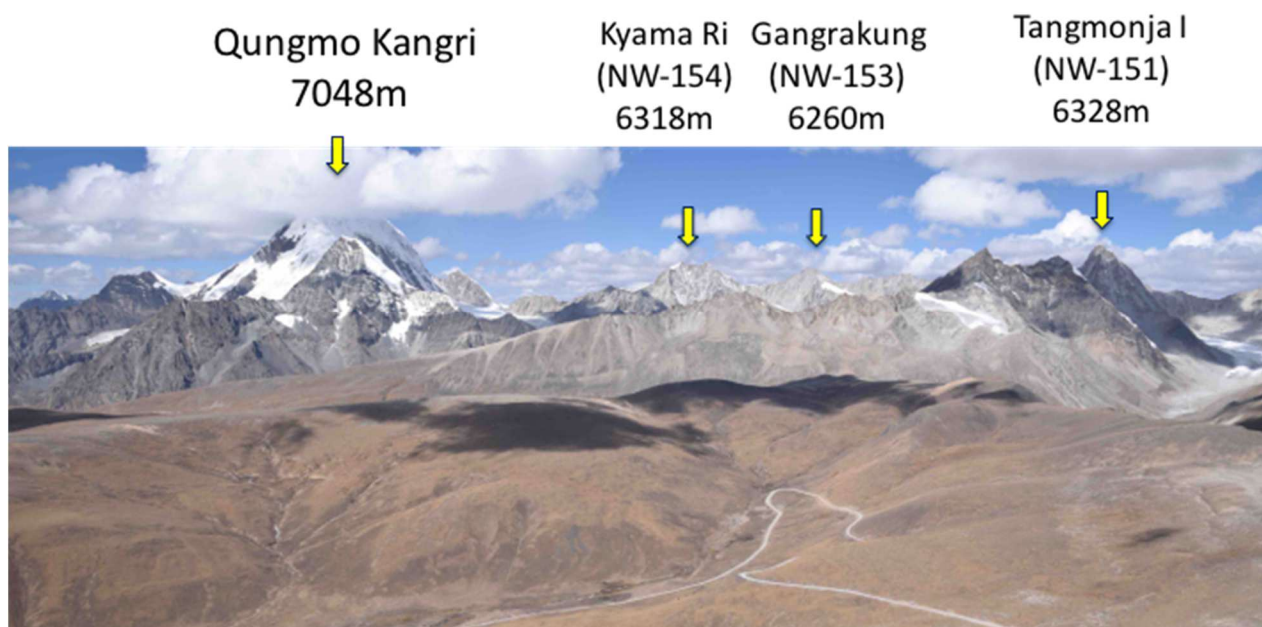


Fig-3)-11 Qungmo Kangri, Kyama Ri(NW-154), Gangrakung(NW-153) and Tangmonja(NW-151) from Mt. Xoggu La 5798m

Kyama Ri (NW-154 6318m)とその北の Gangrakung (NW-153 6260m)はどちらも険しい岩峰である。Qungmo Kangri の北方稜線はこのような岩峰が続いているが、この 2 峰以外にもいくつかの 6000m 以上のピークが確認された。

Kyama Ri (NW-154 6318m) and its' northern peak, Gangrakung (NW-153 6260m) are both rock peaks and look very steep. The north ridge of Qungmo Kangri continues rocky ridge and some six-thousanders were recognized.



Fig-3)-12 Kyama Ri (NW-154) 6318m from Mt. Xoggu La



Fig-3)-13 Gangrakung (NW-153) 6260m from Mt. Xoggu La



Fig-3)-14 Garbu (or Saka NW-139 6248m: climbed) from Mt. Xoggu La



Fig-3)-15 Kumalugpa Kangri (NW-158 6192m) from Mt. Xoggu La

雪格拉峰の頂上 (5798m) から北方を望むと、雪格拉北の丘から眺めることができた山々に加えていくつかの未踏峰を確認できた。Garbu Qu (ガープ谷) の源頭の Garbu 峰または Saka 峰(NW-139 6248m)は西面に雪を抱いた三角錐のピークで、1998年に日本隊が初登頂している。また、南東方向には Kumalugpa Kangri (NW-158 6241m) (既登峰,2013年)が確認できた。

雪格拉峰 (Mt. Xoggu La) から北東方向に多くの未踏峰の南面を見ることができた。これらは Kyizi と Luzi 以西の山々である。特に、これらの中で標高の高い NW-100 は顕著なピークとして確認できた。NW-100 は前述のように Ta Ri や View point- 2 から見られる幻のピークであるが、その南面も撮影することができた。

I recognized some unclimbed peaks in the north from the top of Xoggu La Peak (5798m) in addition to the peaks recognized from the north hill of Xoggu La (5500m). The west face of Garbu or Saka (NW-139 6248m; climbed by Japanese in 1988) looks pyramidal covered with snow. I could see Kumalugpa Kangri (NW-158 6241m, climbed in 2013) in the east.

I could see the south faces of many unclimbed peaks from the summit of Mt. Xoggu La (Xoggu La Peak). Those are in the western area of Kyizi-Luzi group. NW-100 is an outstanding peak in those peaks. NW-100 was an un-identified hidden peak which was unveiled by ACKU expedition in 2015 when they took pictures from the top of Ta Ri (6330m) and from the View Point-2 as described previously. I could pick a good picture of the south face of NW-100.

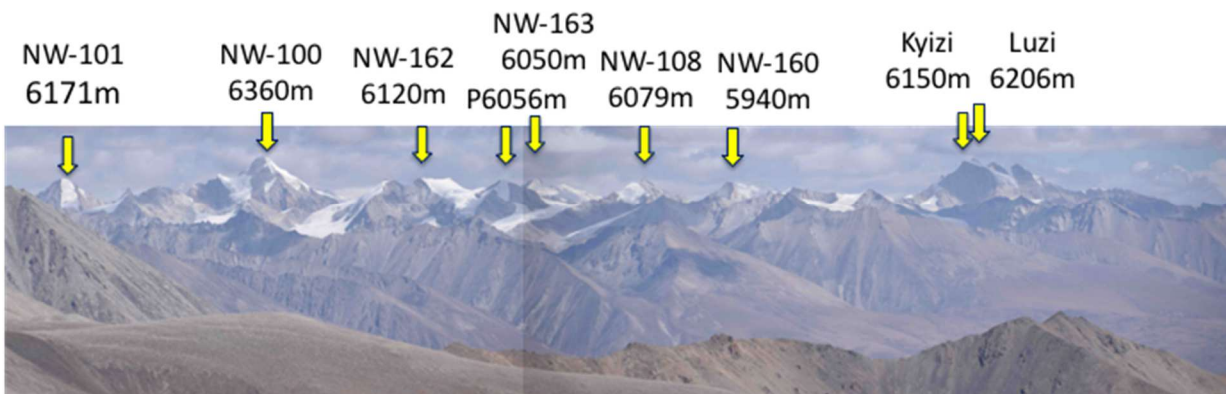


Fig-3)-16 North-east view from Mt. Xoggu La (5798m)



Fig-3)-17 from Mt. Xoggu La



Fig-3)-18 NW-100, 6360m from Mt. Xoggu La

Jiakazhongbu (6013m)東山麓の View point- 4B (29°57'12.02"N / 90°17'20.48"E) から、ニエンチェンタンラ山脈西山群の Kyizi と Luzi 以南の山々の東面のパノラマを撮影した。Suoge 峰から Kyizi 峰までの間に頂上に雪を抱いた高峰がいくつか認められた。

From the View Point-4B (29°57'12.02"N / 90°17'20.48"E) on the east foot hill of Jiakazhongbu (6013m), I could get a panorama picture of the east face of the southern area of Kyizi-Luzi group. I had recognized some high elevation snow covered peaks between Suoge and Kyizi.



Fig-3)-19A Panorama view (A) from view point 4B



Fig-3)-19B Panorama view (B) from view point 4B



Fig-3)-20 Jiakazhongbu 6013m
from view point 4B

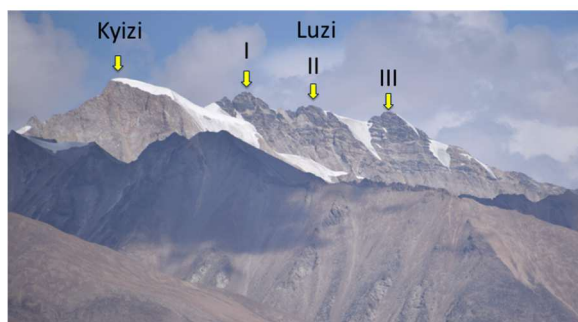


Fig-3)-21 Kyizi and Luzi
from view point 4B



Suoge 峰の南には Jiakazhongbu (6013m)をすぐ間近に仰ぐことができる。

We could see Jiakazhongbu (6013m) closely in the south of Suoge.

+++++

最後に念青唐古拉西山群の登山リストを表-2 に示す。現時点での調査結果であり、把握できていない登山隊があれば修正しなければならない。

Table-2: This history of the mountains is temporally released to know about activities of expeditions. Some expeditions may not be listed.

【参考資料 Reference】

1. Google earth [2016/1/5] Google Map
2. ASTER ASTGTM2 acquired on 2011/3/15
3. Map drawn by Mi Desheng 1/100,000 (Tibet Peoples Publishing House)
4. 2015 年計画書「登山隊と秘境の旅」(登山履歴) 日本未踏峰倶楽部 伊東亨
5. 「Nyainqentanglha-West Mountains」 Report 2010: Janusz Majer/ Jerzy Wala
6. 「East of the Himalaya ヒマラヤの東山岳地図集」中村保 (公)日本山岳会
7. <http://blog.goo.ne.jp/elderbp/e/a6794999bb0f181b03bdd9b418b5dc55>
「未踏峰ルーズ I 峰(6206m)初登頂記」 太田正秀
8. <http://blog.goo.ne.jp/oac0809/e/b3203f758b1e1b144d24322d4922da0e>
岡崎シニア山岳会 ブログ
9. <http://www.nmaj.org/tanoshii/kokusai/Kizu.pdf>
長野県山岳協会&西藏登山協会合同隊

表-2 Table-2 念青唐古拉西山群登山史(Climbing history of Nyainqentanglha West)

NO	Year	Season	Peak Name	M	Party	山名
1	1986	8-May	Nyainqentanglha Main	7162	1st ascent:west ridge:Tohoku University:Japan: AAJ1986	念青唐古拉山
2	1989	28-Jul	NyainqentanglhaCentral(Ⅲ)	7117	1st ascent: south west ridge:Aiustria: Wolfgang Axt	念青唐古拉山
3	1992		NyainqentanglhaCentral(Ⅲ)	7117	2nd ascent: China	念青唐古拉山
4		19-Oct	Samdain Kangsang	6590	1st ascent:east side:川上隊:Japan	桑丹康桑
5	1994		Tanglha Peak	6330	1st ascent?:Japan	唐古拉
6	1995	15-Aug	ギジⅡ(Kyizi)	6150	1st ascent:大阪隊:Japan	
7		22-Aug	Nyainqentanglha SE(Ⅳ)	7046	1st ascent:west side:中津川隊:Japan	
8	1996	7-Oct	Qungmo Kangri	7048	1st ascent:from east via south ridge:China-Koria Joint	窮母崗日
9	1997	11-May	ジャドウ(Jadu)	6088	1st ascent:east side : Nagano-Japan	
10		17-May	Qungmo Kangri	7048	2nd ascent:from east via south ridge:China-Koria Joint	窮母崗日
11			Qungmo Kangri	7048	attempt from west : Huw DaviesJohn Town	窮母崗日
12		7-Aug	No name (WSW of Kyizi)	6079	1st ascent: Japan-China Joint	
13		16-Aug	Kyizi	6150	Nagano-Japan and CTMA Joint	
14	1998	5-9-Aug	サカ(Saka)Ⅰ峰:Ⅱ(6224):Ⅲ(6170)	6380	1st ascent:Japan (Garbu ; NW-139 6248m)	
15		15-Aug	Qungmo Kangri	7048	3rd ascent:Japan	窮母崗日
16	1999	August	チュンゲー・チーブ	6122	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
17		August	チュンゲー・ローズ	6024	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
18		19-Sep	Yarlung Ri	6256	1st ascent: south east ridge:Cristian Haas, H/Pfaundler: Austria	
19	2000	22-Sep	White Pagoda(Chorten Garopo)	6415	1st ascent: north west ridge : E.Gatt, H.Pfaundler: Austria	
20		23-Sep	Golden Dragon	6653	1st ascent: north east side: E.Gatt, H.Pfaundler: Austria	
21			NyainqentanglhaCentral(Ⅲ)	7117	3rd ascent: John Otto:USA	
22	2001	September	ラー・ユン	6130	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
23		September	ユー・チー	6096	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
24		September	無名峰	6000	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
25	2002		Nyainqentanglha SE(Ⅳ)	7046	2nd ascent:Stefan Gatt: Austria	
26			Samdain Kangsang	6590	Attempt via sout-east ridge:UK	桑丹康桑
27		September	チュガ・チュシヤン	6008	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
28	2003		Samdain Kangsang	6590	China	桑丹康桑
29		September	Bartse Ri (Beu-tse)	6270	1st ascent (North Main peak): Rerek Buckle: AJ-2004: UK	
30	2004	September	チュガチュ・チン	6174	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
31		September	チュガ・ナラ	6020	1st ascent:日本未踏峰倶楽部:Japan	
32			Pajan Zhari	6221	1st ascent: Cristian Haas:Austria	
33			Gompa Garpo Ri	6232	1st ascent: Cristian Haas:Austria	
34	2005	16-Oct	Qungmo Kangri	7048	1st solo ascent: Criatian Haas: Austria	
35			Zhabulpa Ri	6564	1st ascent: Cristian Haas: Austria:	
36		September	Zhana Rizi	6214	1st ascent:日本未踏峰倶楽部(JAC福井):Japan	扎那日字
37	2006		Sha Mo Karpo Ri(White Cap)	6261	1st ascent: Cristian Haas: Austria:	
38			NyainqentanglhaCentral(Ⅲ)	7117	Alpine style: Criatian Haas: Austria	
39	2007	August	タンメンチエン	6373	attempt (5800m):日本未踏峰倶楽部:Japan	譚門千
40			Samdain Kangsang	6590	ascent: Tibet Mountaineering School: China	桑丹康桑
41		May	Kyizi	6150	Tibet Mountaineering School: China	
42	2009	30-Oct	P6204 (Langbu Qu)	6204	1st ascent: Bruce Normand,Yan Dongdong: UK-China	
43		7-Nov	P6286 (NW-65)	6286	1st ascent:south side: Bruce Normand: UK	
44		8-Nov	P6382 (NW-66)	6382	1st ascent: north east side: Bruce Normand: UK	
45	2010	August	タンメンチエン	6373	attempt: 日本未踏峰倶楽部: Japan	譚門千
46		13-Sep	ダカンリ	6247	1st ascent: 日本未踏峰倶楽部: Japan (Bartse Ri ?)	打杠日
47	2012	September	Luzi Ⅲ	6206	1st ascent: 日本未踏峰倶楽部: Japan: not main peak	
48	2013		タンメンチエン	6373	attempt: 日本未踏峰倶楽部: Japan	譚門千
49		16-Sep	Suoge (Soge)	6366	attempt (6100m): 日本未踏峰倶楽部: Japan	索格
50	2014	14-Sep	Kumalungpa Kangri	6192	1st ascent: west ridge: Li Shuang: China: AAJ2014	
51		22-Nov	Zhana Rizi	6214	Reconnaissance: Kobe University: Japan	Japan
52	2015	27-Oct	Ta Ri	6330	1st ascent: Bada Ri (6516) attempt: Kobe University: Japan	

